

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄	備考							
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンホッカイドウキョウイクダイガク 国立大学法人北海道教育大学								
フリガナ大学の名称	ホッカイドウキョウイクダイガクダイガクイン 北海道教育大学大学院 (Graduate School of Hokkaido University of Education)								
大学本部の位置	北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号								
大学の目的	学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力及び教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	学校現場における諸課題について、理論的・実践的研究を深め、教師としての使命を自覚し、学校全体を俯瞰して課題解決にあたるための高度な専門的能力及び実践力の形成を図り、子ども理解力、学習指導力、マネジメント力、連携・協働力及び実践的研究力を備えた人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学研究科 [Graduate School of Education] 専門職学位課程 [Professional Degree Course] 高度教職実践専攻 [Advanced Teacher Professional Development Programs] 計	2年	80人	—人	160人	教職修士（専門職） [Master of Education in Professional Development]	令和3年4月 第1年次	北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番6号	
	同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	教育学研究科（修士課程） 学校教育専攻（廃止）（△15） 教科教育専攻（廃止）（△61） ※令和3年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科 高度教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計	46単位			
教員組織の概要			専任教員等					兼任教員等	
	新設	教育学研究科（専門職学位課程） 高度教職実践専攻	教授 99人 (99)	准教授 90人 (90)	講師 17人 (17)	助教 0人 (0)	計 206人 (206)	助手 0人 (0)	4人 (4)
			— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	99 (99)	90 (90)	17 (17)	0 (0)	206 (206)	0 (0)	— (—)
	既設	教育学研究科（修士課程） 学校臨床心理専攻	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (2)
			— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
計		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)	
合計		103 (103)	93 (93)	17 (17)	0 (0)	213 (213)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体			
	事 務 職 員		199 人 (199)	63 人 (63)	262 人 (262)				
	技 術 職 員		8 (8)	0 (0)	8 (8)				
	図 書 館 専 門 職 員		15 (15)	9 (9)	24 (24)				
	そ の 他 の 職 員		11 (11)	45 (45)	56 (56)				
	計		233 (233)	117 (117)	350 (350)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	254,623㎡	0㎡	0㎡	254,623㎡				
	運 動 場 用 地	317,924㎡	0㎡	0㎡	317,924㎡				
	小 計	572,547㎡	0㎡	0㎡	572,547㎡				
	そ の 他	571,699㎡	0㎡	0㎡	571,699㎡				
	合 計	1,144,246㎡	0㎡	0㎡	1,144,246㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体			
		112,457㎡ (112,457㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	112,457㎡ (112,457㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	105室	376室	244室	10室 (補助職員 人)	12室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		高度教職実践専攻		206 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	教育学研究科 高度教職実践専攻	907,664 [108,212] (899,406 [107,598])	25,212 [6,060] (25,212 [6,060])	3,880 [3,880] (3,880 [3,880])	12,140 (11,604)	47 (47)	0 (0)		
	計	907,664 [108,212] (899,406 [107,598])	25,212 [6,060] (25,212 [6,060])	3,880 [3,880] (3,880 [3,880])	12,140 (11,604)	47 (47)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		9,730㎡		691	872,967				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
		13,374㎡		・テニスコート23面 ・弓道場1棟 ・武道場2棟					
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金）による
	教員1人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	図 書 購 入 費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設 備 購 入 費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—							

既設大学等の状況	大学の名称 北海道教育大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	教育学部	年	人	年次人	人				(札幌校) 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号
	教員養成課程	4	720	—	2880	学士(教育学)	1.03	平成18年度	
	国際地域学科	4	285	—	1140	学士(地域学) 学士(教育学)	1.00	平成26年度	(旭川校) 北海道旭川市北門町9丁目
	芸術・スポーツ文化学科	4	180	—	720	学士(芸術・スポーツビジネス) 学士(音楽文化) 学士(美術文化) 学士(スポーツ文化)	1.03	平成26年度	(釧路校) 北海道釧路市城山1丁目15番55号
	芸術課程	4	—	—	—	学士(芸術文化)	—	平成18年度	(函館校) 北海道函館市八幡町1番2号
	教育学研究科(修士課程)								(岩見沢校) 北海道岩見沢市緑が丘2丁目34番地1
	学校教育専攻	2	15	—	39	修士(教育学)	0.98	平成4年度	※令和3年度より学生募集停止予定 ※令和2年度入学定員減(△9人)
	教科教育専攻	2	61	—	157	修士(教育学)	0.63	平成4年度	※令和3年度より学生募集停止予定 ※令和2年度入学定員減(△35人)
	養護教育専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成10年度	※令和2年度より学生募集停止
	学校臨床心理専攻	2	9	—	18	修士(教育学)	1.27	平成14年度	
教育学研究科(専門職学位課程)									
	高度教職実践専攻	2	45	—	90	教職修士(専門職)	0.67	平成20年度	
	<p>名称：附属札幌小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：札幌市北区あいの里5条3丁目1番10号 設置年月：昭和26年4月 規模等：5,657㎡</p> <p>名称：附属札幌中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：札幌市北区あいの里5条3丁目1番11号 設置年月：昭和26年4月 規模等：7,612㎡</p> <p>名称：附属旭川小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：旭川市春光4条1丁目1番1号 設置年月：昭和26年4月 規模等：4,179㎡</p> <p>名称：附属旭川中学校 目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。 所在地：旭川市春光4条2丁目1番1号 設置年月：昭和26年4月 規模等：4,354㎡</p>								

附属施設の概要

名称：附属旭川幼稚園
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、大学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：旭川市春光5条2丁目1番1号
設置年月：昭和49年4月
規模等：694㎡

名称：附属釧路小学校（※）
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：釧路市桜ヶ岡7丁目12番48号
設置年月：昭和43年4月
規模等：3,559㎡

名称：附属釧路中学校（※）
目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：釧路市桜ヶ岡7丁目12番2号
設置年月：昭和44年4月
規模等：4,047㎡

（※）附属釧路小学校及び附属釧路中学校においては、上記の目的に加えて、急激な過疎化が進む北海道における義務教育学校のモデル開発などを行うため、既存の施設・設備を活用し、令和3年度に附属釧路義務教育学校を設置する予定

名称：附属函館小学校
目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：函館市美原3丁目48番6号
設置年月：昭和26年4月
規模等：4,527㎡

名称：附属函館中学校
目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施すとともに、本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：函館市美原3丁目48番6号
設置年月：昭和26年4月
規模等：3,626㎡

名称：附属特別支援学校
目的：知的障害・自閉症のある児童及び生徒に対して、小学校、中学校又は高等学校に準じ、特別に編成した教育課程による教育を行い、社会参加・自立ができるように、障害の状態及び能力・適性等に応じる教育を推進するとともに本学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：函館市美原3丁目48番1号
設置年月：昭和51年4月
規模等：3,934㎡

名称：附属函館幼稚園
目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、大学の教育計画に従い、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと、また、本学学生の教育実習を行うことを目的とする。

所在地：函館市美原3丁目48番6号
設置年月：昭和45年4月
規模等：635㎡

教育課程等の概要																	
(教育学研究科高度教職実践専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通必修科目	全コース	A 今日の学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	1①	1				○			1					※講義	
		A インクルーシブ教育の理念と教育課程	1④	1				○			1					※演習	
		B ICTを活用した教育の実践と課題	1③	1					○		1					※講義	
		B アクティブ・ラーニングの理論と実践	1②	1					○		1					※講義	
		B 特別支援教育の視点からの学習指導	1②	1					○			1				※演習	
		C 子どもの発達と学習	1①	1					○			1				※講義	
		C 教育相談の理論と実際	1④	1					○		1					※講義	
		C 生徒指導の実際と今日的課題	1③	1					○			1				※演習	
		D 学級・学年経営の理論と実践	1①	1					○			1				※演習	
		D 学校危機管理の実際と課題	1③	1						○						※講義	
		E 教師のメンタルヘルスとエンパワメント	1②	1						○		1				※講義	
		E 学校における組織的な人材育成と授業改善	1④	1					○		1					※演習	
			小計(12科目)	—	12	0	0			—		5	4	0	0	0	兼1
共通科目	学校組織マネジメントコース	D 学校組織マネジメントの理論	1②		1			○			1					※演習	
		D 管理職に求められるリーダーシップ	1①		1				○							※講義	
		E 学校運営と教育法規	1④		1				○		1					※演習	
		E 教員の働き方と校務の効率化	1③		1				○		1					※演習	
			小計(4科目)	—	0	4	0			—		3	1	0	0	0	
	教職キャリア形成・研修デザインコース	E 教師としてのキャリア・デザイン	1①		1				○			1					※演習
		D 学校運営におけるミドルリーダーの役割と課題	1③		1					○						※講義	
		A 授業研究の理論と実践	1②		1					○		1				※講義	
		D カリキュラム・マネジメントのためのデータの分析と活用	1④		1					○		1				※講義	
			小計(4科目)	—	0	4	0			—		1	2	0	0	0	
	子ども理解・学級経営コース	C 子どもと教師の関係づくり	1①		1					○		1					※講義
		C 子どもの問題行動の実際と実践的対応	1②		1					○						※講義	
		D 学級経営の実際と課題Ⅰ	1③		1				○		1					※演習	
		D 学級経営の実際と課題Ⅱ	1④		1					○		1				※講義	
			小計(4科目)	—	0	4	0			—		2	2	0	0	0	
	教科指導・授業開発コース	A 授業デザインの基礎	1①		1					○			1				※講義
		B 教科等横断的な視点に立った授業開発	1②		1				○			1				※演習	
		B 学習評価の理論と実際	1③		1					○		1				※講義	
		B 総合的な学習の時間の実践と課題	1④		1					○		1				※講義	
			小計(4科目)	—	0	4	0			—		2	1	0	0	0	
特別支援教育コース	A 特別支援教育の教育課程と授業の在り方	1①		1					○		1					※講義	
	C 特別支援教育における教育相談と保護者支援	1②		1					○			1			※講義		
	C 特別支援教育コーディネーターの役割と課題Ⅰ	1③		1					○		1				※講義		
	D 特別支援教育コーディネーターの役割と課題Ⅱ	1④		1				○		1					※演習		
		小計(4科目)	—	0	4	0			—		1	1	0	0	0		
養護教育コース	D 保健組織活動におけるマネジメント	1④		1					○			1				※講義	
	C 養護活動と保健教育	1②		1					○			1			※講義		
	C 養護実践の理論と方法	1①		1					○			1			※講義		
	E 子どもの心身の健康における協働的援助	1③		1					○		2				オムニバス ※講義		
		小計(4科目)	—	0	4	0			—		2	2	0	0	0		
定大科学指	全コース	教育実践研究へのアプローチ	1①	1					○			1				※講義	
		北海道の教育課題解決へのアプローチ	1②	1					○			1				※演習	
			小計(2科目)	—	2	0	0			—		1	1	0	0	0	
特色北海道教育領域大科学目の	全コース	地域性を生かした総合的な学習	1・2④		1					○		2				共同 ※講義	
		道徳教育の理論と実践	1・2②		1					○		1				※講義	
		プログラミング教育の実践と課題	1・2②		1						○		1			※講義	
		へき地・小規模校の実際と課題	1・2①		1				○		1	2				共同 ※演習	
		教育情報資源と学びの環境・指導	1・2③		1				○			1				※演習	
		個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ	1・2③		1					○			1			※演習	
		個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ	1・2④		1					○			1			※演習	
			小計(7科目)	—	0	7	0			—		3	5	0	0	0	

コース科目	専門科目	学校組織マネジメントコース	学校組織マネジメントの実践的展開	1②	1	○	1													※演習		
			学校経営戦略の分析と策定	1①	1	○	1															※演習
			社会に開かれた学校	1・2④	1	○	1				1											※演習
			教育行政マネジメントの理論と実際	1・2③	1	○	1				1											※演習
			学校事務の職務と連携方策	1・2②	1	○	1															※演習
		小計(5科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	5	0	—	—	—	—	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
		教職キャリア形成・研修デザインコース	教師の実践研究ネットワークの形成	1③	1	○	1				1	1										※講義
			学級・授業づくりを通じた教師支援	1②	1	○	1				1											※講義
			学校と教員の文化	1・2①	1	○	1				1	1										※演習
			校内研修デザインの理論と実践Ⅰ	1・2①	1	○	1				1											※講義
			校内研修デザインの理論と実践Ⅱ	1・2④	1	○	1				1											※講義
		小計(5科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	5	0	—	—	—	—	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		子ども理解・学級経営コース	子どもと社会	1①	1	○	1				5	4										一部オムニバス 一部共同 ※講義
			キャリア教育の実際と課題	1③	1	○	1				1	2										※演習
			授業における子どもの行動と心理	1②	1	○	1				1	5										一部オムニバス ※講義
			子ども理解のためのアセスメント	1④	1	○	1				1	5										オムニバス 一部共同
			学級経営と授業づくり	1・2①	1	○	1				1	3										※講義
			道徳を基盤とした学級経営	1・2③	1	○	1				2	1										
			現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり	1・2②	1	○	1				1	3										※講義
			教育課程編成と学級経営	1・2④	1	○	1				1	3										※講義
		小計(8科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	8	0	—	—	—	—	8	16	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
		国語科教育	教科教育研究の理論(国語科教育)Ⅰ	1①	1	○	1				3	1										
			教科教育研究の理論(国語科教育)Ⅱ	1②	1	○	1				2	2										
			教科教育研究の実際と展開(国語科教育)Ⅰ	1③	1	○	1				2	2										
			教科教育研究の実際と展開(国語科教育)Ⅱ	1④	1	○	1				1	3										
			教科内容の体系(国語科教育)Ⅰ	1①	1	○	1				5	7	2									一部オムニバス 一部共同
教科内容の体系(国語科教育)Ⅱ	1②		1	○	1				4	8	2									一部オムニバス 一部共同		
教科内容研究(国語科教育国語学分野)Ⅰ	1・2③		1	○	1				1													
教科内容研究(国語科教育国語学分野)Ⅱ	1・2①		1	○	1				1	1												
教科内容研究(国語科教育国語学分野)Ⅲ	1・2③		1	○	1						1											
教科内容・教材開発(国語科教育国語学分野)Ⅰ	1・2④		1	○	1				1													
教科内容・教材開発(国語科教育国語学分野)Ⅱ	1・2②		1	○	1					1												
教科内容・教材開発(国語科教育国語学分野)Ⅲ	1・2④		1	○	1						1											
教科内容研究(国語科教育国文学分野)Ⅰ	1・2③		1	○	1					1												
教科内容・教材開発(国語科教育国文学分野)Ⅰ	1・2④		1	○	1					1												
教科内容研究(国語科教育漢文学分野)Ⅰ	1・2③		1	○	1				1													
教科内容研究(国語科教育漢文学分野)Ⅱ	1・2①		1	○	1						1											
教科内容・教材開発(国語科教育漢文学分野)Ⅰ	1・2④		1	○	1				1													
教科内容・教材開発(国語科教育漢文学分野)Ⅱ	1・2②		1	○	1						1											
教科内容研究(国語科教育書道分野)Ⅰ	1・2③		1	○	1					1												
教科内容・教材開発(国語科教育書道分野)Ⅰ	1・2④		1	○	1					1												
小計(20科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	20	0	—	—	—	—	5	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0			
社会科教育	教科教育研究の理論(社会科教育)Ⅰ	1①	1	○	1				2	1	1									一部オムニバス 一部共同		
	教科教育研究の理論(社会科教育)Ⅱ	1②	1	○	1				1	2	1									一部オムニバス 一部共同		
	教科教育研究の実際と展開(社会科教育)Ⅰ	1③	1	○	1				2	1	1									一部オムニバス 一部共同		
	教科教育研究の実際と展開(社会科教育)Ⅱ	1④	1	○	1				1	2	1									一部オムニバス 一部共同		
	教科内容の体系(社会科教育)Ⅰ	1①	1	○	1				15	6	2									オムニバス 一部共同		
	教科内容の体系(社会科教育)Ⅱ	1②	1	○	1				15	6	2									オムニバス 一部共同		
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野)Ⅰ	1・2③	1	○	1				2	1												
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野)Ⅱ	1・2①	1	○	1				1													
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野)Ⅲ	1・2③	1	○	1					1												
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野)Ⅰ	1・2④	1	○	1				2	1												
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野)Ⅱ	1・2②	1	○	1				1													
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野)Ⅲ	1・2④	1	○	1					1												
	教科内容研究(社会科教育地理学分野)Ⅰ	1・2③	1	○	1				1	1												
	教科内容研究(社会科教育地理学分野)Ⅱ	1・2①	1	○	1				1													
	教科内容・教材開発(社会科教育地理学分野)Ⅰ	1・2④	1	○	1				1	1												
	教科内容・教材開発(社会科教育地理学分野)Ⅱ	1・2②	1	○	1				1													
	教科内容研究(社会科教育法律学分野)Ⅰ	1・2③	1	○	1					3												
	教科内容・教材開発(社会科教育法律学分野)Ⅰ	1・2④	1	○	1				3													
	教科内容研究(社会科教育社会学・経済学分野)Ⅰ	1・2③	1	○	1				1	1												
	教科内容研究(社会科教育社会学・経済学分野)Ⅱ	1・2①	1	○	1				1													
教科内容・教材開発(社会科教育社会学・経済学分野)Ⅰ	1・2④	1	○	1				1	1													
教科内容・教材開発(社会科教育社会学・経済学分野)Ⅱ	1・2②	1	○	1				1														
教科内容研究(社会科教育哲学・倫理学分野)Ⅰ	1・2③	1	○	1				1														
教科内容研究(社会科教育哲学・倫理学分野)Ⅱ	1・2①	1	○	1				2		1												
教科内容・教材開発(社会科教育哲学・倫理学分野)Ⅰ	1・2④	1	○	1				1														
教科内容・教材開発(社会科教育哲学・倫理学分野)Ⅱ	1・2②	1	○	1				2		1												
小計(26科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	26	0	—	—	—	—	15	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0			

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	算数・数学科教育	教科教育研究の理論(算数・数学科教育) I	1①	1	○		2	2	2				一部共同		
				教科教育研究の理論(算数・数学科教育) II	1②	1	○		2	2	2				一部共同		
				教科教育研究の実践と展開(算数・数学科教育) I	1③	1		○	2	2	1				一部共同		
				教科教育研究の実践と展開(算数・数学科教育) II	1④	1		○	1	2	2				一部共同		
				教科内容の体系(算数・数学科教育) I	1①	1		○	6	2	2				一部オムニバス		
				教科内容の体系(算数・数学科教育) II	1②	1		○	5	2	3				一部オムニバス		
				教科内容研究(算数・数学科教育代数学分野) I	1・2③	1		○	1		1				一部共同		
				教科内容・教材開発(算数・数学科教育代数学分野) I	1・2④	1		○	1		1						
				教科内容研究(算数・数学科教育幾何学分野) I	1・2③	1		○			1						
				教科内容・教材開発(算数・数学科教育幾何学分野) I	1・2④	1		○			1						
				教科内容研究(算数・数学科教育解析学分野) I	1・2③	1		○			2						
				教科内容研究(算数・数学科教育解析学分野) II	1・2①	1		○			1		1				
				教科内容・教材開発(算数・数学科教育解析学分野) I	1・2④	1		○			2						
				教科内容・教材開発(算数・数学科教育解析学分野) II	1・2②	1		○			1		1				
			小計(14科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	14	0	—	6	3	4	0	0	0			
			理科教育	教科教育研究の理論(理科教育) I	1①	1		○			3	1	2				一部オムニバス
				教科教育研究の理論(理科教育) II	1②	1		○			2	2	2				一部共同
				教科教育研究の実践と展開(理科教育) I	1③	1			○		3	1	2				一部オムニバス
				教科教育研究の実践と展開(理科教育) II	1④	1			○		2	2	2				一部共同
				教科内容の体系(理科教育) I	1①	1		○			10	3	2				一部オムニバス
				教科内容の体系(理科教育) II	1②	1		○			10	3	2				一部共同
				教科内容研究(理科教育物理学分野) I	1・2③	1		○			1						オムニバス
				教科内容研究(理科教育物理学分野) II	1・2①	1		○			1						一部共同
				教科内容研究(理科教育物理学分野) III	1・2③	1		○			1		1				オムニバス
				教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) I	1・2④	1			○		1						一部共同
				教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) II	1・2②	1			○		1						オムニバス
				教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) III	1・2④	1			○		1		1				一部共同
				教科内容研究(理科教育化学分野) I	1・2③	1		○			1	1					オムニバス
				教科内容研究(理科教育化学分野) II	1・2①	1		○			1						一部共同
				教科内容研究(理科教育化学分野) III	1・2③	1		○				1					オムニバス
				教科内容・教材開発(理科教育化学分野) I	1・2④	1			○		1	1					一部共同
				教科内容・教材開発(理科教育化学分野) II	1・2②	1			○		1						オムニバス
				教科内容・教材開発(理科教育化学分野) III	1・2④	1			○			1					一部共同
				教科内容研究(理科教育生物学分野) I	1・2③	1		○			2						オムニバス
				教科内容研究(理科教育生物学分野) II	1・2①	1		○			1	1					一部共同
			教科内容研究(理科教育生物学分野) III	1・2③	1		○			1	1					オムニバス	
			教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) I	1・2④	1			○		2						一部共同	
			教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) II	1・2②	1			○		1	1					オムニバス	
			教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) III	1・2④	1			○		1	1					一部共同	
			教科内容研究(理科教育地学分野) I	1・2③	1		○			2	1						
			教科内容研究(理科教育地学分野) III	1・2③	1		○			1							
			教科内容・教材開発(理科教育地学分野) I	1・2④	1			○		2	1						
			教科内容・教材開発(理科教育地学分野) III	1・2④	1			○		1							
			小計(28科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	28	0	—	14	7	3	0	0	0			
			音楽科教育	教科教育研究の理論(音楽科教育) I	1①	1		○			1	4	1				
教科教育研究の理論(音楽科教育) II	1②	1			○			1	4	1					一部共同		
教科教育研究の実践と展開(音楽科教育) I	1③	1				○		1	4	1					一部共同		
教科教育研究の実践と展開(音楽科教育) II	1④	1				○		1	4	1					一部共同		
教科内容の体系(音楽科教育) I	1①	1			○			2	1	1					一部オムニバス		
教科内容の体系(音楽科教育) II	1②	1			○			2	1	1					一部共同		
教科内容研究(音楽科教育声楽分野) I	1・2③	1			○			1							一部オムニバス		
教科内容研究(音楽科教育声楽分野) II	1・2①	1			○			1							一部共同		
教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) I	1・2④	1				○		1							オムニバス		
教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) II	1・2②	1				○		1							一部共同		
教科内容研究(音楽科教育器楽分野) I	1・2③	1			○			1							オムニバス		
教科内容研究(音楽科教育器楽分野) II	1・2①	1		○				1						一部共同			
教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) I	1・2④	1			○		1							オムニバス			
教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) II	1・2②	1			○			1						一部共同			
教科内容研究(音楽科教育音楽学分野) I	1・2③	1		○				2						オムニバス			
教科内容・教材開発(音楽科教育音楽学分野) I	1・2④	1			○			2						一部共同			
小計(16科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	16	0	—	4	6	1	0	0	0						
図画工作・美術科教育	教科教育研究の理論(図画工作・美術科教育) I	1①	1		○			3	1								
	教科教育研究の理論(図画工作・美術科教育) II	1②	1		○			3	1								
	教科教育研究の実践と展開(図画工作・美術科教育) I	1③	1			○		3	1								
	教科教育研究の実践と展開(図画工作・美術科教育) II	1④	1			○		3	1								
	教科内容の体系(図画工作・美術科教育) I	1①	1		○			5	4						オムニバス		
	教科内容の体系(図画工作・美術科教育) II	1②	1		○			5	4						一部共同		
	教科内容研究(図画工作・美術科教育絵画分野) I	1・2③	1		○			1	2						オムニバス		
教科内容・教材開発(図画工作・美術科教育絵画分野) I	1・2④	1			○		1	2						一部共同			

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	園画工作・美術科教育	教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ	1・2③	1	○		1														
				教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ	1・2①	1	○		1														
				教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ	1・2④	1		○		1													
				教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ	1・2②	1		○		1													
				教科内容研究（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	1・2③	1		○		1													
				教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	1・2④	1		○		1													
			小計（14科目）※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	14	0	—	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			保健体育科教育	教科教育研究の理論（保健体育科教育）Ⅰ	1①	1	○		2	2	1											兼1	
				教科教育研究の理論（保健体育科教育）Ⅱ	1②	1	○		2	2	1											兼1	
				教科教育研究の実践と展開（保健体育科教育）Ⅰ	1③	1		○	2	2	1											兼1	
				教科教育研究の実践と展開（保健体育科教育）Ⅱ	1④	1		○	2	2	1											兼1	
				教科内容の体系（保健体育科教育）Ⅰ	1①	1		○	4	4	1											兼1	
				教科内容の体系（保健体育科教育）Ⅱ	1②	1		○	4	4	1											兼1	
				教科内容研究（保健体育科教育体育学分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1												
				教科内容・教材開発（保健体育科教育体育学分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1												
				教科内容研究（保健体育科教育運動学分野）Ⅰ	1・2③	1		○	2	2	1												
				教科内容・教材開発（保健体育科教育運動学分野）Ⅰ	1・2④	1		○	2	2	1												
			小計（10科目）※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	10	0	—	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
			技術科教育	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅰ	1①	1	○		2	2	1												
				教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅱ	1②	1	○		2	2	1												
				教科教育研究の実践と展開（技術科教育）Ⅰ	1③	1		○	2	2	1												
				教科教育研究の実践と展開（技術科教育）Ⅱ	1④	1		○	2	2	1												
				教科内容の体系（技術科教育）Ⅰ	1①	1		○	2	4	1												
				教科内容の体系（技術科教育）Ⅱ	1②	1		○	2	4	1												
				教科内容研究（技術科教育木材加工分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1												
				教科内容・教材開発（技術科教育木材加工分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1												
				教科内容研究（技術科教育機械分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1												
				教科内容・教材開発（技術科教育機械分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1												
				教科内容研究（技術科教育電気分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1												
				教科内容・教材開発（技術科教育電気分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1												
				教科内容研究（技術科教育栽培分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1												
				教科内容・教材開発（技術科教育栽培分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1												
			教科内容研究（技術科教育情報分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1	1													
			教科内容・教材開発（技術科教育情報分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1	1													
			小計（16科目）※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	16	0	—	3	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			家庭科教育	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅰ	1①	1	○		3	1													
				教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅱ	1②	1	○		3	1													
				教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅰ	1③	1		○	3	1													
				教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅱ	1④	1		○	3	1													
				教科内容の体系（家庭科教育）Ⅰ	1①	1		○	5	3													
				教科内容の体系（家庭科教育）Ⅱ	1②	1		○	5	3													
				教科内容研究（家庭科教育食物学分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1														
教科内容研究（家庭科教育食物学分野）Ⅱ	1・2①	1			○			1															
教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅰ	1・2④	1			○	1																	
教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅱ	1・2②	1			○			1															
教科内容研究（家庭科教育被服学分野）Ⅰ	1・2③	1			○	1	1																
教科内容・教材開発（家庭科教育被服学分野）Ⅰ	1・2④	1			○	1	1																
教科内容研究（家庭科教育家政一般分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1																	
教科内容・教材開発（家庭科教育家政一般分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1																	
小計（14科目）※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	14	0	—	6	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
英語科教育	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅰ	1①	1	○		3	1																
	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅱ	1②	1	○		3	1																
	教科教育研究の実践と展開（英語科教育）Ⅰ	1③	1		○	3	1																
	教科教育研究の実践と展開（英語科教育）Ⅱ	1④	1		○	3	1																
	教科内容の体系（英語科教育）Ⅰ	1①	1		○	5	5																
	教科内容の体系（英語科教育）Ⅱ	1②	1		○	2	7																
	教科内容研究（英語科教育英語学分野）Ⅰ	1・2③	1		○			5															
	教科内容・教材開発（英語科教育英語学分野）Ⅰ	1・2④	1		○			5															
	教科内容研究（英語科教育英米文学分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1																	
	教科内容・教材開発（英語科教育英米文学分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1																	
	教科内容研究（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ	1・2③	1		○	1	1																
	教科内容・教材開発（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ	1・2④	1		○	1	1																
	小計（12科目）※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	12	0	—	6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

コース科目	専門科目	特別支援教育コース	障害のある子どもの理解と支援Ⅰ	1①	1		○			2	3						一部共同 ※演習				
			障害のある子どもの理解と支援Ⅱ	1③	1		○			2	2							一部オムニバス 一部共同 ※講義			
			特別支援教育のシステムと実際	1・2④	1			○			3	3							※講義		
			障害のある子どもの理解と支援Ⅲ	1・2②	1			○			1	3							※講義		
			障害のある子どもの理解と支援Ⅳ	1・2④	1			○			1	2							※講義		
			障害のある子どもの理解と支援Ⅴ	1・2①	1			○				3							※講義		
			現代社会と障害児・者	1・2②	1			○			2	1							※講義		
			発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援	1・2③	1			○			6	8							共同 ※演習		
			特別支援教育の現代的課題と教育実践	1・2④	1			○			6	8							共同 ※講義		
			特別支援教育の実践と理論	1・2③	1			○			6	7							一部オムニバス 一部共同 ※講義		
			特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅠ	1・2③	1			○			1	3							※講義		
			特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅡ	1・2④	1			○			1	3							※講義		
			インクルーシブ教育実地研究Ⅰ	1・2①～②	2			○			2	3							共同		
			インクルーシブ教育実地研究Ⅱ	1・2③～④	2			○			2	3							共同		
			小計(14科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	16	0				7	8	0	0	0	0	0	0			
コース科目	専門科目	養護教育コース	子ども・地域のアセスメントの理論と保健教育	1①	1		○			1							※講義				
			学校医療安全と子どもの安全への実践的対応	1③	1			○			1							兼1 オムニバス ※講義			
			学校における保健教育の意義と課題	1・2②	1			○			1										
			カリキュラム・マネジメントを踏まえた保健教育の実際	1・2①	1			○			1										
			保健組織活動とエンパワメント	1・2③	1			○				1							※講義		
			学校における医学的課題と探索的研究	1・2③	1			○			1								兼1 オムニバス ※講義		
			養護教諭の実践と研究的視点	1・2①	1			○			1								※講義		
			学校医療安全とリスク・クライシスマネジメント	1・2④	1			○			1								兼1 オムニバス ※講義		
			養護教諭の教育活動とキャリア形成	1・2④	1			○				1							※講義		
			保健室経営の位置づけ及び理論と実践	1・2②	1			○				1							※講義		
			生徒指導と学校カウンセリングの実際と課題	1・2②	1			○				1							※講義		
			小計(11科目) ※この他、複数コース対応科目から選択	—	0	11	0				3	2	0	0	0	0	0	兼1			
			コース科目	専門科目	複数コース対応	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	1・2①	1		○			1							※演習	
						いじめに関する理論と指導の実際	1・2③	1			○			1							※講義
						学校教育の現代的課題とその対応	1・2②	1			○			1							※講義
校務の情報化推進の理論と実践	1・2④	1						○										兼1 ※演習			
校種間接続カリキュラム構築の理論と実践	1・2③	1						○			1							※講義			
幼保小の連携と生活科教育	1・2④	1						○			1							※演習			
学校における外国語教育の推進	1・2④	1						○			3							オムニバス			
教育相談のケース・スタディ	1・2①	1						○				1	1					※講義			
生徒指導のケース・スタディ	1・2②	1						○					1					兼1 ※講義			
教育調査のための統計Ⅰ	1・2①	1						○			2	4							一部オムニバス ※講義		
教育調査のための統計Ⅱ	1・2②	1						○			1								※講義		
小計(11科目)	—	0				11	0				7	7	1	0	0	0	0	兼2	—		
コース科目	プロジェクト科目	特別支援教育コース以外				教育実践研究プロジェクトⅠ	1①～②	2			○		92	82	17						
						教育実践研究プロジェクトⅡ	1③～④	2			○		92	82	17						
						教育実践研究プロジェクトⅢ	1・2①～②	2			○		92	82	17						
			小計(3科目)	—	0	6	0			92	82	17	0	0	0	0	—				
		特別支援教育コース	教育実践研究プロジェクト(特別支援教育)Ⅰ	1①～②	2			○		7	8								※講義		
			教育実践研究プロジェクト(特別支援教育)Ⅱ	1③～④	2			○		7	8										
			教育実践研究プロジェクト(特別支援教育)Ⅲ	2①～②	2			○		7	8										
		小計(3科目)	—	0	6	0			7	8	0	0	0	0	0	0	—				
		科演習	全コース	実践論文	1・2③～④	2			○		99	90	17								
				小計(1科目)	—	2	0	0			99	90	17	0	0	0	0	—			
		実習科目	特別支援教育コース以外	教育実践研究実習Ⅰ	1通	5			○		92	82	17								
				教育実践研究実習Ⅱ	1・2通	5			○		92	82	17								
				小計(2科目)	—	0	10	0			92	82	17	0	0	0	0	—			
			特別支援教育コース	教育実践研究実習(特別支援教育)Ⅰ	1通	5				○	7	8									
				教育実践研究実習(特別支援教育)Ⅱ	2通	5				○	7	8									
小計(2科目) ※教育実践研究実習Ⅰ、Ⅱも選択可	—			0	10	0			7	8	0	0	0	0	0	—					
合計(280科目)			—	16	289	0		99	90	17	0	0	0	0	兼4	—					

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係
卒業要件及び履修方法			授業期間等
科目区分欄のA～Eは以下のとおり共通に開設すべき授業科目の領域を示す。			1 学年の学期区分 4期
A：教育課程の編成・実施に関する領域			1 学期の授業期間 8週
B：教科等の実践的な指導方法に関する領域			1 時限の授業時間 90分
C：生徒指導、教育相談に関する領域			
D：学級経営、学校経営に関する領域			
E：学校教育と教員の在り方に関する領域			
配当年次欄の開講時期は以下のとおり示す。			
①：第1クォーター開講科目、 ②：第2クォーター開講科目、 ③：第3クォーター開講科目、 ④：第4クォーター開講科目			
①～②：第1クォーターから第2クォーターを通して開講する科目、 ③～④：第3クォーターから第4クォーターを通して開講する科目、 通：通年科目			
以下のとおり46単位を修得する。			
○全コース共通			
・共通科目 18単位〔共通必修科目 12単位（必修）、コース必修科目 4単位（必修）、大学指定科目 2単位（必修）〕			
・北海道教育大学の特色ある領域科目 2単位（選択必修）			
○学校組織マネジメントコース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の必修 2単位は、「学校組織マネジメントの実践的展開」「学校経営戦略の分析と策定」の2科目2単位を修得。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの専門科目の他、複数コース対応科目（単位数の上限なし）及び他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
※複数コース対応科目は、「保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり」「いじめに関する理論と指導の実際」「学校教育の現代的課題とその対応」「校務の情報化推進の理論と実践」「校種間接続カリキュラム構築の理論と実践」「教育調査のための統計Ⅰ」「教育調査のための統計Ⅱ」から選択。			
・実習科目 10単位（必修）			
○教職キャリア形成・研修デザインコース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の必修 2単位は、「教師の実践研究ネットワークの形成」「学級・授業づくりを通じた教師支援」の2科目2単位を修得。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの専門科目の他、複数コース対応科目（単位数の上限なし）及び他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
※複数コース対応科目は、「保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり」「いじめに関する理論と指導の実際」「学校教育の現代的課題とその対応」「校務の情報化推進の理論と実践」「校種間接続カリキュラム構築の理論と実践」「学校における外国語教育の推進」「教育相談のケース・スタディ」「生徒指導のケース・スタディ」「教育調査のための統計Ⅰ」「教育調査のための統計Ⅱ」から選択。			
・実習科目 10単位（必修）			
○子ども理解・学級経営コース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（選択必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の選択必修 2単位は、「子どもと社会」「キャリア教育の実際と課題」「授業における子どもの行動と心理」「子ども理解のためのアセスメント」から2科目2単位を選択。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの上記科目を除く専門科目の他、複数コース対応科目（単位数の上限なし）及び他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
※複数コース対応科目は、「保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり」「いじめに関する理論と指導の実際」「学校教育の現代的課題とその対応」「幼保小の連携と生活科教育」「学校における外国語教育の推進」「教育相談のケース・スタディ」「生徒指導のケース・スタディ」「教育調査のための統計Ⅰ」「教育調査のための統計Ⅱ」から選択。			
・実習科目 10単位（必修）			
○教科指導・授業開発コース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（選択必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の選択必修 2単位は、「教科教育研究の理論（○○科教育）Ⅰ」「教科教育研究の理論（○○科教育）Ⅱ」「教科教育研究の実際と展開（○○科教育）Ⅰ」「教科教育研究の実際と展開（○○科教育）Ⅱ」「教科内容の体系（○○科教育）Ⅰ」「教科内容の体系（○○科教育）Ⅱ」から2科目2単位を選択。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの上記科目を除く所属教科の専門科目の他、本コースの所属外教科の専門科目、複数コース対応科目（単位数の上限なし）及び他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
※複数コース対応科目は、「保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり」「いじめに関する理論と指導の実際」「学校教育の現代的課題とその対応」「幼保小の連携と生活科教育」「学校における外国語教育の推進」「教育調査のための統計Ⅰ」「教育調査のための統計Ⅱ」から選択。			
・実習科目 10単位（必修）			
○特別支援教育コース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の必修 2単位は、「障害のある子どもの理解と支援Ⅰ」「障害のある子どもの理解と支援Ⅱ」の2科目2単位を修得。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの専門科目の他、他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
・実習科目 10単位（選択必修）			
※選択必修10単位は、「教育実践研究実習（特別支援教育）Ⅰ」「教育実践研究実習（特別支援教育）Ⅱ」の2科目10単位又は「教育実践研究実習Ⅰ」「教育実践研究実習Ⅱ」の2科目10単位を選択。			
○養護教育コース			
・コース科目 16単位〔専門科目 8単位（必修 2単位、選択必修 6単位）、プロジェクト科目 6単位（必修）、演習科目 2単位（必修）〕			
※専門科目の必修 2単位は、「子ども・地域のアセスメントの理論と保健教育」「学校医療安全と子どもの安全への実践的対応」の2科目2単位を修得。			
※専門科目の選択必修 6単位は、本コースの専門科目の他、複数コース対応科目（単位数の上限なし）及び他コースの専門科目（2単位を上限）の中から選択。			
※複数コース対応科目は、「教育調査のための統計Ⅰ」「教育調査のための統計Ⅱ」から選択。			
・実習科目 10単位（必修）			
〔履修科目の登録の上限〕			
年間38単位（短期履修学生制度を適用する場合は年間50単位）			

教育課程等の概要														
(教育学研究科高度教職実践専攻(既設))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	学校教育の課題と教員	1①	2				○		1					※講義
	「生きる力」を育む学級・学年経営の実際と課題	1①	2				○			1				※講義
	学びとカリキュラム	1①	2				○			1				※講義
	教科教育の実際と課題	1②	2				○			1				※講義
	特色ある学校作りと組織の活性化を図る学校経営の実際と課題	1②	2				○		1					※講義
	児童生徒理解とその指導方法	1②	2				○			1				※講義
	生徒指導の意義と今日的課題	1③	2				○			1				※講義
	これからの時代の学校教育の在り方	1③	2				○		1					※講義
	指導と評価の実践的展開	1③	2				○			1				※講義
	特別支援教育の理解と対応	1④	2				○			1				※講義
	「総合的な学習の時間」を創る	1④	2				○			1				※講義
	北海道の教育	1④	2				○			1				※講義
	小計(12科目)		—	22	1	0		—						
分野別選択科目	学校組織マネジメントの理論と実際	1④	2				○		1					※講義
	学校と家庭・地域との連携における成果と課題	1②	2				○			1				※講義
	学校組織マネジメント事例研究Ⅰ	1通	2				○							
	学校組織マネジメント事例研究Ⅱ	1通	2				○							
	学校組織マネジメント事例研究Ⅲ	2通	2				○							
	学校組織マネジメント事例研究Ⅳ	2通	2				○							
	教師に求められるリーダーシップと同僚性の今日的課題	1③	2				○		1					※講義
	授業研究の理論と実際	1①	2				○			1				※講義
	教職キャリア形成・研修デザイン事例研究Ⅰ	1通	2				○							
	教職キャリア形成・研修デザイン事例研究Ⅱ	1通	2				○							
	教職キャリア形成・研修デザイン事例研究Ⅲ	2通	2				○							
	教職キャリア形成・研修デザイン事例研究Ⅳ	2通	2				○							
	学級の主体性を育む教育実践活動	1③	2				○			1				※講義
	発達・学習支援の方法と実践的課題	1②	2				○			1				※講義
	子ども理解・学級経営事例研究Ⅰ	1通	2				○							
	子ども理解・学級経営事例研究Ⅱ	1通	2				○							
	子ども理解・学級経営事例研究Ⅲ	2通	2				○							
	子ども理解・学級経営事例研究Ⅳ	2通	2				○							
	教材開発・教材研究の方法と実践	1③	2				○			1				※講義
	授業づくりの実際	1①	2				○			1				※講義
	カリキュラム・授業開発事例研究Ⅰ	1通	2				○							
	カリキュラム・授業開発事例研究Ⅱ	1通	2				○							
	カリキュラム・授業開発事例研究Ⅲ	2通	2				○							
カリキュラム・授業開発事例研究Ⅳ	2通	2				○								
生徒指導の実際	1①	2				○			1				※講義	
特別支援教育コーディネーターの役割と課題	1②	2				○			1				集中 ※講義	
現代社会と生徒指導	1④	2				○				1			※講義	
子どもの逸脱行動への実践的対応	1④	2				○				1			※講義	
道徳教育の諸理論と授業づくり	1②	2				○			1				※講義	
小計(29科目)		—	0	58	0		—							—
学校における実習	学校課題俯瞰実習	1通		5				○						
	リーダー力育成基礎実習Ⅰ	1①・②	3					○						
	リーダー力育成基礎実習Ⅱ	1③・④	2					○						
	学校運営実習	1通		5				○						
	自己課題解決・検証実習	2①・②		5				○						
	学校課題解決・検証実習	2①・②		5				○						
小計(6科目)		—	10	15	0		—							
共通演習	マイオリジナルブック(MOB)作成	2通		2			○							
小計(1科目)		—	2	0	0		—							
合計(48科目)			—	34	74	0	—							
学位又は称号		教職修士(専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
共通科目22単位を修得する。								1学年の学期区分		4期				
分野別選択科目から、事例研究6単位を含む合計12単位を修得する。								1学期の授業期間		8週				
学校における実習10単位を修得する。								1時限の授業時間		90分				
共通演習2単位を修得する。														
履修科目の登録の上限:38単位(年間) (短期履修学生制度を適用する場合 50単位(年間))														

授業科目の概要			
(教育学研究科高度教職実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 全コース	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	<p><授業の概要> 教育課程編成の原理や歴史の変遷、その背景にある学習論や学力論、そして現在進められている教育改革について、理論的及び実践的に概観するとともに、国内外で進められるコンピテンシー・ベースの教育改革や学力調査の成果と課題、コンピテンシー・ベースのカリキュラム・マネジメントについて検討する。</p> <p><到達目標> 教育改革の背景にある学習論、学力論、カリキュラム・マネジメントを捉える三つの立場を理解し、教育課程を編成することができる。</p>	講義4回 演習4回
	インクルーシブ教育の理念と教育課程	<p><授業の概要> 「障害は関係性の中から生まれる」と言われるが、当事者の思いに寄り添い、「こころのかべ」を取り除き、望ましい環境を構築していくことこそがインクルーシブ教育の本質である。ICFの理念に学びながら、苦戦している子どもの適切なアセスメントと望ましい支援を行うための教育課程の在り方について考える。</p> <p><到達目標> ・「発達とは何か」「障害とは何か」といった視点から対話し、ICFやインクルーシブ教育の理念を理解することができる。 ・苦戦している子どもに対する適切なアセスメントと望ましい支援が検討できる。 ・環境の構成を中心とした望ましい教育課程を構想することができる。</p>	講義6回 演習2回
	ICTを活用した教育の実践と課題	<p><授業の概要> 本授業では、ICTに関わる学問的な知見及び先進的な教育実践を踏まえた上で、それらを活用した教育の実践と課題について考えるものである。その際、講義や演習を通じて、情報教育と教育の情報化を実現する授業を構想する資質や能力の修得を目指す。具体的な内容は、情報教育（プログラミング的思考）、教育の情報化（電子教科書、反転授業）、ポートフォリオ（クラッシャー）などである。上記に関わる講義及び演習を通じ、情報教育と教育の情報化を実現する授業を構想する資質や能力の修得を目指す。</p> <p><到達目標> ICTを活用した先進的な教育実践を踏まえ、情報教育と教育の情報化を実現する授業を構想することができる。</p>	講義4回 演習4回
	アクティブ・ラーニングの理論と実践	<p><授業の概要> 授業の概要は、主に次の三つから構成される。一つ目は「多様な教育方法を含むアクティブ・ラーニング」についてである。これは、アクティブ・ラーニングと一口に言っても、教科によってその形態や重点とすべきポイントなど、教科の特性に応じた相違点があるからである。学習理論の発展や認知心理学、メタ認知研究の成果も踏まえつつ講義を構成する。二つ目は「アクティブ・ラーニングの理論の構築」である。「そもそもなぜアクティブ・ラーニングということが言われるようになったのか」について、歴史的な経緯を理解し、各種学習調査の結果などを参考にしながら理解を深める。三つ目は「アクティブ・ラーニングの事例研究」である。アクティブ・ラーニングの事例研究については、小学校・中学校・高等学校といったように、校種に対応して変えなければいけない部分もあるが、共通して堅持しなければならない部分もあると考えられる。それらを明確にした上で講義を行い、個々の院生が新たな事例を開発するための指針を見出すことにつなげる。</p> <p><到達目標> 主体的・対話的で深い学びを実現するためのアクティブ・ラーニングの理論と実践について考究することができる。</p>	講義4回 演習4回

共通科目 全コース	特別支援教育の視点からの学習指導	<p><授業の概要> 特別支援教育の理念や課題を捉えた上で、特別支援を有する子どもの学習支援・指導の在り方について検討する。学び方の異なる子どもの認知特性を理解し、一人一人の子どもに応じた教材や支援方法について考察していく。教材や支援方法においては、ユニバーサルデザインの考え方を理解し、実践への応用について検討する。</p> <p><到達目標> 通常学級に在籍する学び方の違う子どもたちの実際を知り、アセスメントに基づいた望ましい授業を構想することができる。</p>	講義7回 演習1回
	子どもの発達と学習	<p><授業の概要> ・発達・学習の概念を再構築し、発達と学習の過程について学びほぐす ・自らの教育実践が発達・学習を促進するデザインであるかを検討し、課題を探し出す ・子どもにとって効果的な発達支援、学習支援の方法について、子どもを主体的な学習者に育てるための学習環境デザイン、即興的な活動を含む教育実践、アセスメントと評価の観点から学ぶ</p> <p><到達目標> 子どもの発達や学習過程における基礎的な知識を身に付けるとともに、子どもの発達や認知特性に応じた学習指導を構想することができる。</p>	講義4回 演習4回
	教育相談の理論と実際	<p><授業の概要> 児童生徒理解の充実を図る上で、生命線である教育相談の意義や具体的な方法などについて、理解を深めるとともに実践的に学んでいく。授業を通して、以下に示す三つの資質・能力を身に付ける。 (1) 児童生徒理解の意義と指導方法について理解を深め、実践的な指導力を身に付ける。 (2) 集団指導や個別指導の意義や目的について理解を深め、実践的な指導力を身に付ける。 (3) カウンセリングの具体的な方法について理解を深め、実践的な指導力を身に付ける。教育相談におけるカウンセリング理論を学ぶ。</p> <p><到達目標> 教育相談におけるカウンセリングの理論を理解するとともに、教育相談の実際を学び、自らの実践に役立てることができる。</p>	講義4回 演習4回
	生徒指導の実際と今日的課題	<p><授業の概要> 生徒指導は学校教育で重要な機能を有している。生徒指導の理念や意義などを捉え、児童生徒を取り巻く諸問題と対処・支援の在り方について検討する。生徒指導上の問題のひとつである「いじめ」「不登校」における児童生徒理解、学校組織、そして保護者対応について、理解を深めていく。そして、危機対応における「心のケア」の実際について考察していく。学校教育における生徒指導の捉え方、実践的な対処方法について事例をもとに検討する。</p> <p><到達目標> 子どもの問題行動の背景や児童生徒理解の方法を習得し、広い視野から問題を分析し、解決にあたることができる。</p>	講義6回 演習2回
	学級・学年経営の理論と実践	<p><授業の概要> 本授業は、児童生徒の望ましい人間関係づくりのかまえや在り方など、円滑な学級経営を推進するための知識を獲得することを目標としている。それに加え、学級アセスメントの方法や実践例を示しながらのワークショップなどを通して、学級集団を理解し、学級・学年経営をデザインする力量を向上させることを目標としている。</p> <p><到達目標> 望ましい関係づくりや円滑な経営を推進する知識を獲得するとともに、様々な実践を批評し、それらを柔軟に活用する力量を向上させることができる。</p>	講義6回 演習2回
	学校危機管理の実際と課題	<p><授業の概要> 学校における危機管理の目的と範囲、現状、課題を理解するとともに、リスクマネジメントの理論に基づき、危機の未然防止策を具体的な事例に即して立案し、検討する。さらに、クライシスマネジメントの考え方に立ち、事故発生時の初期対応、中・長期対応について、具体的な方策と課題を検討する。授業形態として、講義、グループ討論、全体発表・交流、ロールプレイング、授業の振り返り等を組み合わせる。多様な考えや多角的な視点を学びながら、一人一人の考えの深化を図る。</p> <p><到達目標> 学校危機管理の目的と範囲、現状、課題を理解するとともに、危機への予防意識を高め、具体的な事例についての未然防止策を幅広い視点から構想し、具体化する実践力を養うことができる。</p>	講義4回 演習4回

共通科目	共通必修科目	全コース	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	<p><授業の概要> 文部科学省の「教職員のメンタルヘルス最終報告」によると、精神疾患による教員の病気休職者数は依然として高水準にあり深刻な状況である。さらに学校教育は、教職員と児童生徒との人格的な触れ合いを通じて行われるため、教職員が心身ともに健康で教育に携わることが重要である。したがって、教職員本人の「セルフケア」の促進が求められている。そのような現状を理解し、ストレスマネジメント教育を基盤とした予防策を教職員個人と職員集団の両面から考察する。</p> <p><到達目標> 教師のメンタルヘルスの実態と課題を理解し、メンタルヘルス向上のための自分に合ったコーピングを習得するとともに、ストレス軽減のための学校組織の在り方等を考察することができる。</p>	講義4回 演習4回
			学校における組織的な人材育成と授業改善	<p><授業の概要> 学校における組織的な人材育成を行う理論と方法を検討し、その育成を継続化できる場と学び続ける教員集団を構築するための授業改善の在り方を見出す。はじめに、教員に求められている資質能力を、「教員の育成指標」をもとに、答申等から明らかにしていく。さらに、北海道教育委員会等が実施している「初任者研修」等の内容等から、人材育成において重視すべき部分を見出し、どのように進められているのか把握していく。そして、資質能力を育成するために、学校現場でも、どのように組織的に進められているのか、校長等の示す事例をもとに、院生の実体験と比較しながら協議を重ね確認していく。また、資質能力の育成で最も重視すべき「授業改善を実施する場面としての校内研修」は、どのような態勢が望ましいのか、協議していく。さらに、メンタリング研修及びメンター研修は、どのような切り口で推進されているのか、学習する組織の構築を意識しながら、具体的な実践例をもとに、実験・実習により成果を確かめていく。特に、本専攻での学びの中心となる「理論知と実践知」の往還的な関係を具体的に実現するため、学びのプロセスに「実直な語り（ナラティブ・アプローチ）」と「省察（振り返り）」を取り入れ、学びの変容と深化の具現化を図っていく。</p> <p><到達目標> 組織的に人材育成を行う理論と方法を理解し、学び続ける教員集団を構築するための方法を考察することができる。</p>	講義5回 演習3回
	コース必修科目	学校組織マネジメントコース	学校組織マネジメントの理論	<p><授業の概要> 学校は公教育の理念を実現するために設置・運営されている教育専門機関である。そして、このことを実現するためには、主体的かつ自律的な組織体としての活動が求められる。そこで、本講義では、学校組織マネジメントの理論を整理するとともに、これらを先進校の事例や受講生の勤務校の課題と関連させ、理論と実践の往還を図り、学校改善のための課題発見・課題解決の基本的な視点を探求することを目指す。</p> <p><到達目標> 学校組織の特性を踏まえるとともに、先進校の事例に基づく協議を通して、勤務校の課題や改善策を考察することができる。</p>	講義6回 演習2回
			管理職に求められるリーダーシップ	<p><授業の概要> 新時代の学校課題に直面する学校組織のリーダーとして、いま学校管理職にはどのような役割が求められているのかを明らかにする。働き方改革や人材育成、保護者・地域との連携をはじめとした様々な教育課題の克服はもちろんのこと、管理職として自身の理念をどう周知し、周囲の人材と連携していくことができるか、リーダーシップ論を踏まえ、具体的な課題解決の方策を探る。スクールリーダーとしての資質・能力の向上に向けたプランや協働の具体化について構想する。</p> <p><到達目標> 新学習指導要領・働き方改革等を実現するための役割・課題を考察し、リーダーシップの理論と実践に関する知見を探究することができる。</p>	講義4回 演習4回
			学校運営と教育法規	<p><授業の概要> 学校はおよそ法律とは無関係に独立して運営されているものではなく、実は法律と深いつながりにおいて営まれている。とりわけ、教育法規を正しく理解し運用していくことが、如何に適切な学校の管理運営、学校事故、生徒指導等の危機管理対応などにつながっていくのか、様々な判例や学校現場で起こった具体的な事例をもとに講義・演習を通してその理解を深める。</p> <p><到達目標> 学校運営の基盤となる法規を理解し、具体的な事故や判例、ケースに基づいて、学校運営の在り方を考察することができる。</p>	講義5回 演習3回

共通科目	コース必修科目	学校組織マネジメントコース	<p>＜授業の概要＞</p> <p>「社会に開かれた教育課程」の目指すべき方向性と働き方改革の目指すべき方向性は、重なる部分が多々あり、整理したその先に、これから目指すべき学校の姿があると考えられる。つまり、学校教育そのものを、どうすべきか構想することが重要になる。そのために、授業のスタートとして、まず教員の多忙化、職務の増大の実態と課題を踏まえ、教員勤務実態調査やTALIS（国際教員指導環境調査）等を分析し、多様な視点から負担軽減や効率化のための方法を考察していく。</p> <p>働き方について教職員自身（特に管理職）が自覚する（意識改革）ことが大切である。まず、働き方改革の概要について答申等をもとに確認する。さらに、チーム学校として同僚性を発揮し、ボトムアップ型の協議を進めている公立学校の実践事例を参照し、継続可能な態勢を見出す。加えて「日本型学校教育」の良さを維持しつつ、組織・業務改善について、多種多様な実践例（ICTの活用）をもとに比較検討していく。それらの協議の中で、「部活動の在り方」や「生徒指導の進め方」、「校務支援システムの活用法」等が効率化のポイントになると捉えている。最終的に、地域学校協働本部、コミュニティ・スクールなどの制度を活用し、学校教育目標を地域社会と共有・連携して実現していくことが大きな流れになる。そのことを基盤に、業務の効率化を図る方策を探っていく。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>教員の多忙化、職務の増大の実態と課題を踏まえ、負担軽減や効率化のための体制や方法を考察することができる。</p>	講義5回 演習3回
		教師としてのキャリア・デザイン	<p>＜授業の概要＞</p> <p>「学び続ける教員像」という言葉に代表されるように、教師という職業はその専門性から絶えず学び続けなければならないとされている。そしてこのことを制度上保証するため「教員育成指標」や「教員研修計画」等の整備が重要となる。一方で、今日までの教師教育研究を紐解くと、ライフヒストリー研究や、キャリア発達研究に関連するものが多数存在している。これらを踏まえ本講義では、教師教育に関する制度を理解しつつ、教師の専門性に着目したキャリア・デザインの在り方について検討していく。なお、本科目は基本的に講義を中心とするものの、ミニ演習も盛り込んでいく。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>教師のキャリア発達研究と教師教育に関する制度の対比を通して、教師のキャリア・デザインの方針や具体を考察することができる。</p>	講義6回 演習2回
		学校運営におけるミドルリーダーの役割と課題	<p>＜授業の概要＞</p> <p>ベテラン教員の減少・若手教員の増加に伴う教員年齢構成の変化や、複雑さを増す学校経営の円滑な実施を志向して行われる学校経営改革を踏まえ、学校組織におけるミドルリーダーの位置と役割を明らかにする。その際、ミドルリーダーが置かれる現実にも目を向け、人生のミドル期としての側面にも配慮した働き方にも目を向ける。さらに、世代継承の具体的な理論と方法を探り、自校の現状も振り返りながら具体的な取り組みを創造していく。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>学校におけるミドルリーダーの役割を理解し、協働的な職場環境構成や人材育成を推進する手立てを構想することができる。</p>	講義4回 演習4回
		授業研究の理論と実践	<p>＜授業の概要＞</p> <p>国内外で行われている授業研究の歴史の変遷、多様な方法論を概観するとともに、現在諸外国から注目を集めている日本の校内授業研究（Lesson Study）や教師のみとりに焦点をあてた授業研究法を試行し、それぞれの授業研究法の成果と課題、深い省察を促す授業研究法を検討する。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>国内外で推進されている授業研究の系譜を踏まえ、深い省察を促す授業研究法を実践・推進することができる。</p>	講義3回 演習5回
		カリキュラム・マネジメントのためのデータの分析と活用	<p>＜授業の概要＞</p> <p>学校の自主性・自律性が謳われる中、各学校は、学校としてのカリキュラム・マネジメントを機能させ、教育活動の質の向上を図ることが重視されている。そしてこの前提として、子ども・学校・家庭・地域の実態把握（アセスメント）や、教育課程の実施状況の適切な評価活動のような、データの作成・評価方法がポイントとなってくる。</p> <p>そこで本講義では特にこの点に着目し、量的・質的調査の基礎基本を理解し、学習データの分析や学校評価アンケート等への活用の実践を検討することで、量的・質的データを学校の諸活動に適切に活用させる方法やその限界について学んでいく。</p> <p>＜到達目標＞</p> <p>子ども、保護者、教員を対象とした調査方法の基礎を理解し、データを分析・活用する方法と視点を習得することができる。</p>	講義4回 演習4回

共通科目	コース必修科目	子ども理解・学級経営コース	子どもと教師の関係づくり	<p><授業の概要> 教師と子ども、それぞれの実態は時代により変化している。とりわけ昨今ではいじめや不登校といった教育問題の事例も多様化しており、教師という役割を持った大人が子どもとどのように関係性を構築し教育活動を進めていくかについて、一本化された指針を出すことは不可能に等しい。本講義では、臨床教育学及びその近隣領域の立場から、一般化可能な理論と個別を吟味する視点双方を往還しながら子どもと教師の関係性について議論を展開していく。具体的には、まず生徒指導実践の基盤となる子ども理解を促すための指導支援について学修を進め、さらに学校、学級経営における現場経験者を中心としたワークショップの在り方や、カウンセリング・特別支援教育に関する理解の深化を進めていく。</p> <p><到達目標> 生徒指導、教育相談、キャリア教育、道徳教育、特別活動、地域との連携、特別支援の捉え等を総合的に加味し、子ども理解をベースにより良い関係づくりを推進する資質能力の育成を考察することができる。</p>	講義4回 演習4回
			子どもの問題行動の実際と実践的対応	<p><授業の概要> 生徒指導提要进行を参考に、生徒指導の意義やその在り方について理解を深め、様々な事例事案を通して、子どもの問題行動の傾向と変化について交流を図り学ぶ。また、地域のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所等の関係機関との連携の在り方について学び、実践的な対応を検討する。</p> <p><到達目標> 子どもの問題行動の類型と傾向、生徒指導の実際を踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携方法を検討することができる。</p>	講義4回 演習4回
			学級経営の実際と課題Ⅰ	<p><授業の概要> ・学級経営の理論に基づき、学級経営の在り方を具体的な学級経営における事例をもとに分析、考察し、学級経営案を作成する。 ・児童・生徒理解の上に立った学級集団づくりについてゲストティーチャーの理論、実践を学び、ワークショップ等を通して深める。 ・児童生徒の側に立ち、能動的な学びの視点から学習環境を総合的にデザインすることの意味と方法を事例から学び、学級経営の中で具体的に計画する。</p> <p><到達目標> 望ましい学級集団づくりが展開している学級経営を取り上げ、演習等から分析・考察を行い、より有用な実践の在り方を検討することができる。</p>	講義5回 演習3回
			学級経営の実際と課題Ⅱ	<p><授業の概要> 本授業では、ゲストティーチャーによる問題提起と協議を通して、学級経営に関する今日的な課題を明らかにした上で、その解決方法について討論を行う。そして、SEL(社会性と情動の学習)、ピア・サポート、応用行動分析学の理論を学習した上で、学級集団への指導内容・方法の検討や、子どもの学級集団への適応との関係や支援方法について体験的学習を実施する。</p> <p><到達目標> 学級経営者としての教師を意識し、関係性を理解しながら考察を深め、多様な心理学的理論を活用し方向性を見出す力量を培うことができる。</p>	講義4回 演習4回
			授業デザインの基礎	<p><授業の概要> 本授業では、教科教育の本質を、教科教育とはそもそも何なのか、授業を構成する要素は何か、授業の目的・内容・方法を考え、各教科の役割(自然科学系・社会科学系)をあらためて検討し、各教科で育成されるべき資質・能力を考えることを通して知り、教科の授業デザインの在り方を探る。受講者には、各自の専門教科等について、講義での指示に基づき調査・整理してもらい、小グループで討論等により深める機会とする。</p> <p><到達目標> 教科で育成を目指す資質能力を踏まえて授業設計する技能を身に付けることができる。</p>	講義4回 演習4回

共通科目	コース必修科目	教科指導・授業開発コース	教科等横断的な視点に立った授業開発	<p><授業の概要> 本授業では、教科横断的な視点を授業開発に反映させるために、現代的な諸課題（生活と社会的課題）を探り、それに対応するために求められる資質能力とは何かを考え、その育成・形成のための授業開発の在り方を探る。特に「主権者教育」と「総合的な学習の時間」を事例に、その授業開発の視点やカリキュラム開発の在り方の検討につなげる。</p> <p><到達目標> 現代的な諸課題に対応して求められる資質能力を、教科等横断的な視点から育成できるカリキュラムを開発することができる。</p>	講義5回 演習3回
			学習評価の理論と実際	<p><授業の概要> 本授業では、学習評価の理論と実際について、学問的な背景や先進的な教育実践を通じて理解を目指すものである。具体的な内容は、授業開発のためのPDCA、教育評価と授業改善、評価基準の設定と授業計画などである。それらは、既存の教育評価理論及び学習指導要領に準拠した学習評価の在り方などを踏まえつつ、講義や演習を通じて、実践に結び付く学習評価の在り方について理解する。</p> <p><到達目標> 教科指導における評価・改善のサイクルを理解し、実践に結び付けることができる。</p>	講義4回 演習4回
			総合的な学習の時間の実践と課題	<p><授業の概要> 「総合的な学習の時間」の生まれた背景や目的・内容について理解を深め、その在り方や現状・課題等について交流を図る。また、単元開発の基本原則について学ぶとともに、様々な校種の実践例を参考に授業やカリキュラムについて工夫改善を図り、年間及び単元指導計画を検討し作成する。</p> <p><到達目標> 「総合的な学習の時間」の生まれた背景やカリキュラム編成の基本的な視座等を理解し、カリキュラムを開発することができる。</p>	講義4回 演習4回
			特別支援教育の教育課程と授業の在り方	<p><授業の概要> 発達障害を単に診断名のみから捉えるのではなく、あくまでも対象児童生徒の障害特性、認知や行動特性の視点からアセスメントし、子どもの学び方に応じた授業を構想・提案・実践できる力を育成する。</p> <p><到達目標> 特に、特別支援学級・学校に在籍する児童生徒の障害特性を理解するとともに、一人一人の認知・行動特性に配慮した指導(授業)を構想・提案・実践することができる。</p>	講義4回 演習4回
			特別支援教育における教育相談と保護者支援	<p><授業の概要> ・本人、保護者との相談の中でどのように生じるのか、事例から効果的な教育相談と保護者支援の概念を学ぶ ・支持的な相談、解決指向型アプローチ、ナラティブアプローチ、多職種連携など、教育相談と保護者相談に必要なスキルについて体験的に学ぶ ・情報共有、効果的なケースカンファレンスの仕方について学ぶ</p> <p><到達目標> 障害のある子どもの保護者の思いに寄り添って、保護者や他の関係機関と連携しながら、協働して、望ましい教育相談と支援の在り方を構想することができる。</p>	講義3回 演習5回
特別支援教育コース			特別支援教育コーディネーターの役割と課題 I	<p><授業の概要> 特別支援教育の推進に当たっては、特別支援教育コーディネーターの役割が重要である。本授業では、特別支援教育コーディネーターに求められる資質とは何かを学び、コーディネーターとしての力量が発揮できるための知識や技能を身に付ける。具体的な内容を以下に示す。 ①特別支援教育コーディネーターが生まれた背景を理解する ②特別支援教育コーディネーターの役割と課題について明らかにする ③対象児へのアセスメント、支援ファイルの作成と活用について学ぶ</p> <p><到達目標> 特別支援教育コーディネーターが生まれた背景やその役割を知り、特別支援教育コーディネーターとして、学校における望ましい特別支援教育推進のための力量を育むことができる。</p>	講義4回 演習4回

共通科目	コース必修科目	特別支援教育コース	<p>特別支援教育コーディネーターの役割と課題Ⅱ</p> <p><授業の概要> 本授業では、特に現職教員を中心に、現場で生起している特別支援教育に係る課題を整理し、課題解決に向けた取組について構想する。特に、その中でも、コーディネーターの実際について様々な知見から学び、自らも校内において、その力量が発揮できることを目指す。具体的な内容を以下に示す。 ①個別の指導計画（教育支援計画）の理解と活用について学ぶ ②校内委員会におけるケース検討会議の実際を知り、演習を行う ③望ましい校内支援体制と関係機関との連携の在り方について考える</p> <p><到達目標> 校内支援体制を充実させるための校内委員会の運営やケース検討会議の実施を通して、校内における望ましい特別支援教育を推進することができる。</p>	講義5回 演習3回
		保健組織活動におけるマネジメント	<p><授業の概要> 効果的、効率的な保健組織活動に関する協力体制の確立に向けて、個人、家庭、グループ、組織へ協力、協調を促し、対立を調整するための理論について、行動科学、社会心理学、組織マネジメント等に関する知識を習得する。また、事例を通して子どもの健康問題の予防、改善、対策につなげるための人材、組織の連携、協力した具体的取組について理解を深め、学校におけるこれまでの取組と比較しながら課題を把握する。</p> <p><到達目標> 保健組織活動を推進するための人材、財源確保の重要性と関係者、関係機関等への情報発信及び交渉、調整をすることができる。</p>	講義4回 演習4回
		養護活動と保健教育	<p><授業の概要> 子どもの心身の健康状態や環境の実態把握から問題解決に向けた養護活動を、保健教育の観点から将来自ら保健行動のできる子どもの育成を図るために、健康課題を見いだす方法を学修する。そして、連携・協働の第一段階として学級担任など校内外の関係者との連携・協働について講義・演習し、子どもの保健教育について実践力を育成し、評価させる。</p> <p><到達目標> 子どもの心身の健康状態や環境の実態把握から問題解決に向けた養護活動を展開できる実践力を育成、評価することができる。</p>	講義2回 演習6回
		養護実践の理論と方法	<p><授業の概要> 子どもの多様なニーズに対して、養護実践の理論に基づく具体的な方法を学修する。学校教育活動や養護教諭の活動過程における養護実践について、個別の子どものニーズに応じた支援を養護教諭の専門職性を踏まえて講義・演習する。また、養護実践を理論化、実証化する方法を取り扱い、根拠のある養護実践力を育成し、評価できるようになる。</p> <p><到達目標> 学校における養護実践の理論と具体的な方法を理解し、自らの養護実践力を育成・評価できる力量を形成することができる。</p>	講義2回 演習6回
		子どもの心身の健康における協働的援助	<p><授業の概要> チーム学校の中で養護教諭が担う医学・看護学的役割を理解するために、子どもが学校において健康障害を生じた際の実践例（自験・誌上報告例等）を収集する。また、その実践例における養護教諭の対応を批判的に分析（主観的・客観的分析）し、様々な課題を提起・探求することで、具体的な支援の方法を検討する。さらに、これらのまとめとして、養護教諭のみならずチーム学校として子どもの心身の健康を守るために出来る最適な実践方法を考察する。</p> <p><到達目標> 子どもの心身の健康を守るために、校内支援体制の充実を図り、チーム学校における養護教諭のコーディネーターとしての協働的力を育むことができる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （44 岡田雄雄／4回）子どもが学校において健康障害を生じた際の実践例（自験・誌上）における養護教諭の対応について、医学的観点から批判的分析を行い、医学的課題に気付き提起する。考えのプロセスや問題点を明確に論述し、根拠に基づき科学的態度で解決法を探索することによって、チーム学校において養護教諭が行うべき具体的な医療的協同支援法の検討や養護教諭の臨床スキル向上を図る。</p> <p>（68 山田玲子／4回）子どもが学校において健康障害を生じた際の実践例における養護教諭の対応について、看護学的観点から分析する。考え方のプロセスや問題点を明確に論述し、根拠に基づき科学的態度で解決法を探索することによって、チーム学校において養護教諭が行うべき具体的な看護支援の方法を検討する。</p>	オムニバス方式 講義2回 演習6回

共通科目	大学指定科目	全コース	教育実践研究へのアプローチ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づいた教育実践研究の計画、実施方法を学び、実際に自らの実習、実践現場のテーマや課題に基づいた教育実践研究計画を立てる ・リサーチクエスチョンと研究計画の作成方法を学び、実際に自らの研究計画の課題を探し出し改善する ・面接法、質問紙法、観察法の概要と分析方法を学ぶ ・実践研究、アクションリサーチなど調査に関わりながら研究を進める方法について学ぶ <p><到達目標></p> <p>教育実践研究の方法論を理解し、自らの研究課題を探究するためのアプローチ及び研究計画を構想することができる。</p>	講義2回 演習6回
			北海道の教育課題解決へのアプローチ	<p><授業の概要></p> <p>人口減少が進み、かつ都市格差が大きい北海道の学校教育が抱えている課題や、それに対して北海道及び札幌市が推進している教育施策を概観するとともに、北海道の教育課題（学力格差、遠隔教育、へき地教育、教員採用試験倍率の低下等）を学校、家庭、地域、北海道全体で解決するためのアプローチを検討する。</p> <p><到達目標></p> <p>北海道における教育施策を理解するとともに、地域の課題や特色を踏まえた教育の在り方を検討することができる。</p>	講義5回 演習3回
北海道教育大学の特色ある領域科目		全コース	地域性を生かした総合的な学習	<p><授業の概要></p> <p>内容ベースから資質・能力ベースへのシフトチェンジが求められている中、「総合的な学習(探究)の時間」(以下、「総合」という。)はますます重要になってくることから実践事例を集め、分析する。分析結果から、総合に求められる単元構成基本原理や総合の成立要件を見い出すとともに、自らの勤務校や地域の特色を生かした指導計画や評価計画を作成することで、総合をマネジメントする推進力とは何か考える。</p> <p><到達目標></p> <p>北海道における総合の実践事例を踏まえ、勤務校や地域の特色を生かした指導計画を構想するとともに、総合をマネジメントする推進力を身に付ける。</p> <p>(共同/全8回)</p> <p>(30 玉井康之) 今後求められる総合の在り方について、地域を探究する学習活動との関連から考察する。また、地域探究学習活動に必要な科学的な調査・分析方法について解説し、総合で育てたい資質・能力について考えさせる。</p> <p>(196 水上丈実) 北海道の優れた総合の実践事例を紹介するとともに、受講生とその実践の長所等について分析する。また、勤務校の総合についての成果と課題を考えさせ、今後求められる総合の単元構成基本原理を明確にさせながら、指導と評価計画を作成させる。</p>	共同 講義4回 演習4回
			道徳教育の理論と実践	<p><授業の概要></p> <p>学校における道徳教育と「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」という。)の関係性や教科化された背景を理解するとともに、道徳の親学問としての倫理学や道徳哲学について理解を深める。また、道徳科も他教科同様にアクティブ・ラーニングの実現が求められており、道徳科の授業がどのように変わらなければならないかを論議する。授業づくりを支える「内容項目(道徳的価値)」の理解の仕方、画一的な型にはまった授業づくりではない「道徳科の教材研究」の在り方について「考え、議論する道徳」の授業づくりの演習を通して考える。</p> <p><到達目標></p> <p>学校における道徳教育及び道徳授業の基本的な理論・技術をおさえ、「考え、議論する道徳」の授業づくりに向けた総合的な資質能力の形成を図ることができる。</p>	講義4回 演習4回
			プログラミング教育の実践と課題	<p><授業の概要></p> <p>小学校プログラミング教育のねらいとプログラミング的思考や情報処理教育との関係性を示すとともに、その導入の経緯について「Society 5.0」との関連から理解する。また、プログラミング的思考を育成するプログラミング教材の種類「アンブラグド型・ヴィジュアル型・フィジカル型」の内容と活用法を演習を通して学ぶ。さらに、プログラミング教育を推進するカリキュラム・マネジメントに関連して、小・中・高校間のカリキュラムや校内推進体制の構築の仕方について事例から学ぶとともに、プログラミング教育指導案の作成法を演習を通して理解する。</p> <p><到達目標></p> <p>小学校におけるプログラミング教育のねらいを理解するとともに、教科横断的なカリキュラムや指導計画を構想することができる。</p>	講義4回 演習4回

北海道教育大学の特色ある領域科目	全コース	へき地・小規模校の実際と課題	<p><授業の概要> 全国及び北海道のへき地・小規模校の地域課題や授業研究の在り方を踏まえながら、へき地教育の実際と課題について捉える。へき地・小規模校では、少人数指導のマイナス面を補いながらも、プラス面を生かして特色ある教科・総合的な学習活動等の授業づくりや、少人数を生かした学級経営が進められている。これらの基本的な理念と方法を踏まえた上で、様々な実践方法についても交流する。 また地域課題を踏まえながら、地域を生かした総合的な学習や特活・教科などを一体的にとらえるカリキュラムマネジメントの発想も捉える。</p> <p><到達目標> 全国のへき地状況を俯瞰しつつ、北海道におけるへき地・小規模校の現状を理解するとともに、その特色を踏まえた教育活動を構想することができる。</p> <p>(共同/全8回) (30 玉井康之) へき地・小規模校の学級経営・生徒指導の在り方、へき地・複式・小規模校の教育方法の演習 (95 阿部二郎) へき地教育の全体的課題、校種別のへき地教育の現状と指導法、へき地・複式・小規模校の教育方法の演習 (121 川前あゆみ) 複式学級の指導方法、総合的な学習の時間の指導の在り方、へき地・複式・小規模校の教育方法の演習</p>	共同 講義6回 演習2回
		教育情報資源と学びの環境・指導	<p><授業の概要> 主体的・対話的で深い学びに向けて、情報通信技術の特性を生かし、児童生徒の能力、特性などに応じ、また、双方向性のある教育を実践するために、各種資料(メディア)を利活用し、また校内環境の整備ができることを目指し、ユネスコのMIIL(メディア・インフォメーション・リテラシー)、学習情報資源としてのデジタルアーカイブ、遠隔授業システムを用いるための環境整備と実践手法、学校図書館の機能とその整備・利活用計画の立案、メディア活用のための著作権について、講義と演習で理解し実践力を培う。</p> <p><到達目標> 学習に必要な情報資源としてのデジタルアーカイブ、遠隔授業システムを用いるための授業環境、学習環境としての学校図書館について理解し、利活用計画立案に必要な基礎的な理論と技術を学習することで、主体的・対話で深い学びを効果的に進める実践力を身に付ける。</p>	講義5回 演習3回
		個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ	<p><授業の概要> 本邦では近年、日本語を第二言語とし、日本語の支援を必要とする帰国・外国人児童生徒(以下「JSL児童生徒」という。)の在籍数が増加しており、北海道も例外ではない。 このような背景を踏まえ、本授業では1)学校内外でJSL児童生徒の置かれている現状を把握する。とりわけ、2)教科指導も見据えた上でJSL児童生徒の言語能力に関する課題に焦点を当てて論じる。さらに、1)及び2)を踏まえ、3)JSL児童生徒に対する支援・指導について検討する。また、本授業ではこのテーマに関する一般的な課題と北海道地域に特有の課題の両面に触れる。</p> <p><到達目標> JSL児童生徒に関する課題を把握するとともに、理論と実践を結び付けながら、課題への対応策を構想することができる。</p>	
		個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ	<p><授業の概要> ・教育的ニーズのある児童生徒が何に困難を抱えているか、課題がどこにあるかをアセスメントする方法を学ぶ ・コミュニケーション、行動コントロール、書字や読字などの教育的ニーズに基づいた環境調整、スキルトレーニングの方法とその実際について検討する ・実行機能などの神経心理学に関連する知見を学び、「産出困難」の事例について検討する ・授業で学んだ知識を生かして実際の事例を検討し、対応方法を学ぶ</p> <p><到達目標> 発達障害を中心として、個別の教育的ニーズのある子どもの認知・行動特性等を理解した上で、適切な指導を検討することができる。</p>	講義5回 演習3回

コース科目 専門科目 学校組織マネジメントコース 教職キャリア形成・研修デザインコース	学校組織マネジメントの実践的展開	<授業の概要> 学校組織とは何か、組織が機能するとはどういうことかなど、学校現場における様々な事例を取り上げ、講義・演習を通して「P（現状分析・課題把握・解決策の立案）→D（解決策の実施）→C（結果の評価）→A（修正した解決策の実施）」の問題解決の流れを基本に、地域資源を生かし、理論知と実践知の関連・融合を図りながら学校課題の解決につながる実践力を身に付ける。 <到達目標> 学校組織マネジメントの必要性と理論的内容について学校現場の事例をもとに考察し、実践につなげることができる。	講義5回 演習3回
	学校経営戦略の分析と策定	<授業の概要> ・ケーススタディやゲストティーチャーの講義を通して、各学校の学校経営案における経営方針を実現するための具体的な経営戦略を分析、検討し、経営戦略によるマネジメントの方策を学び、学校経営のグランドデザインを作成する。 ・学校におけるリスクマネジメント、クライシスマネジメントについて、具体的な事例をもとに考察し、学校経営における危機管理の在り方を学ぶ。 ・学校経営の立場から学校課題を組織的・協働的に解決する経営計画、評価計画を作成し、検討する中で、勤務校における自己の役割、課題の振り返りを行う。 <到達目標> 健全な学校経営のための必要事項を確認し、具体的な戦略によるマネジメントができる方策を広げることができる。	講義5回 演習3回
	社会に開かれた学校	<授業の概要> 近年、学校・家庭・地域の連携・協働が求められており、様々な施策が行われている。開かれた学校づくりと学校運営への参加について、設置の努力義務化が進むコミュニティ・スクールを事例に考察する。 また後半では、社会に開かれた教育課程の在り方とカリキュラム・マネジメントを実現する組織運営について検討する。 <到達目標> 学校と家庭・地域の連携・協働、次世代育成のためのカリキュラム・マネジメントを実現する組織運営について考究することができる。	講義5回 演習3回
	教育行政マネジメントの理論と実際	<授業の概要> 学校はどのように教育委員会と関わっていくべきか、また、教育委員会として、更には指導主事として学校とどう向き合っていくべきか。学校にとって不可欠な存在であり、学校を支えてくれる強力な支援者とも言える教育行政機関の存在意義や果たすべき役割等をしっかり理解し、講義・演習を通して教育行政機関との連携強化を図った適正な学校運営の在り方を考える。 <到達目標> 教育行政に必要とされる資質能力を明らかにし、教育施策の企画・実行・判断について、考察することができる。	講義5回 演習3回
	学校事務の職務と連携方策	<授業の概要> 学校事務の職務を概観するとともに、その基盤となる子どもや保護者を支援するための制度、学校徴収金の利用に伴う実務的な課題や配慮事項、学習環境整備のための手立て、情報公開と管理のための方法、教職員との連携方策等について理解し、より良い学校運営のための具体的な取り組みを検討する。 <到達目標> 学校事務の具体的な職務を検討し、他職員との連携の方策を分析し、具体的な実践につなげることができる。	講義6回 演習2回
	教師の実践研究ネットワークの形成	<授業の概要> 教師のキャリア発達における教育実践研究及び実践研究ネットワーク形成の意義を社会関係資本の観点から概観するとともに、学校における研究活動、民間教育研究団体における研究活動の成果と課題、アクションリサーチやサーベイフィードバックを活用した協働探究的な実践研究の方法、成果、課題を検討する。 <到達目標> 学校内外の教育研究や教科内容研究を含めた研究活動に関するネットワークの在り方と作り方について学ぶ。	講義4回 演習4回

コース科目 専門科目 教職キャリア形成・研修デザインコース	学級・授業づくりを通じた教師支援	<授業の概要> 教師が世代交代して若返る一方で、教育実践や学校づくりの経験の継承が難しくなり、日常的な問題対応は増えてきている。そのような状況を踏まえ、専門性を高める互恵的な同僚性の意義を理解し、その実現のための方法を考えるとともに、業務支援・精神支援・内省支援等、多面的な教師支援の在り方を考える。教員へのインタビューと分析や共同的な授業づくりに向けた記録・分析ツールの活用法などにも触れながら、学級づくり、授業づくりを通じた教師支援の在り方を探る。併せて、具体的な教師間の支援の事例収集と分析も行う。	講義4回 演習4回
	学校と教員の文化	<授業の概要> 学校は独特の組織文化を形成している。学校の組織文化には、教員文化が深く影響しており、その特徴について理解していく。学校文化や教員文化を含む組織文化論に着目し、文献や事例の収集分析を行っていく。組織文化論に関連する教員間の同僚性や援助要請についての理解を深め、互恵的で協働的な職場環境の整備について考察していく。教員に対するレジリエンスや心のケアの必要性を理解し、組織文化について検討する。	講義6回 演習2回
	校内研修デザインの理論と実践Ⅰ	<授業の概要> 校内研修の意義・目的、法的位置づけ、現状と課題について、今日的に教員に求められる資質・能力との関連で捉えながら、新たな教育的諸課題への対応を求められる学校における個々の主題ごとの校内研修のデザインを構想する力を身に付けることを到達目標とする。 日本の授業研究の歴史や教育改革の各種答申に触れながら、新たな教育的諸課題を明らかにし、学校や大学、専門機関の校内研修の実践や理論に学び、それらを手がかりに、協議や交流といった演習を通して理解を深め、それぞれの問題意識を生かした、実践につながる校内研修計画を完成させる。	講義4回 演習4回
	校内研修デザインの理論と実践Ⅱ	<授業の概要> 次の五項目を基本的な柱として、授業を構成する。一つ目は「校内研修の年間計画や複数年計画についての事例の収集と分析」、二つ目は「学校内外での情報発信の在り方」、三つ目は「大学や専門機関との連携」、四つ目は「教師のライフステージを踏まえた研修構想」、五つ目は「複数年度にわたる校内研修のデザインの試作」である。 この中で、特に一つ目の「校内研修の年間計画や複数年計画についての事例の収集と分析」を重点的に扱う。年間計画の前段階にある、校内研修の「目的とその評価」について共通理解を図り、行うべき具体的な活動を明確にしていく。	講義4回 演習4回

コース科目 専門科目	子ども理解・学級経営コース	子どもと社会	<p><授業の概要> ①子ども理解の思想と哲学、哲学する教師、②学校の目的、教育の理念・思想と歴史、③子ども観の歴史、子どもの権利、子ども学、④子どもの発達特性、⑤子どもの社会性、⑥学校、家庭、地域における子どもの理解、⑦子どものもめごと解決、のようなトピックから、いくつかを選択し、講義と検討を行う。</p> <p><到達目標> 教育学の諸理論を踏まえた上で、子ども理解を深め、自らの教育観や学校の目的等を省察して検討することができる。また、学校、家庭、地域など様々な集団の中で生きる子どもの発達特性、実態、問題を理解することができる。</p> <p>(オムニバス方式、一部共同/全8回) (155 山崎智子/5回) 『学びの専門家としての教師』(岩波講座 教育 変革への展望4) から選択した論文の検討などを担当する。 (166 稲井智義/5回) 『教育の再定義』(岩波講座 教育 変革への展望1) から選択した論文の検討などを担当する。 (155 山崎及び166 稲井が第1・8回を共同で実施する。)</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (38 坂本紀子/4回) 子ども観の歴史、教育理念・学校目的の変遷などを担当する。 (93 木村育恵/4回) 子どもの成長・発達を取り巻く社会的状況、子ども世界とジェンダーなどを担当する。</p>	一部オムニバス方式 一部共同 講義4回 演習4回
		キャリア教育の実践と課題	<p><授業の概要> 本授業では、特別活動や教科等におけるキャリア教育の位置付けについて整理するとともに、キャリア教育に関わる実践事例を収集し、これらをグループワークやディスカッションを通して分析する。また子ども・若者の進路選択やキャリア発達の変化を歴史的にたどりながら、学校教育と社会の接続や移行に関わる現代的な課題について学ぶ。同時に、子どもや若者の進路選択やキャリア発達のありようを背後から規定する社会的な諸要因(能力主義をめぐる課題や、経済的格差・文化資本等をめぐる課題、学校教育に対する社会的要求の錯綜と、その中で矛盾をはらみながら展開する「求められる人間像」に関する考察等)について、その基礎的な内容を学ぶとともに、労働者の権利擁護に関する知識・法令などを学び、そうした知識を教育実践として具体化する方策を考える。また子ども・若者が働く現場で様々なトラブルや権利侵害等に直面している事実を踏まえ、子ども・若者が当事者として問題解決をしていくことを支援・相談できるような関わり方について考えていく。</p> <p><到達目標> 子どもたちの自己実現と社会的な役割を担う市民の育成に資する進路指導・キャリア教育について構想することができる。</p>	講義5回 演習3回
		授業における子どもの行動と心理	<p><授業の概要> 授業を中心とした学習指導において指導方法が効果的に機能するためには、学習者である子どもたちの発達段階や認知特性が考慮されていることが重要である。この授業では、心理学の理論と知見を踏まえて子どもの発達段階や認知特性を学ぶとともに、授業を中心とした学習指導に関する実践的課題を理解する。最終的に、教育心理学、認知・学習心理学、教授学習心理学の知見も踏まえつつ学習指導に関する実践的課題を解決するための効果的な学習指導の方法について受講者全員で検討する。</p> <p><到達目標> 心理学の理論と知見を踏まえて子どもの発達段階や認知特性などを学ぶとともに、授業を中心とした学習指導に関する実践的課題について理解し、効果的な指導方法について検討することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (24 戸田まり/4回) 生得的個性と環境との相互作用、愛着の発達と生涯及び心の理論とマインドリーディングの発達などを担当する。 (119 吉野巖/4回) ワーキングメモリが各教科の学習に与える影響、国語・理科・音楽における理解のメカニズムと既有知識の影響及び社会・理科・英語における記憶過程と知識の獲得などを担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (109 懸田孝一/3回) メタ認知に関する基礎的特性及び特性を考慮した授業における工夫などを担当する。 (110 川端美穂/3回) 学習の転移に関する基礎的特性及び特性を考慮した授業における工夫などを担当する。 (129 宮崎拓弥/2回) 学習意欲に関する基礎的特性及び特性を考慮した授業における工夫などを担当する。</p>	一部オムニバス方式 講義4回 演習4回

コース科目 専門科目 子ども理解・学級経営コース	子ども理解のためのアセスメント	<p><授業の概要> 様々な教育活動は教師の子ども理解を基礎として展開されていくため、子どもや学級集団の実態を適切に把握することが教育実践において重要な意味を持つ。この授業では、子どもの実態を把握するためのアセスメントについて実践的に学ぶ。具体的には、アセスメントの実施方法、データの分析方法、結果の解釈の仕方を理解し、アセスメント結果に基づいた指導方法の検討を受講者全員で行う。</p> <p><到達目標> 子どもと学級集団の実態把握のためのアセスメントについて理解することができる。アセスメント結果に基づいた指導方法を検討することができる。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全8回) (24 戸田まり/3回) 認知機能の測定、心理尺度の使用と留意点及び監察による行動把握と留意点などを担当する。 (119 吉野巖/3回) 認知機能の測定、心理尺度の使用と留意点などを担当する。 (151 益子洋人/3回) 指導計画の立案等のアセスメントの活用例などを担当する。 (24 戸田及び119 吉野が第4回を共同で実施する。)</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (109 懸田孝一/2回) 「学習過程」及び「学級集団」についてのアセスメントの実際などを担当する。 (110 川端美穂/3回) 子どもの実態把握と指導法の検討及び「発達」についてのアセスメントの実際などを担当する。 (129 宮崎拓弥/3回) 「認知スタイル」及び「学習動機づけ」についてのアセスメントの実際などを担当する。</p>	オムニバス方式 一部共同
	学級経営と授業づくり	<p><授業の概要> この授業では、①自治的活動を活かした学級づくりと授業づくり、②陶冶と訓育の統一という教育思想、③自己責任論を超える指導観の獲得、④自治的で民主的な学級集団づくりの構想、⑤生活班と学習班などの関連概念の整理、⑥管理主義を超える学習規律づくりの構想など、子どもたちの自治的で民主的な活動を活かした学級づくりと授業づくりに関わる理論と実践について探究する。</p> <p><到達目標> 子どもたちの自治的で民主的な活動を活かした学級づくりと授業づくりについて構想することができる。</p>	講義4回 演習4回
	道徳を基盤とした学級経営	<p><授業の概要> 本授業では、「道徳は教えられるか」という根本問題の検討、教育課程における「特別の教科」道徳の成立過程と内包する課題についての検討、道徳教育の実践事例の収集と分析、発達の可能性への愛と要求としての「学級の歴史づくり」についての検討、道徳と教科や総合的な学習の時間等との連携についての検討、道徳的判断力等を学級経営の中で育む観点についての検討、等を行う。</p> <p><到達目標> 道徳の授業を「扇の要」として、学校の様々な教育活動をつないだ学級経営を構想することができる。</p>	
	現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり	<p><授業の概要> 児童生徒が既知として捉えるいわば主観的生活世界を捉える教育論の蓄積から、その視点や手法を学ぶ。同時に、情報化とグローバル化による児童生徒が生活世界を捉える上での可能性と諸矛盾について、教育的認識論の蓄積から学ぶ。これらを踏まえて実際に児童生徒の観察とカンファレンスを行う。さらにモノやヒトが織りなす客観的世界の関係把握に向かわせるための指導を、教科・教科外の教育論の蓄積を踏まえて捉える。最後に、教師集団や地域、家庭が共同して学ぶ教育実践構築の具体的事例を踏まえ、現代的・実践的な課題解決のための教育内容・教材・学習活動研究とその検討を行う。</p> <p><到達目標> 子どもの生活世界と教科内容をつないだ協働的な学びの場としての授業づくりを構想することができる。</p>	講義4回 演習4回

コース科目	専 門 科 目	教 科 指 導 ・ 授 業 開 発 コ ー ス	子ども理解・学級経営コース	教育課程編成と学級経営 <授業の概要> カリキュラムの多義性とその整理の理論的蓄積(「潜在的カリキュラム」「経験としてのカリキュラム」など)を踏まえ教育課程分析の視点について学ぶとともに、そこからカリキュラム・マネジメント(地域教育計画・教育課程の自主編成・教育課程開発を含む)の事例収集と検討の演習を行う。 最後に受講者の個人、またはグループで「学びのカリキュラム」として学び合う関係性を児童生徒に育てる見通しの構想をまとめ、その発表と検討を行う。 <到達目標> 一人一人の子どもの人生の経験と見通しを含めて学級レベルでの学びのカリキュラムを構想するとともに、これを支える学級づくりについての展望を持つことができる。	講義4回 演習4回
			教科教育研究の理論(国語科教育) I	<授業の概要> ・国語科教育研究の研究領域 ・国語科教育研究の方法論 ・国語科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 国語科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、国語科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。	
			教科教育研究の理論(国語科教育) II	<授業の概要> ・国語科教育における今日的課題 ・国語科教育の現代的動向 ・海外の国語科教育事情など <到達目標> 国語科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、国語科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。	
			教科教育研究の実践と展開(国語科教育) I	<授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校国語科教育の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校国語科教育の実践研究事例分析(アクティブ・ラーニング、ICT活用、など) <到達目標> 国語科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。	
			教科教育研究の実践と展開(国語科教育) II	<授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校における国語科教育の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校における国語科教育の実践研究事例分析(アクティブ・ラーニング、ICT活用、など) <到達目標> 国語科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。	

<p>コース科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容の体系（国語科教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における国語科の全体的な内容構成 ・学問としての国語科の基盤となる専門領域の視点から見た初等教育における国語科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・国語科の教師に求められる専門的素養 <p><到達目標></p> <p>国語科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（31 馬場俊臣／3回）国語科の領域「言語事項」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（111 菅原利晃／4回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（123 阿部二郎／3回）国語科の領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（168 幸坂健太郎／4回）中学校国語科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（31 馬場、111 菅原、123 阿部及び168 幸坂が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（55 上田祐二／1回）小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成などを担当する。</p> <p>（83 大橋賢一／1回）漢文学の視点から見た小学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（115 渥美伸彦／1回）小学校国語科の内容構成などを担当する。</p> <p>（125 作田将三郎／2回）日本語学の視点から見た小学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（139 村田裕和／1回）近代文学の視点から見た小学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（169 西川竜矢／2回）書写書道教育学の視点から見た小学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（53 佐野比呂己／6回）教科教育学における国語科教育学の位置付け、小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（190 久田行雄／2回）国語科の領域「言葉の特徴や使い方」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（192 吉田勉／2回）国語科の領域「我が国の言語文化」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（53 佐野、190 久田及び192 吉田が第8回を共同で実施する。）</p>	<p>一部オムニバス方式 一部共同</p>
--------------	-------------	---------------------	------------------------	---	---------------------------

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（国語科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における国語科の全体的な内容構成 ・学問としての国語科の基盤となる専門領域の視点から見た中等教育における国語科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・国語科の教師に求められる専門的素養 <p><到達目標></p> <p>国語科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（31 馬場俊臣／3回）国語科の領域「言語事項」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（111 菅原利晃／4回）小学校からの接続および、高等学校への接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（123 阿部二郎／3回）国語科の領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（168 幸坂健太郎／4回）中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（31 馬場、111 菅原、123 阿部及び168 幸坂が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（55 上田祐二／1回）中学校国語科の内容構成などを担当する。</p> <p>（83 大橋賢一／2回）漢文学の視点から見た中学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（115 渥美伸彦／1回）小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成などを担当する。</p> <p>（125 作田将三郎／1回）日本語学の視点から見た中学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（139 村田裕和／2回）近代文学の視点から見た中学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（169 西川竜矢／1回）書写書道教育学の視点から見た中学校国語科の教科内容などを担当する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（145 菊野雅之／6回）文学研究と国語科教育学研究、教師に求められる教材分析理論とスキルなどを担当する。</p> <p>（190 久田行雄／1回）国語科教育学と周辺学問などを担当する。</p> <p>（192 吉田勉／1回）古典研究と国語科教育学研究などを担当する。</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法 ・文章 ・談話、文体 ・文字 ・表記 ・国語学の調査資料と調査方法 <p><到達目標></p> <p>国語科教育国語学分野で扱われている教科内容を国語学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す国語学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、国語科教育に必要な国語学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <p>国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声、音韻 ・語彙、意味 ・方言と共通語 ・日本語史 <p><到達目標></p> <p>国語科教育国語学分野で扱われている教科内容を国語学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す国語学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、国語科教育に必要な国語学の専門的知識を深めることができる。</p>	
教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅲ	<p><授業の概要></p> <p>国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声、音韻 ・文字 ・表記 ・語彙 ・国語学の調査資料と調査方法 <p><到達目標></p> <p>国語科教育国語学分野で扱われている教科内容を国語学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す国語学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、国語科教育に必要な国語学の専門的知識を深めることができる。</p>		

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・文法 ・文章 ・談話、文体 ・文字 ・表記 ・国語学の調査資料と調査方法</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら国語学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅱ	<p><授業の概要> 国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・音声、音韻 ・語彙、意味 ・方言と共通語 ・日本語史</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら国語学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅲ	<p><授業の概要> 国語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・音声、音韻 ・文字 ・表記 ・語彙 ・国語学の調査資料と調査方法</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら国語学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容研究（国語科教育国文学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 国文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・明治文学 ・大正文学 ・昭和文学 ・現代文学 ・韻文 ・文体の諸相 ・外国文学の影響 ・文化的背景 ・政治的背景</p> <p><到達目標> 国語科教育国文学分野で扱われている教科内容を国文学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す国文学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、国語教育に必要な国文学の専門的知識を深めることができる。</p>	
			教科内容・教材開発（国語科教育国文学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 国文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・明治文学 ・大正文学 ・昭和文学 ・現代文学 ・韻文 ・文体の諸相 ・外国文学の影響 ・文化的背景 ・政治的背景</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら国文学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容研究（国語科教育漢文学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 漢文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・思想 ・詩 ・史書</p> <p><到達目標> 国語科教育漢文学分野で扱われている教科内容を漢文学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体性・対話的で深い学び」の実現を目指す漢文学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、漢文学教育に必要な漢文学の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（国語科教育漢文学分野）Ⅱ	<授業の概要> 漢文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・故事成語 ・思想 ・詩 <到達目標> 国語科教育漢文学分野で扱われている教科内容を漢文学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す漢文学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、漢文学教育に必要な漢文学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（国語科教育漢文学分野）Ⅰ	<授業の概要> 漢文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・思想 ・詩 ・史書 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら漢文学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（国語科教育漢文学分野）Ⅱ	<授業の概要> 漢文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・故事成語 ・思想 ・詩 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら漢文学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（国語科教育書道分野）Ⅰ	<授業の概要> 書写書道における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・文字文化 ・毛筆活動 ・硬筆活動 ・実用としての書 ・芸術としての書 ・臨書活動 ・創作活動 <到達目標> 国語科教育書道分野で扱われている教科内容を書写書道教育の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す書道分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、書写書道教育に必要な書写書道教育学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（国語科教育書道分野）Ⅰ	<授業の概要> 書写書道における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・姿勢と筆記具 ・書体 ・字形 ・筆順 ・手書き ・漢字の書 ・仮名の書 ・漢字仮名交じりの書 ・篆刻 ・文字文化 ・表現 ・鑑賞 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら書写書道の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（社会科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・社会科教育研究の研究領域 ・社会科教育研究の方法論 ・社会科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 社会科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、社会科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （オムニバス方式・一部共同／全8回） （6 前田輪音／4回）社会科教育学の研究領域（教育内容、教材）などを担当する。 （176 池田考司／5回）社会科教育の意義と課題、社会科教育学の研究領域（学習方法、評価等）などを担当する。 （6 前田及び176 池田が第8回を共同で実施する。）	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科教育研究の理論（社会科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科教育における今日的課題 ・社会科教育の現代的動向 ・海外の社会科教育事情など <p><到達目標></p> <p>社会科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、社会科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回） （6 前田輪音／4回）社会科教育学の現代的動向（メディアリテラシーと社会認識）などを担当する。 （176 池田考司／5回）社会科教育における今日的課題（変化する社会における社会科の内容・方法）などを担当する。 （6 前田及び176 池田が第8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科教育研究の実践と展開（社会科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育の接続における主として小学校社会科教育の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校社会科教育の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>社会科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回） （6 前田輪音／4回）初等・中等教育の接続における主として小学校社会科の実践研究事例/分析（ICTの活用と情報活用技能）などを担当する。 （176 池田考司／5回）初等・中等教育の接続における主として小学校社会科実践研究の視点などを担当する。 （6 前田及び176 池田が第5回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科教育研究の実践と展開（社会科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育における主として中学校社会科教育並びに高等学校地理歴史科教育及び公民科教育の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校社会科教育並びに高等学校地理歴史科教育及び公民科教育の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>社会科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回） （6 前田輪音／5回）初等・中等教育の接続における主として中学校社会科並びに高等学校地理歴史科及び公民科の実践研究事例/分析（総合的な探究の時間との連携）などを担当する。 （176 池田考司／6回）初等・中等教育の接続における主として中学校社会科並びに高等学校地理歴史科及び公民科の実践研究事例/分析（文化から見る歴史授業・歴史総合）などを担当する。 （6 前田及び176 池田が第1・5・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同

<p>コース科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容の体系（社会科教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における社会科の全体的な内容構成 ・学問としての社会科学の視点から見た初等教育における社会科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・社会科の教師に求められる社会科学的素養 <p><到達目標></p> <p>社会科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（41 中川大／1回）まとめ（社会科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（54 百瀬響／1回）初等教育における社会科の「歴史と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（59 菅野淑子／1回）オリエンテーションなどを担当する。</p> <p>（74 佐山圭司／1回）初等教育における社会科の「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（103 武田泉／1回）初等教育における社会科の「地理的環境と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（154 本庄十喜／1回）初等教育における社会科の「歴史と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（157 松本哲人／1回）初等教育における社会科の「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（176 池田考司／3回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（54 百瀬及び154 本庄が第4回を、74 佐山及び157 松本が第5回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（40 千葉胤久／1回）初等社会科における倫理に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（43 海老名尚／1回）初等社会科における日本の歴史に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（60 坂井誠亮／1回）オリエンテーション（初等社会科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（82 初岡宏成／1回）初等社会科における法に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（88 角一典／1回）初等社会科における社会に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（89 佐々木謙一／1回）初等社会科における経済に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（137 Kim Hyun Jin／1回）オリエンテーション（初等社会科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（153 津田拓郎／1回）初等社会科における世界の歴史に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（167 栗林賢／1回）初等社会科における地理に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（60 坂井及び137 Kimが第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（19 浅利祐一／3回）初等教育における社会科の「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（20 内山隆／5回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（34 酒井多加志／3回）初等教育における社会科の「地理的環境と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（39 竹内康浩／3回）初等教育における社会科の「歴史と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（66 中村太一／3回）初等教育における社会科の「歴史と人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（188 南翔一郎／3回）初等教育における社会科の「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（19 浅利、20 内山、34 酒井、39 竹内、66 中村及び188 南が第1・8回を、39 竹内及び66 中村が第4回を、19 浅利及び188 南が第5回を共同で実施する。）</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>
--------------	-------------	---------------------	------------------------	---	-------------------------

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容の体系（社会科教育）Ⅱ</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における社会科の全体的な内容構成 ・学問としての社会科学の視点から見た中等教育における社会科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・社会科の教師に求められる社会科学的素養 <p><到達目標></p> <p>社会科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（41 中川大／1回）まとめ（社会科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（54 百瀬響／1回）中等教育における歴史関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（59 菅野淑子／1回）オリエンテーションなどを担当する。</p> <p>（74 佐山圭司／1回）中等教育における公民関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（103 武田泉／1回）中等教育における地理関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（154 本庄十喜／1回）中等教育における歴史関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（157 松本哲人／1回）中等教育における公民関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（176 池田考司／3回）中等教育における社会科の総合性などを担当する。</p> <p>（54 百瀬及び154 本庄が第4回を、74 佐山及び157 松本が第5回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（40 千葉胤久／1回）中等社会系教科における倫理に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（43 海老名尚／1回）中等社会系教科における日本の歴史に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（60 坂井誠亮／1回）オリエンテーション（中等社会系教科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（82 靱岡宏成／1回）中等社会系教科における法に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（88 角一典／1回）中等社会系教科における社会に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（89 佐々木謙一／1回）中等社会系教科における経済に関する内容体系などを担当する。</p> <p>（137 Kim Hyun Jin／1回）オリエンテーション（中等社会系教科の教師に求められる社会科学的素養）などを担当する。</p> <p>（153 津田拓郎／1回）中等社会系教科における世界の歴史に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（167 栗林賢／1回）中等社会系教科における地理に関わる内容体系などを担当する。</p> <p>（60 坂井及び137 Kimが第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式・一部共同／全8回）</p> <p>（19 浅利祐一／3回）中等教育における公民関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（20 内山隆／5回）中等教育における社会科の総合性などを担当する。</p> <p>（34 酒井多加志／3回）中等教育における地理関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（39 竹内康浩／3回）中等教育における歴史関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（66 中村太一／3回）中等教育における歴史関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（188 南翔一朗／3回）中等教育における公民関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（19 浅利、20 内山、34 酒井、39 竹内、66 中村及び188 南が第1・8回を、39 竹内及び66 中村が第4回を、19 浅利及び188 南が第5回を共同で実施する。）</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>
	<p>教科内容研究（社会科教育歴史学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における国家形成 ・律令国家の形成 ・古代の文化と東アジアとの関わり ・武家政治の成立とユーラシアの交流 ・武家政治の展開と東アジアの動き ・民衆の成長と新たな文化形成 ・近代国家の形成と東アジア ・戦後世界と日本 <p><到達目標></p> <p>社会科教育歴史学分野で扱われている教科内容を歴史学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す歴史学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、歴史教育に必要な歴史学の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（社会科教育歴史学分野）Ⅱ	<授業の概要> 歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・王朝というシステム ・皇帝という存在 ・基層文化としての儒教と道教 ・法律と道徳 ・出土資料の動向 <到達目標> 社会科教育歴史学分野で扱われている教科内容を歴史学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す歴史学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、歴史教育に必要な歴史学の専門的知識を深めることができる。
	教科内容研究（社会科教育歴史学分野）Ⅲ	<授業の概要> 歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・人類の進化と広がり ・ギリシャ・ローマの文明 ・宗教のおこりと三大宗教 ・イスラムの拡大とヨーロッパ中世 ・中世からの脱却 ・太陽の沈まない国 <到達目標> 社会科教育歴史学分野で扱われている教科内容を歴史学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す歴史学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、歴史教育に必要な歴史学の専門的知識を深めることができる。
	教科内容・教材開発（社会科教育歴史学分野）Ⅰ	<授業の概要> 歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・律令国家の形成 ・武家政治の成立とユーラシアの交流 ・近代国家の形成と東アジア ・戦後世界と日本 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら歴史学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容・教材開発（社会科教育歴史学分野）Ⅱ	<授業の概要> 歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・王朝というシステム ・皇帝という存在 ・基層文化としての儒教と道教 ・法律と道徳 ・出土資料の動向 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら歴史学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容・教材開発（社会科教育歴史学分野）Ⅲ	<授業の概要> 歴史学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・人類の進化と広がり ・ギリシャ・ローマの文明 ・宗教のおこりと三大宗教 ・イスラムの拡大とヨーロッパ中世 ・中世からの脱却 ・太陽の沈まない国 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら歴史学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容研究（社会科教育地理学分野）Ⅰ	<授業の概要> 地理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、教材化に關しての講義とディスカッションを行う。 ・農村 ・中山間地域 ・地域振興 ・一極集中 ・地域交通政策 ・地域環境政策 ・地域観光政策 ・自然環境 ・自然災害と防災 <到達目標> 社会科教育地理学分野で扱われている教科内容を地理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す地理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、地理教育に必要な地理学の専門知識を深めることができる。

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（社会科教育地理学分野）Ⅱ	<授業の概要> アイヌ文化に関する以下のトピックのうちからいくつかを選んで、教材化に関する講義とディスカッションを行う。 ・北海道の文化編年体 ・「熊祭文化複合体説」 ・地域文化の特徴（口頭伝承・儀礼） ・文化変容・文化復興 ・北方文化論 <到達目標> 社会科教育地理学分野で扱われている教科内容を地理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す地理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、地理教育に必要な地理学の専門知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（社会科教育地理学分野）Ⅰ	<授業の概要> 地理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・日本の稲作 ・北海道の畑作 ・日本地誌 ・北海道地誌 ・野外巡検 ・教科内容の配列と構成 ・社会科学的素養 ・自然災害 ・防災教育 ・防災まち歩き <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら地理の教科内容の検討及び教材開発をすることができる。	
	教科内容・教材開発（社会科教育地理学分野）Ⅱ	<授業の概要> アイヌ文化における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・北海道の稲作と北方文化論 ・アイヌ文様 ・口頭伝承 ・観光 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら地理の教科内容の検討及び教材開発をすることができる。	
	教科内容研究（社会科教育法律学分野）Ⅰ	<授業の概要> 法律学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・現代社会の見方・考え方（対立と合意、効率と公正） ・民主主義 ・日本国憲法 ・国民主権 ・基本的人権 ・平和主義 ・三権分立（国会、内閣、裁判所） ・地方自治 ・グローバル化 ・消費者保護 ・仕事と生活の調和 <到達目標> 社会科教育公民的分野で扱われている教科内容を法律学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す公民的分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、公民的分野の教育に必要な法律学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（社会科教育法律学分野）Ⅰ	<授業の概要> 公民的分野における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・現代社会の見方・考え方（対立と合意、効率と公正） ・民主主義 ・日本国憲法 ・国民主権 ・基本的人権 ・平和主義 ・三権分立（国会、内閣、裁判所） ・地方自治 ・グローバル化 ・消費者保護 ・仕事と生活の調和 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら公民的分野の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（社会科教育社会学・経済学分野）Ⅰ	<授業の概要> 経済学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義・ディスカッションを行う。 ・機会費用と比較優位 ・需要と供給 ・価格政策 ・効率性と公平性 ・外部性 ・公共財 ・独占など <到達目標> 社会科教育社会学・経済学分野で扱われている教科内容を社会学・経済学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す社会学・経済学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、社会学・経済学教育に必要な経済学の専門的知識を深めることができる。	

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容研究（社会科教育社会学・経済学分野）Ⅱ</p>	<p><授業の概要> 社会学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義・ディスカッションを行う。 ・社会的正義、公正 ・食と農 ・戦争と平和 ・エネルギー ・SDGsなど</p> <p><到達目標> 社会科教育社会学・経済学分野で扱われている教科内容を社会学・経済学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す社会学・経済学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、社会学・経済学教育に必要な社会学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	<p>教科内容・教材開発（社会科教育社会学・経済学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 経済学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義・ディスカッションを行う。 ・GDP ・物価 ・経済成長 ・失業 ・貨幣・金融システム ・総需要と総供給 ・マクロ経済政策 など</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら社会学・経済学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
	<p>教科内容・教材開発（社会科教育社会学・経済学分野）Ⅱ</p>	<p><授業の概要> 社会学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義・ディスカッションを行う。 ・社会的正義、公正 ・食と農 ・戦争と平和 ・エネルギー ・SDGsなど</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら社会学・経済学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
	<p>教科内容研究（社会科教育哲学・倫理学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 哲学・倫理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・言語 ・論理 ・概念 ・知覚 ・行為 ・数学 ・名前</p> <p><到達目標> 社会科教育哲学・倫理学分野で扱われている教科内容を哲学・倫理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す哲学・倫理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、哲学・倫理学教育に必要な哲学・倫理学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	<p>教科内容研究（社会科教育哲学・倫理学分野）Ⅱ</p>	<p><授業の概要> 哲学・倫理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・義務論 ・徳倫理学 ・功利主義 ・ケアの倫理 ・死生観 ・正義 ・社会契約 ・リベラリズム ・社会哲学 ・公共哲学 ・現象学 ・生命倫理 ・環境倫理 ・情報倫理</p> <p><到達目標> 社会科教育哲学・倫理学分野で扱われている教科内容を哲学・倫理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す哲学・倫理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、哲学・倫理学教育に必要な哲学・倫理学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	<p>教科内容・教材開発（社会科教育哲学・倫理学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 哲学・倫理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・言語 ・論理 ・概念 ・知覚 ・行為 ・数学 ・名前</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら哲学・倫理学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発（社会 科教育哲学・倫理学分野） II	<授業の概要> 哲学・倫理学における以下のトピックのうちからいくつかを選 んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・義務論 ・徳倫理学 ・功利主義 ・ケアの倫理 ・死生観 ・正義 ・社会契約 ・リベラリズム ・社会哲学 ・公共哲学 ・現象学 ・生命倫理 ・環境倫理 ・情報倫理 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知 識を活用しながら哲学・倫理学の教科内容及び教材を開発すること ができる。	
	教科教育研究の理論（算 数・数学科教育）I	<授業の概要> ・算数・数学科教育研究の研究領域 ・算数・数学科教育研究の方法論 ・算数・数学科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 算数・数学科教育における研究領域と研究方法を理解すると もに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理 解し、算数・数学科教育の今日的課題にどのようにアプローチする かを構想することができる。 （共同／全8回） （49 早勢裕明、78 佐々祐之、186 榎本哲士、187 大滝孝治）	一部共同
	教科教育研究の理論（算 数・数学科教育）II	<授業の概要> ・数学科教育における今日的課題 ・数学科教育の現代的動向 ・海外の数学科教育事情など <到達目標> 算数・数学科教育における研究領域と研究方法を理解すると もに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理 解し、算数・数学科教育の今日的課題にどのようにアプローチする かを構想することができる。 （共同／全8回） （49 早勢裕明、78 佐々祐之、186 榎本哲士、187 大滝孝治）	一部共同
	教科教育研究の実践と展開 （算数・数学科教育）I	<授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校算数科教育の実 践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校算数科教育の実 践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <到達目標> 算数・数学科教育における実践的研究の展開について、様々な実 践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実 践的な視点から考察することができる。 （共同／全8回） （49 早勢裕明、187 大滝孝治）	一部共同
	教科教育研究の実践と展開 （算数・数学科教育）II	<授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校数学科教育 の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校数学科教育 の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <到達目標> 算数・数学科教育における実践的研究の展開について、様々な実 践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実 践的な視点から考察することができる。 （共同／全8回） （49 早勢裕明、187 大滝孝治）	一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（算数・数学科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における算数科の全体的な内容構成 ・学問としての数学の視点から見た初等教育における算数科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・算数・数学の教師に求められる数学的素養 <p><到達目標></p> <p>算数・数学科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>(共同/全8回) (15 種市信裕、78 佐々祐之)</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全8回) (14 小室直人/6回) 初等教育における算数科の領域「測定」「変化と関係」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (102 齋藤幸子/6回) 初等教育における算数科の領域「図形」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (130 谷地元直樹/4回) 小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 (14 小室、102 齋藤及び130 谷地元が第1・8回を、14 小室及び102 齋藤が第3・4・5・6回を共同で実施する。)</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全8回) (29 関谷祐里/1回) 初等教育における算数科の領域「データの活用」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (49 早勢裕明/3回) 小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 (87 和地輝仁/4回) 初等教育における算数科の領域「数と計算」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (181 黒川友紀/1回) 初等教育における算数科の領域「測定」「変化と関係」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (187 大滝孝治/1回) 中等教育における数学科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。 (49 早勢及び87 和地が第1・8回を共同で実施する。)</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容の体系（算数・数学科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における数学科の全体的な内容構成 ・学問としての数学の視点から見た中等教育における数学科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・算数・数学科の教師に求められる数学的素養 <p><到達目標></p> <p>算数・数学科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>(共同/全8回) (15 種市信裕、186 榎本哲士)</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全8回) (14 小室直人/6回) 中等教育における数学科の領域「測定」「変化と関係」及びその関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (102 齋藤幸子/6回) 中等教育における数学科の領域「図形」及びその関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (130 谷地元直樹/4回) 中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 (14 小室、102 齋藤及び130 谷地元が第1・8回を、14 小室及び102 齋藤が第3・4・5・6回を共同で実施する。)</p> <p>(オムニバス方式・一部共同/全8回) (29 関谷祐里/1回) 中等教育における数学科の領域「データの活用」及びその関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (49 早勢裕明/3回) 初等教育における算数科からの接続に関わる内容の系統性などを担当する。 (87 和地輝仁/2回) 中等教育における数学科の領域「数と式」及びその関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (181 黒川友紀/3回) 中等教育における数学科の領域「関数」及びその関連領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (187 大滝孝治/1回) 中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 (49 早勢及び181 黒川が第1・8回を共同で実施する。)</p>	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（算数・数学科教育代数学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 代数学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・数の集合と演算 ・整数論とその応用 ・実数と複素数 ・代数構造 ・方程式とその背景 ・不等式とその背景 ・多項式とその性質 ・群論とその応用 ・環論とその応用 ・体論とその応用 ・線形代数とその応用 ・学校数学における代数学の位置づけ</p> <p><到達目標> 算数・数学科教育代数学分野で扱われている教科内容を代数学の学問的見地から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す代数学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、数学教育に必要な数学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容・教材開発（算数・数学科教育代数学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 代数学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・数の集合と演算 ・整数論とその応用 ・実数と複素数 ・代数構造 ・方程式とその背景 ・不等式とその背景 ・多項式とその性質 ・群論とその応用 ・環論とその応用 ・体論とその応用 ・線形代数とその応用 ・学校数学における代数学の位置づけ</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら代数学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
	教科内容研究（算数・数学科教育幾何学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 幾何学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・集合論 ・微積分学 ・曲線・曲面 ・面積と体積 ・線型代数学 ・アフィン幾何学</p> <p><到達目標> 算数・数学科教育幾何学分野で扱われている教科内容を幾何学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す幾何学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、幾何学教育に必要な幾何学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容・教材開発（算数・数学科教育幾何学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 幾何学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・集合論 ・微積分学 ・曲線・曲面 ・面積と体積 ・線型代数学 ・アフィン幾何学</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら幾何学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
	教科内容研究（算数・数学科教育解析学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 解析学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・離散確率モデル ・ベルヌーイ分布 ・二項分布 ・ポアソン分布 ・超幾何分布 ・多項分布 ・フル多項モデル ・積多項モデル ・二元分割表</p> <p><到達目標> 数学科教育解析学分野で扱われている教科内容を解析学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。解析学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、数学科教育に必要な解析学の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（算数・数学科教育解析学分野）Ⅱ	<授業の概要> 解析学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・極限 ・微分 ・積分 ・関数 ・級数 ・数学と社会生活 ・ベクトル ・直交性 ・連続性 ・物理学と解析学の関わり ・学校数学と解析学の関わり <到達目標> 算数・数学科教育解析学分野で扱われている教科内容を解析学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す解析学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、数学教育に必要な解析学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（算数・数学科教育解析学分野）Ⅰ	<授業の概要> 解析学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・離散確率モデル ・ベルヌーイ分布 ・二項分布 ・ポアソン分布 ・超幾何分布 ・多項分布 ・フル多項モデル ・積多項モデル ・二元分割表 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら解析学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（算数・数学科教育解析学分野）Ⅱ	<授業の概要> 解析学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・極限 ・微分 ・積分 ・関数 ・級数 ・数学と社会生活 ・ベクトル ・直交性 ・連続性 ・物理学と解析学の関わり ・学校数学と解析学の関わり <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら解析学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（理科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・理科教育研究の研究領域 ・理科教育研究の方法論 ・理科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 理科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、理科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （共同／全8回） （32 安藤秀俊、163 高橋一将） （オムニバス方式／全8回） （4 森健一郎／2回）理科教育学の研究領域（目的・目標論）などを担当する。 （180 中山雅茂／4回）教科教育学における理科教育学の位置付けなどを担当する。 （182 長根智洋／2回）理科教育における理論研究と実践研究などを担当する。	一部オムニバス方式 一部共同
	教科教育研究の理論（理科教育）Ⅱ	<授業の概要> ・理科教育における今日的課題 ・理科教育の現代的動向 ・海外の理科教育事情など <到達目標> 理科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、理科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （共同／全8回） （32 安藤秀俊、163 高橋一将） （オムニバス方式／全8回） （4 森健一郎／3回）理科教育における今日的課題（先行研究における課題把握）などを担当する。 （180 中山雅茂／2回）理科教育学の先端研究（理科教育学研究の教材開発アプローチ）などを担当する。 （182 長根智洋／3回）理科教育学の先端研究（理科教育学研究の教材開発アプローチ）などを担当する。	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	<p>教科教育研究の実践と展開 (理科教育) I</p>	<p><授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校理科教育の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校理科教育の実践研究事例分析 (アクティブ・ラーニング、ICT活用、など)</p> <p><到達目標> 理科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>(共同/全8回) (32 安藤秀俊、163 高橋一将)</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (4 森健一郎/2回) 初等・中等教育の接続における主として小学校理科の実践研究事例 (見方・考え方の育成)などを担当する。 (180 中山雅茂/4回) 初等・中等教育の接続における主として小学校理科の実践研究事例 (ICTの活用)などを担当する。 (182 長根智洋/2回) 初等・中等教育の接続における主として小学校理科の実践研究事例 (アクティブ・ラーニング)などを担当する。</p>	一部オムニバス方式 一部共同
			<p>教科教育研究の実践と展開 (理科教育) II</p>	<p><授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校理科教育の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校理科教育の実践研究事例分析 (アクティブ・ラーニング、ICT活用、など)</p> <p><到達目標> 理科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>(共同/全8回) (32 安藤秀俊、163 高橋一将)</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (4 森健一郎/2回) 初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校理科の実践研究事例 (見方・考え方の育成)などを担当する。 (180 中山雅茂/2回) 初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校理科の実践研究事例 (ICTの活用)などを担当する。 (182 長根智洋/4回) 初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校理科の実践研究事例 (アクティブ・ラーニング)などを担当する。</p>	一部オムニバス方式 一部共同

<p>コース科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容の体系（理科教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における理科の全体的な内容構成 ・学問としての理科の視点から見た初等教育における理科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・理科の教師に求められる理科的素養 <p><到達目標></p> <p>理科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（17 柚木朋也／2回）オリエンテーション及びまとめ（理科の教師に求められる理科的素養）などを担当する。</p> <p>（21 蠣崎悌司／1回）初等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（22 木村賢一／1回）初等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（28 鈴木明彦／1回）初等教育における理科の領域「地球」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（72 高久元／1回）初等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（73 尾関俊浩／1回）初等教育における理科の領域「エネルギー」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（75 田口哲／1回）中等教育における理科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（99 菅正彦／1回）初等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（173 渡辺理文／2回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（17 柚木及び173 渡辺が第1回を、21 蠣崎及び99 菅が第4回を、22 木村及び72 高久が第5回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（65 中川雅仁／3回）初等教育における理科の領域「エネルギー」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（69 伊原禎雄／3回）初等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（76 松原尚志／3回）初等教育における理科の領域「地球」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（96 平山雄二／3回）初等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（180 中山雅茂／3回）中等教育における理科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（182 長根智洋／3回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（65 中川、69 伊原、76 松原、96 平山、180 中山及び182 長根が第1・8回を共同で実施する。）</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>
--------------	-------------	---------------------	-----------------------	---	-------------------------

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（理科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における理科の全体的な内容構成 ・学問としての理科の視点から見た中等教育における理科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・理科の教師に求められる理科的素養 <p><到達目標></p> <p>理科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（17 柚木朋也／2回）中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（21 蠣崎倂司／1回）中等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（22 木村賢一／1回）中等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（28 鈴木明彦／1回）中等教育における理科の領域「地球」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（72 高久元／1回）中等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（73 尾関俊浩／1回）中等教育における理科の領域「エネルギー」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（75 田口哲／1回）初等教育における理科からの接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（99 菅正彦／1回）中等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（173 渡辺理文／2回）オリエンテーション及びまとめ（理科の教師に求められる理科的素養）などを担当する。</p> <p>（17 柚木及び173 渡辺が第1回を、21 蠣崎及び99 菅が第4回を、22 木村及び72 高久が第5回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（65 中川雅仁／3回）中等教育における理科の領域「エネルギー」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（69 伊原禎雄／3回）中等教育における理科の領域「生命」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（76 松原尚志／3回）中等教育における理科の領域「地球」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（96 平山雄二／3回）中等教育における理科の領域「粒子」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>（180 中山雅茂／3回）中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>（182 長根智洋／3回）初等教育における理科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。</p> <p>（65 中川、69 伊原、76 松原、96 平山、180 中山及び182 長根が第1・8回を共同で実施する。）</p>	オムニバス方式 一部共同
	教科内容研究（理科教育物理学分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪氷の構造と物性 ・自然災害の科学 ・質点系に働く力と運動 ・エネルギー循環と利用 ・原子核と核磁気共鳴 ・素粒子、宇宙論 <p><到達目標></p> <p>理科教育物理学分野で扱われている教科内容を物理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す物理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、物理学教育に必要な物理学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容研究（理科教育物理学分野）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <p>物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の構造と物性 ・エネルギー散逸と非保存力 ・振動と波動（光・音） ・弾性体 ・エネルギーと確率分布 ・気体や液体の運動 <p><到達目標></p> <p>理科教育物理学分野で扱われている教科内容を物理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す物理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、物理学教育に必要な物理学の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（理科教育物理学分野）Ⅲ	<授業の概要> 物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・超伝導と超流動 ・極低温技術 ・固体の構造と物性 ・粒子性と波動性 ・電気と磁気 ・熱的性質と状態変化 <到達目標> 理科教育物理学分野で扱われている教科内容を物理学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す物理学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、物理学教育に必要な物理学の専門的知識を深めることができる。
	教科内容・教材開発（理科教育物理学分野）Ⅰ	<授業の概要> 物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・雪氷の構造と物性 ・自然災害の科学 ・質点系に働く力と運動 ・エネルギー循環と利用 ・原子核と核磁気共鳴 ・素粒子、宇宙論 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら物理学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容・教材開発（理科教育物理学分野）Ⅱ	<授業の概要> 物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・生き物の構造と物性 ・エネルギー散逸と非保存力 ・振動と波動（光・音） ・弾性体 ・エネルギーと確率分布 ・気体や液体の運動 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら物理学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容・教材開発（理科教育物理学分野）Ⅲ	<授業の概要> 物理学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・超伝導と超流動 ・極低温技術 ・固体の構造と物性 ・粒子性と波動性 ・電気と磁気 ・熱的性質と状態変化 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら物理学の教科内容及び教材を開発することができる。
	教科内容研究（理科教育化学分野）Ⅰ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・物質の構成粒子 ・物質と化学結合 ・物質の状態・変化と化学平衡 ・化学電池と電気分解 ・化学反応とエネルギー ・生体分子 ・天然高分子化合物 ・化学におけるコンピュータの活用 <到達目標> 理科教育化学分野で扱われている教科内容を化学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す化学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、理科教育に必要な化学の専門的知識を深めることができる。
	教科内容研究（理科教育化学分野）Ⅱ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・水溶液と化学平衡 ・酸・塩基と中和 ・酸化と還元 ・遷移元素と錯体化学 ・無機化合物の性質 <到達目標> 理科教育化学分野で扱われている教科内容を化学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す化学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、理科教育に必要な化学の専門的知識を深めることができる。

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（理科教育化学分野）Ⅲ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・化学と環境 ・人間生活の中の化学 ・化学教育に対するICTの活用 <到達目標> 理科教育化学分野で扱われている教科内容を化学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す化学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、理科教育に必要な化学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育化学分野）Ⅰ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・物質の状態・変化と化学平衡 ・化学電池と電気分解 ・生体分子 ・天然高分子化合物 ・化学におけるコンピュータの活用 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら化学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育化学分野）Ⅱ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・水溶液と化学平衡 ・酸・塩基と中和 ・酸化と還元 ・遷移元素と錯体化学 ・無機化合物の性質 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら化学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育化学分野）Ⅲ	<授業の概要> 化学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・化学と環境 ・人間生活の中の化学 ・化学教育に対するICTの活用 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら化学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（理科教育生物学分野）Ⅰ	<授業の概要> 生物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・細胞と分子 ・細胞の機能 ・遺伝情報とその発現 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・高次生命現象（発生）の遺伝制御 ・高次生命現象（行動）の遺伝制御 ・生物学をもとにした科学技術と社会 <到達目標> 理科教育生物学分野で扱われている教科内容を生物学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。生物学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、生物学教育に必要な生物学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容研究（理科教育生物学分野）Ⅱ	<授業の概要> 生物学における以下のようなトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・生物の分類 ・生物の系統 ・生物の進化 ・生物の種類の多様性 ・生物の体の共通点と相違点 ・ICTの活用 <到達目標> 理科教育生物学分野で扱われている教科内容を生物学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。生物学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、生物学教育に必要な生物学の専門的知識を深めることができる。	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（理科教育生物学分野）Ⅲ	<授業の概要> 生物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・生物の生態 ・生態系 ・生物の保全 ・生物と環境 ・生物の適応 <到達目標> 理科教育生物学分野で扱われている教科内容を生物学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。生物学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、生物学教育に必要な生物学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育生物学分野）Ⅰ	<授業の概要> 生物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・細胞と分子 ・細胞の機能 ・遺伝情報とその発現 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・高次生命現象（発生）の遺伝制御 ・高次生命現象（行動）の遺伝制御 ・生物学をもとにした科学技術と社会 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら生物学の教科内容および教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育生物学分野）Ⅱ	<授業の概要> 生物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・生物の分類 ・生物の系統 ・生物の進化 ・生物の種類の多様性 ・生物の体の共通点と相違点 ・ICTの活用 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら生物学の教科内容および教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（理科教育生物学分野）Ⅲ	<授業の概要> 生物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・生物の生態 ・生態系 ・生物の保全 ・生物と環境 ・生物の適応 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら生物学の教科内容および教材を開発することができる。	
	教科内容研究（理科教育地学分野）Ⅰ	<授業の概要> 地学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・地球の活動 ・地震 ・火山 ・地殻変動 ・地球の歴史 ・地球の環境 ・生物の進化 ・日本列島の形成 ・地学史 ・データベース <到達目標> 理科教育地学分野で扱われている教科内容を地学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。地学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、地学教育に必要な地学の専門知識を深めることができる。	
	教科内容研究（理科教育地学分野）Ⅲ	<授業の概要> 地学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・宇宙の元素合成 ・恒星進化 ・恒星としての太陽 ・太陽系の形成 ・太陽系小天体 ・観測天文学 <到達目標> 理科教育地学分野で扱われている教科内容を地学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す地学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、地学教育に必要な地学の専門知識を深めることができる。	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発 (理科教育地学分野) I	<授業の概要> 地学における以下のようなトピックからいくつかのトピックを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・地球の活動 ・地震 ・火山 ・地殻変動 ・地球の歴史 ・地球の環境 ・生物の進化 ・日本列島の形成 ・地学史 ・データベース <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら地学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発 (理科教育地学分野) III	<授業の概要> 地学における以下のトピックスのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・宇宙の元素合成 ・恒星進化 ・恒星としての太陽 ・太陽系の形成 ・太陽系小天体 ・観測天文学 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら地学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I	<授業の概要> ・音楽科教育研究の研究領域 ・音楽科教育研究の方法論 ・音楽科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 音楽科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、音楽科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 (共同/全8回) (47 寺田貴雄、147 石出和也、162 小林美貴子)	一部共同
	教科教育研究の理論 (音楽科教育) II	<授業の概要> ・音楽科教育における今日的課題 ・音楽科教育の現代的動向 ・海外の音楽科教育事情 <到達目標> 音楽科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、音楽科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 (共同/全8回) (47 寺田貴雄、147 石出和也、162 小林美貴子)	一部共同
	教科教育研究の実践と展開 (音楽科教育) I	<授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校音楽科教育における実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校音楽科教育における実践研究事例分析 (アクティブ・ラーニング、ICT活用、など) <到達目標> 音楽科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。 (共同/全8回) (47 寺田貴雄、147 石出和也、162 小林美貴子)	一部共同
	教科教育研究の実践と展開 (音楽科教育) II	<授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校音楽科教育における実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校音楽科教育における実践研究事例分析 (アクティブ・ラーニング、ICT活用、など) <到達目標> 音楽科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。 (共同/全8回) (47 寺田貴雄、147 石出和也、162 小林美貴子)	一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（音楽科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における音楽科の全体的な内容構成 ・音楽研究（音楽学及び演奏論）の視点から見た小学校音楽科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・小学校教員として音楽科教育を研究・実践するために求められる音楽的素養 <p><到達目標></p> <p>音楽科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（共同／全8回） （71 木村貴紀、178 芳賀 均）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （58 鴨川太郎／5回）音楽研究（音楽学及び演奏論）の視点を踏まえた教科内容研究小学校音楽科「表現」領域・歌唱などを担当する。 （101 中西紗織／5回）小学校音楽科における教育内容と教材などを担当する。 （58 鴨川及び101 中西が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容の体系（音楽科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における音楽科の全体的な内容構成 ・音楽研究（音楽学及び演奏論）の視点から見た中学校音楽科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・中学校教員として音楽科教育を研究・実践するために求められる音楽的素養 <p><到達目標></p> <p>音楽科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（共同／全8回） （71 木村貴紀、178 芳賀 均）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （58 鴨川太郎／5回）音楽研究（音楽学及び演奏論）の視点を踏まえた教科内容研究（中学校音楽科「表現」領域・歌唱）などを担当する。 （140 小野亮祐／5回）中学校音楽科における教育内容と教材などを担当する。 （58 鴨川及び140 小野が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容研究（音楽科教育 声楽分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>声楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、実技及び講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声法及び発声指導法 ・合唱指導法 ・小中学校の歌唱教材 ・オペレッタ公演 ・アイヌ歌謡 ・イタリア声楽曲 ・イタリア歌劇 ・ICTの活用 ・音楽アウトリーチ <p><到達目標></p> <p>音楽科教育声楽分野で扱われている教科内容を声楽の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。音楽分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、音楽教育に必要な声楽の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容研究（音楽科教育 声楽分野）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <p>声楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、演習とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声楽発声 ・歌唱共通教材 ・日本歌曲 ・イタリア歌曲 ・ドイツ歌曲 ・フランス歌曲 ・各国オペラ アリア <p><到達目標></p> <p>音楽教育声楽分野で扱われている教科内容を声楽の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す声楽分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、音楽教育に必要な声楽の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) I	<授業の概要> 声楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・発声法及び発声指導法 ・合唱指導法 ・小中学校の歌唱教材 ・オペレッタ公演 ・アイヌ歌謡 ・イタリア声楽曲 ・イタリア歌劇 ・ICTの活用 ・音楽アウトリーチ <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら声楽の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) II	<授業の概要> 声楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・声楽発声 ・歌唱共通教材 ・日本歌曲 ・イタリア歌曲 ・ドイツ歌曲 ・フランス歌曲 ・各国オペラ アリア <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら声楽の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究(音楽科教育器楽分野) I	<授業の概要> 器楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・音楽理論 ・ソルフェージュ ・楽式 ・音楽史 ・演奏法 ・音楽批評 これらを総ざらいしつつ、それらの中のある単元に特化したあるいは統合的な取組の有用性を模索する。 <到達目標> 音楽科教育器楽分野で扱われている教科内容を器楽の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す器楽分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、器楽に必要な器楽の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容研究(音楽科教育器楽分野) II	<授業の概要> 器楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・器楽の歴史 ・器楽の構造 ・音楽科教育における器楽 ・リコーダー ・合奏 ・その他の器楽楽器 ・教材開発 <到達目標> 音楽科教育で扱われている教科内容を、器楽の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す器楽分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、器楽に必要な器楽分野の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) I	<授業の概要> 器楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・器楽の発達史 ・器楽性と声楽性 ・楽曲から俯瞰した楽器の在り方 ・楽器相互間でのアレンジについて ・楽器の特性 ・器楽曲に於けるメリット・デメリット <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら器楽の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) II	<授業の概要> 器楽における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・器楽の歴史 ・器楽の構造 ・音楽科教育における器楽 ・リコーダー ・合奏 ・その他の器楽楽器 ・教材開発 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら器楽の教科内容及び教材を開発することができる。	

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容研究（音楽科教育音楽学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>音楽学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <p>・西洋音楽史 ・楽曲分析 ・音楽社会学 ・日本音楽史 ・世界音楽 ・音楽民族学</p> <p><到達目標></p> <p>音楽科教育音楽学分野で扱われている教科内容を音楽学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す音楽学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、音楽教育に必要な音楽学の専門的知識を深めることができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（101 中西紗織／5回）日本音楽史からの知見及び手法とその音楽科教育の内容構築への応用などを担当する。</p> <p>（140 小野亮祐／5回）中学校・高等学校の教科内容についての西洋音楽史の見地からの再検討などを担当する。</p> <p>（101 中西及び140 小野が第1・8回を共同で実施する。）</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>
	<p>教科内容・教材開発（音楽科教育音楽学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>音楽学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。</p> <p>・西洋音楽史 ・楽曲分析 ・音楽社会学 ・日本音楽史 ・世界音楽 ・音楽民族学</p> <p><到達目標></p> <p>「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら音楽学の教科内容及び教材を開発することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回）</p> <p>（101 中西紗織／5回）日本音楽史からの知見と手法を用いた教材開発などを担当する。</p> <p>（140 小野亮祐／5回）西洋音楽史的な知見と手法からの教材開発などを担当する。</p> <p>（101 中西及び140 小野が第1・8回を共同で実施する。）</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>
	<p>教科教育研究の理論（図画工作・美術科教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>・図画工作・美術科教育研究の研究領域</p> <p>・図画工作・美術科教育研究の方法論</p> <p>・図画工作・美術科教育における理論研究と実践研究</p> <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、図画工作・美術科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。</p>	
	<p>教科教育研究の理論（図画工作・美術科教育）Ⅱ</p>	<p><授業の概要></p> <p>・図画工作・美術科教育における今日的課題</p> <p>・図画工作・美術科教育の現代的動向</p> <p>・海外の図画工作・美術科教育事情など</p> <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、図画工作・美術科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。</p>	
	<p>教科教育研究の実践と展開（図画工作・美術科教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>・初等・中等教育の接続における主として小学校図画工作科教育における実践研究</p> <p>・初等・中等教育の接続における主として小学校図画工作科教育における実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など）</p> <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p>	
	<p>教科教育研究の実践と展開（図画工作・美術科教育）Ⅱ</p>	<p><授業の概要></p> <p>・初等・中等教育における主として中学校・高等学校美術科教育における実践研究</p> <p>・初等・中等教育における主として中学校・高等学校美術科教育における実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など）</p> <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p>	

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（図画工作・美術科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の全体的な内容構成 ・学問としての美術の視点から見た図画工作科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・図画工作科の教師に求められる美術的素養 <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （84 李知恩／2回）図画工作科の「絵や立体・工作に表す活動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （128 花輪大輔／5回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （170 牧野香里／2回）図画工作科の鑑賞領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （84 李及び170 牧野が第6回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （35 南部正人／4回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （77 大石朋生／4回）図画工作科の鑑賞領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （158 岩永啓司／4回）図画工作科の「絵や立体・工作に表す活動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （35 南部、77 大石及び158 岩永が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （61 佐々木宰／4回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （67 福江良純／4回）図画工作科の鑑賞領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （122 富田俊明／4回）図画工作科の「絵や立体・工作に表す活動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （61 佐々木、67 福江及び122 富田が第1・8回を共同で実施する。）</p>	オムニバス方式 一部共同
			教科内容の体系（図画工作・美術科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術科の全体的な内容構成 ・学問としての美術の視点から見た美術科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・美術科の教師に求められる美術的素養 <p><到達目標></p> <p>図画工作・美術科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （84 李知恩／2回）美術科の表現領域における「デザイン（工芸）」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （128 花輪大輔／5回）中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （170 牧野香里／2回）美術科の表現領域における「絵画」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （84 李及び170 牧野が第6回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （35 南部正人／4回）中学校美術科学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （77 大石朋生／4回）中学校美術科の「絵や立体・工作に表す活動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （158 岩永啓司／4回）中学校美術科の「造形遊び」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （35 南部、77 大石及び158 岩永が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （61 佐々木宰／4回）中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （67 福江良純／4回）美術科の鑑賞領域の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （122 富田俊明／4回）美術科の表現領域における「現代アート」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （61 佐々木、67 福江及び122 富田が第1・8回を共同で実施する。）</p>	オムニバス方式 一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（図画工作・美術科教育絵画分野）Ⅰ	<授業の概要> 絵画における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・絵画表現 ・絵画鑑賞 ・絵画技法 <到達目標> 図画工作・美術科教育絵画分野で扱われている教科内容を絵画の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す絵画分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、図画工作・美術科教育に必要な絵画の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育絵画分野）Ⅰ	<授業の概要> 絵画における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・絵画の歴史 ・絵画材料 ・絵画教材 ・油彩画 ・水彩画 ・現代アート ・日本画 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら絵画の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ	<授業の概要> 彫刻における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・表現素材 ・表現技法 ・造形要素 ・実材を用いた彫造表現 ・塑造による写実表現 <到達目標> 図画工作・美術科教育彫刻分野で扱われている教科内容を彫刻学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す彫刻学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、図画工作・美術科教育に必要な彫刻学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ	<授業の概要> 彫刻学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・荻原守衛 ・石井鶴三 ・橋本平八 ・ロダン ・ブランクーンシ ・ジャコメッティ ・イサム・ノグチ ・星取り法 など <到達目標> 図画工作・美術科教育彫刻分野で扱われている教科内容を彫刻学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す彫刻学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、図画工作・美術科教育に必要な彫刻学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ	<授業の概要> 彫刻学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・表現素材 ・表現技法 ・造形要素 ・実材を用いた彫造表現 ・塑造による写実表現 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら彫刻学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ	<授業の概要> 彫刻学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・石井鶴三の造型理論 ・近代彫刻の造形法 など <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら彫刻学の教科内容及び教材を開発することができる。	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	<授業の概要> デザインにおける以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する内容の講義と演習を行う。 ・デザインと感性 ・デザインとテーマ設定 ・デザインの本来の意味 ・新しい角度から考えるデザイン ・デザインとクリエイティブティ ・心を豊かにするデザイン（障害を含む） ・デザイン思考の応用 ・人間の生活を楽しく豊かにするデザイン など <到達目標> 図画工作・美術科教育デザイン分野で扱っている教科内容を視覚デザイン・情報デザインの視点を取り入れ、専門的知識を活用しながら図画工作や美術に関わるデザイン教育に必要な専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	<授業の概要> デザインにおける以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・デザインと感性 ・デザインとテーマ設定 ・デザインの本来の意味 ・新しい角度から考えるデザイン ・デザインとクリエイティブティ ・心を豊かにするデザイン（障害を含む） ・デザイン思考の応用 ・人間の生活を楽しく豊かにするデザイン など <到達目標> 教科内容研究（図画工作・美術科教育デザイン分野）で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら図画工作や美術に関わるデザインの教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（保健体育科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・体育・保健体育科教育研究の研究領域 ・体育・保健体育科教育研究の方法論 ・体育・保健体育科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 体育・保健体育科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、体育・保健体育科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。	
	教科教育研究の理論（保健体育科教育）Ⅱ	<授業の概要> ・保健体育科教育における今日的課題 ・保健体育科教育の現代的動向 ・海外の保健体育科教育事情など <到達目標> 体育・保健体育科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較分析を通してそれぞれの特徴を理解し、保健体育科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。	
	教科教育研究の実践と展開（保健体育科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校体育科教育における実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校体育科教育における実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <到達目標> 体育・保健体育科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。	
	教科教育研究の実践と展開（保健体育科教育）Ⅱ	<授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校保健体育科教育における実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校保健体育科教育における実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <到達目標> 体育・保健体育科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（保健体育科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の全体的な内容構成 ・学問としての保健体育科教育学の視点から見た小学校体育科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・体育・保健体育の教師に求められる健康・スポーツ的要素 <p><到達目標></p> <p>体育・保健体育科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （116 板谷厚／4回）体育科の領域「器械運動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （209 小出高義／6回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （116 板谷及び209 小出が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （107 越川茂樹／4回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （165 山本悟／6回）体育科の領域「集団スポーツ」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （107 越川及び165 山本が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容の体系（保健体育科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校保健体育科の全体的な内容構成 ・学問としての保健体育科教育学の視点から見た中学校保健体育科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・保健体育科の教師に求められる健康・スポーツ的要素 <p><到達目標></p> <p>体育・保健体育科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （116 板谷厚／4回）保健体育科の領域「体づくり運動」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （209 小出高義／6回）中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （116 板谷及び209 小出が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （107 越川茂樹／4回）中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （165 山本悟／6回）保健体育科の領域「個人スポーツ」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （107 越川及び165 山本が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容研究（保健体育科教育体育学分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>体育学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成動機 ・意欲の高め方 ・自己効力感 ・自己決定感 ・他者受容感 ・運動嫌い <p><到達目標></p> <p>保健体育科教育体育学分野で扱われている教科内容を体育学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す体育学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、保健体育科教育に必要な体育学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	教科内容・教材開発（保健体育科教育体育学分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>体育学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動系 ・器械運動系 ・陸上運動系 ・水泳運動系 ・ボール運動系 ・表現運動系 <p><到達目標></p> <p>「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら体育学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（保健体育科教育運動学分野）Ⅰ	<授業の概要> 運動学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・運動発達 ・運動学習 ・運動の習熟過程 ・運動の構造と運動質 ・運動指導者と運動観察 ・運動の学習シーケンスの構築 <到達目標> 保健体育科で扱われている教科内容を運動学の学問的知見から再検討することができる。また検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す保健体育科の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、保健体育科教育に必要な運動学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（保健体育科教育運動学分野）Ⅰ	<授業の概要> 運動学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・運動発達 ・運動学習 ・運動の習熟過程 ・運動の構造と運動質 ・運動指導者と運動観察 ・運動の学習シーケンスの構築 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、運動学の専門的知識を活用しながら保健体育科の教科内容および教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）の研究領域 ・技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）の方法論 ・技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）における理論研究と実践研究 <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、技術科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （共同／全8回） （3 藤川聡、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘）	一部共同
	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅱ	<授業の概要> ・技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）の今日的課題 ・技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）の現代的動向 ・海外の技術教育事情 <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、技術科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （共同／全8回） （3 藤川聡、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘）	一部共同
教科教育研究の実践と展開（技術科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・初等・中等教育の接続における主として小学校におけるものづくり教育やプログラミング教育の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校におけるものづくり教育やプログラミング教育の実践研究事例分析（図画工作科・理科・総合的な学習の時間との関連など） <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。 （共同／全8回） （3 藤川聡、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘）	一部共同	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科教育研究の実践と展開 (技術科教育) II	<授業の概要> ・初等・中等教育における主として中学校技術科教育及び高等学校工業科教育の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校技術科教育及び高等学校工業科教育の実践研究事例分析 (アクティブ・ラーニング、ICT活用など) <到達目標> 技術科教育 (小学校ものづくり、プログラミング教育を含む) における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。 (共同/全8回) (3 藤川聡、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘)	一部共同
	教科内容の体系 (技術科教育) I	<授業の概要> ・初等教育におけるものづくり教育やプログラミング教育の全体的な内容構成 ・学問としてのtechnologyの視点から見た初等教育におけるものづくり教育・プログラミング教育の内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た指導内容の配列と構成 ・初等教育の教師に求められる技術的素養 <到達目標> 技術科教育 (小学校ものづくり、プログラミング教育を含む) における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。 (共同/全8回) (37 渡壁誠、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘) (オムニバス方式/全8回) (106 大矢智/2回) 初等教育におけるものづくり教育の「材料と加工法」に関する内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (136 石川智浩/2回) 初等教育におけるものづくり教育の「エネルギー変換」に関する内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (161 出口哲久/1回) 中等教育における技術科への接続に関わる内容の系統性などを担当する。 (179 佐藤正直/3回) 初等教育におけるものづくり教育の「設計」に関する内容の背景にある学問の体系などを担当する。	一部オムニバス方式 一部共同
	教科内容の体系 (技術科教育) II	<授業の概要> ・中等教育における技術科の全体的な内容構成 ・学問としてのtechnologyの視点から見た中等教育における技術科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・技術科の教師に求められる技術的素養 <到達目標> 技術科教育 (小学校ものづくり、プログラミング教育を含む) における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。 (共同/全8回) (37 渡壁誠、52 勝本敦洋、152 小泉匡弘) (オムニバス方式/全8回) (106 大矢智/1回) 中等教育における技術科の領域「材料と加工の技術」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (136 石川智浩/2回) 中等教育における技術科の領域「エネルギー変換の技術」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (161 出口哲久/1回) 中等教育における技術科の領域「生物育成の技術」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 (179 佐藤正直/4回) 中学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容研究（技術科教育 木材加工分野）Ⅰ	<授業の概要> 木材加工学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・木材や木質材料の特徴 ・木材加工の技術 ・木材を生み出す森林の機能 ・日本人の木材資源の合理的な利用法 など <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）木材加工分野で扱われている教科内容を木材加工学などの学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す木材加工分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）に必要な木材加工学などの専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（技術科教育木材加工分野）Ⅰ	<授業の概要> 木材加工学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・木材と他材料の強度の比較 ・木材の収縮膨潤の理解 ・木材の温かみの理解 ・木材の合理的な利用法の検討 など <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら木材加工学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（技術科教育 機械分野）Ⅰ	<授業の概要> 機械工学の以下のトピックスの内からいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う ・材料力学 ・構造力学 ・運動力学 ・機構学 ・制御工学 ・力学的シミュレーション ・設計学 ・ロボティクス ・エネルギー変換技術 <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）におけるエネルギー変換に関する技術、情報に関する技術で取り扱われている教科内容を機械工学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す機械分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、技術科教育に必要な機械工学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（技術科教育機械分野）Ⅰ	<授業の概要> 機械工学の以下のトピックスの内からいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う ・材料力学 ・構造力学 ・運動力学 ・機構学 ・制御工学 ・力学的シミュレーション ・設計学 ・ロボティクス ・エネルギー変換技術 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら技術科教育におけるエネルギー変換に関する技術、情報に関する技術で取り扱われている教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（技術科教育 電気分野）Ⅰ	<授業の概要> 情報通信工学における以下のトピック例を用いた講義・ディスカッションを行い、教育現場を想定し教材開発の検討を行う。 ・電波通信の理解を深める教材研究（アンテナ・無線機・ラジオなど） ・各種センサを用いたデータロギングシステム製作に関する教材研究 ・生活に役立つパソコン周辺機器開発を行う教材研究 <到達目標> 技術科教育電気分野で扱われている教科内容を情報通信工学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す情報通信工学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、技術科教育に必要な情報通信工学の専門的知識を深めることができる。	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発（技術科教育電気分野）Ⅰ	<授業の概要> 情報通信工学における以下のトピック例を用いた講義・ディスカッションを行い、教育現場を想定し教材開発の演習を行う。 ・電波通信の理解を深める教材研究（アンテナ・無線機・ラジオなど） ・各種センサを用いたデータロギングシステム製作に関する教材研究 ・パソコンや周辺機器を用いた教材研究 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら情報通信工学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（技術科教育栽培分野）Ⅰ	<授業の概要> 生物育成学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・人口増加と食料生産 ・作物の遺伝的改良 ・植物の環境応答 ・病虫害防除と農薬 ・持続可能な農業生産 <到達目標> 技術科教育（小学校ものづくり、プログラミング教育を含む）生物育成分野で扱われている教科内容を農学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す生物育成分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、技術教育に必要な農学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（技術科教育栽培分野）Ⅰ	<授業の概要> 生物育成学における以下のトピックのうちからいくつかのトピックを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・人口増加と食料生産 ・作物の遺伝的改良 ・植物の環境応答 ・病虫害防除と農薬 ・持続可能な農業生産 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら生物育成の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（技術科教育情報分野）Ⅰ	<授業の概要> 情報通信工学における通信技術・情報保存技術を知り、システム構築の経験を積む。システムの仕様書や回路図作成などを学ぶ。 <到達目標> 技術科教育情報分野で扱われている教科内容を情報通信工学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す情報通信工学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、技術科教育に必要な情報通信工学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（技術科教育情報分野）Ⅰ	<授業の概要> 情報・電子工学における以下のトピック例を用いた教材開発演習を行う。 ・身近にある物を用いた情報・電子関係の教育教材開発 ・実例を用いた測定データ取得の教材開発 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら情報通信工学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・家庭科教育研究の研究領域 ・家庭科教育研究の方法論 ・家庭科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 家庭科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、家庭科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／5回）家庭科教育史の研究及び家庭科教育における理論研究などを担当する。 （70 川邊淳子／5回）家庭科教育における「衣食住の生活」領域の研究と方法などを担当する。 （27 岡田及び70 川邊が第1・8回を共同で実施する。）	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育における今日的課題 ・家庭科教育の現代的動向 ・海外の家庭科教育事情など <p><到達目標></p> <p>家庭科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、家庭科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／5回）家庭科教育から見た子どもと家族の現在などを担当する。 （70 川邊淳子／5回）家庭科教育における「消費生活・環境」に関する今日的課題などを担当する。 （27 岡田及び70 川邊が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育の接続における主として小学校における家庭科の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校における家庭科の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>家庭科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／6回）初等・中等教育の接続における主として小学校における家庭科の実践研究事例（アクティブ・ラーニング）などを担当する。 （70 川邊淳子／4回）初等・中等教育の接続における主として小学校における家庭科の実践研究事例（見方・考え方の育成）などを担当する。 （27 岡田及び70 川邊が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同
	教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校家庭科の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校家庭科の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>家庭科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／4回）初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校家庭科の実践研究事例（見方・考え方の育成）などを担当する。 （70 川邊淳子／6回）初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校家庭科の実践研究事例（アクティブ・ラーニング）などを担当する。 （27 岡田及び70 川邊が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同

コース科目	専 門 科 目	教 科 指 導 ・ 授 業 開 発 コ ー ス	教科内容の体系（家庭科教育）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校家庭科の全体的な内容構成 ・学問としての家政学の視点から見た小学校家庭科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・家庭科の教師に求められる家政学的素養 <p><到達目標></p> <p>家庭科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （36 増淵哲子／2回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴と中等教育への接続などを担当する。 （63 浅野千恵／4回）初等教育における家庭科の教科内容「日常着の着方」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （104 今尚之／4回）初等教育における家庭科の教科内容「環境」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （36 増淵、63 浅野及び104 今が第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／3回）初等教育における家庭科の教科内容「環境」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （70 川邊淳子／3回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴と中等教育への接続などを担当する。 （108 小松恵美子／4回）初等教育における家庭科の教科内容「日常着の着方」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （27 岡田、70 川邊及び108 小松が第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （33 鎌田浩子／5回）初等教育における家庭科の教科内容「自分の生活と身近な環境」の内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （172 土岐圭佑／5回）小学校学習指導要領における内容構成の特徴と中等教育への接続などを担当する。 （33 鎌田及び172 土岐が第1・8回を共同で実施する。）</p>	オムニバス方式 一部共同
			教科内容の体系（家庭科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校家庭科の全体的な内容構成 ・学問としての家政学の視点から見た中学校家庭科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・家庭科の教師に求められる家政学的素養 <p><到達目標></p> <p>家庭科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （36 増淵哲子／2回）中等教育における内容構成の特徴と小中連携から見た小学校との接続などを担当する。 （63 浅野千恵／4回）中等教育における家庭科の教科内容「衣服の選択」の背景にある学問の体系などを担当する。 （104 今尚之／4回）中等教育における家庭科の教科内容「住居の機能」の背景にある学問の体系などを担当する。 （36 増淵、63 浅野及び104 今が第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （27 岡田みゆき／3回）中等教育における家庭科の教科内容「家族・家庭と地域」の背景にある学問の体系などを担当する。 （70 川邊淳子／3回）中等教育における内容構成の特徴と小中連携から見た小学校との接続などを担当する。 （108 小松恵美子／4回）中等教育における家庭科の教科内容「衣服の手入れ」の背景にある学問の体系などを担当する。 （27 岡田、70 川邊及び108 小松が第1回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （33 鎌田浩子／5回）中等教育における家庭科の教科内容「消費者の権利と責任」の背景にある学問の体系などを担当する。 （172 土岐圭佑／5回）中等教育における内容構成の特徴と小中連携から見た小学校との接続などを担当する。 （33 鎌田及び172 土岐が第1・8回を共同で実施する。）</p>	オムニバス方式 一部共同

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	教科内容研究（家庭科教育食物学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 食物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・食品の消費と流通 ・味覚教育（官能評価） ・栄養と健康 ・伝統食の継承</p> <p><到達目標> 家庭科教育食物学分野で扱われている教科内容を食物学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す食物学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、家庭科教育に必要な食物学の専門的知識を深めることができる。</p>	
			教科内容研究（家庭科教育食物学分野）Ⅱ	<p><授業の概要> 食物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・食生活と健康 ・食事バランスガイド ・調理技術の向上 ・おいしさの科学</p> <p><到達目標> 家庭科教育食物学分野で扱われている教科内容を食物学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す食物学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、家庭科教育に必要な食物学の専門的知識を深めることができる。</p>	
			教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 食物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・食品の消費と流通 ・味覚教育（官能評価） ・栄養と健康 ・伝統食の継承</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら食物学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅱ	<p><授業の概要> 食物学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・食生活と健康 ・食事バランスガイド ・調理技術の向上 ・おいしさの科学</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら食物学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
			教科内容研究（家庭科教育被服学分野）Ⅰ	<p><授業の概要> 被服学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・被服のはたらき（機能） ・被服と体温調節（温熱環境） ・被服と動きやすさ（運動動作） ・被服の素材（被服材料） ・被服の手入れ（被服管理） ・布を用いた製作（被服構成） ・被服の歴史（服飾史） ・被服の表現（被服意匠） ・被服の生産・消費（消費科学）</p> <p><到達目標> 家庭科教育被服分野で扱われている教科内容を被服学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す被服学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、被服教育に必要な被服学の専門的知識を深めることができる。</p>	

コース科目 専門科目 教科指導・授業開発コース	教科内容・教材開発（家庭教育被服学分野）Ⅰ	<授業の概要> 被服学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・被服のはたらき（機能） ・被服と体温調節（温熱環境） ・被服と動きやすさ（運動動作） ・被服の素材（被服材料） ・被服の手入れ（被服管理） ・布を用いた製作（被服構成） ・被服の歴史（服飾史） ・被服の表現（被服意匠） ・被服の生産・消費（消費科学） <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら被服学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科内容研究（家庭教育家政一般分野）Ⅰ	<授業の概要> 以下のトピックからいくつかのものを選んで、講義・ディスカッションを行う。 ・生活経営 ・家族関係 ・生活経済 ・消費者教育 ・持続可能な環境 ・生活科学 ・環境教育 ・歴史的・文化的環境 ・生活文化 ・防災教育 ・SDGs（持続可能な開発目標） ・北海道の環境 <到達目標> 家庭教育家政一般分野で扱われている教科内容を、学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探求の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す家政学の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、家庭教育に必要な家政学の専門的知識を深めることができる。	
	教科内容・教材開発（家庭教育家政一般分野）Ⅰ	<授業の概要> 家政学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・生活経営 ・家族関係 ・生活経済 ・消費者教育 ・持続可能な環境 ・生活科学 ・環境教育 ・歴史的・文化的環境 ・生活文化 ・防災教育 ・SDGs（持続可能な開発目標） ・北海道の環境 <到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方を基礎にして、専門的知識を活用しながら家政学の教科内容及び教材を開発することができる。	
	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅰ	<授業の概要> ・英語科教育研究の研究領域 ・英語科教育研究の方法論 ・英語科教育における理論研究と実践研究 <到達目標> 英語科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、英語科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （オムニバス方式／全8回） （18 萬谷隆一／5回）英語教育学における小学校英語教育の歴史的経緯と位置付けなどを担当する。 （92 志村昭暢／3回）英語教育学の研究領域（カリキュラム・教材構成）などを担当する。	一部オムニバス方式
	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅱ	<授業の概要> ・英語科教育における今日的課題 ・英語科教育の現代的動向 ・海外の英語科教育事情など <到達目標> 英語科教育における研究領域と研究方法を理解するとともに、理論研究と実践研究の比較・分析を通してそれぞれの特徴を理解し、英語科教育の今日的課題にどのようにアプローチするかを構想することができる。 （オムニバス方式／全8回） （18 萬谷隆一／3回）海外の教育研究（アジアにおける早期英語教育研究事例）などを担当する。 （92 志村昭暢／5回）英語教育学の先端研究（英語教育学研究の教授法的アプローチ）などを担当する。	一部オムニバス方式

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科教育研究の実践と展開 (英語科教育) I</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育の接続における主として小学校における外国語活動・外国語科の実践研究 ・初等・中等教育の接続における主として小学校における外国語活動・外国語科の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>英語科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(18 萬谷隆一/6回) 初等・中等教育の接続における主として小学校における外国語活動・外国語科の実践研究事例（アクティブ・ラーニング）などを担当する。</p> <p>(92 志村昭暢/2回) 初等・中等教育の接続における主として小学校における外国語活動・外国語科の実践研究事例（ICTの活用）などを担当する。</p>	<p>一部オムニバス方式</p>
	<p>教科教育研究の実践と展開 (英語科教育) II</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校英語科教育の実践研究 ・初等・中等教育における主として中学校・高等学校英語科教育の実践研究事例分析（アクティブ・ラーニング、ICT活用、など） <p><到達目標></p> <p>英語科教育における実践的研究の展開について、様々な実践事例を通して学ぶとともに、具体的な授業への活かし方など、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(18 萬谷隆一/2回) 初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校英語科の実践研究事例（コミュニケーション能力の育成と文法・語彙の習得）などを担当する。</p> <p>(92 志村昭暢/6回) 初等・中等教育の接続における主として中学校・高等学校英語科の実践研究事例（アクティブ・ラーニング）などを担当する。</p>	<p>一部オムニバス方式</p>
	<p>教科内容の体系（英語科教育） I</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初等教育における外国語（英語）科の全体的な内容構成 ・学問としての英語の視点から見た初等教育における外国語（英語）科の教科内容の背景と構成 ・小中連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・初等教育の教師に求められる英語的素養 <p><到達目標></p> <p>英語科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(18 萬谷隆一/4回) 小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>(92 志村昭暢/2回) 初等教育における外国語活動・外国語科の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>(120 大賀京子/1回) 初等教育における外国語活動・外国語科の音声・文構造の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>(164 本多尚子/1回) 初等教育における外国語活動・外国語科の語彙・文化の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>(オムニバス方式、一部共同/全8回)</p> <p>(56 笠原/4回) 小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p> <p>(57 片桐徳昭/4回) 英語科の領域「コミュニケーション」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>(86 十枝内康隆/4回) 英語科の領域「英語文学」の背景にある学問の体系などを担当する。</p> <p>(56 笠原、57 片桐及び86 十枝内が第1・8回を共同で実施する。)</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(160 根本顕士/4回) 初等教育における外国語活動・外国語科の意味・文構造の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>(174 細田雅也/2回) 初等教育における外国語活動・外国語科の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>(175 鈴木健太郎/2回) 小学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p>	<p>オムニバス方式 一部共同</p>

コース科目	専門科目	教科指導・授業開発コース	教科内容の体系（英語科教育）Ⅱ	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における英語科の全体的な内容構成 ・学問としての英語教育学の視点から見た中等教育における英語科の教科内容の背景と構成 ・小中、中高連携の視点で見た教科内容の配列と構成 ・英語科の教師に求められる英語的素養 <p><到達目標></p> <p>英語科教育における初等・中等教育の教科内容及びその系統性と背景となる学問との関係を理解するとともに、これらの理解に基づき教科内容学の研究基盤を構築することができる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （18 萬谷隆一／2回）中等教育における英語科の内容の背景にある学問体系などを担当する。 （92 志村昭暢／4回）中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。 （120 大賀京子／1回）中等教育における英語科の音声・文構造の内容の背景にある学問体系などを担当する。 （164 本多尚子／1回）中等教育における英語科の語彙・文化の内容の背景にある学問体系などを担当する。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （117 井筒勝信／6回）中等教育における英語科の運用技能的内容の背景にある学問の体系などを担当する。 （131 山田祥一／7回）中等教育における英語科の語彙的内容の背景にある学問体系などを担当する。 （117 井筒及び131 山田が第1・2・3・7・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （160 根本顕土／4回）中等教育における英語科の意味・文構造の内容の背景にある学問体系などを担当する。 （174 細田雅也／2回）中等教育における英語科の内容の背景にある学問体系などを担当する。 （175 鈴木健太郎／2回）中学校・高等学校学習指導要領における内容構成の特徴などを担当する。</p>	オムニバス方式 一部共同
			教科内容研究（英語科教育英語学分野）Ⅰ	<p><授業の概要></p> <p>英語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声と語の仕組み ・文の仕組み ・意味の仕組み ・英語史 ・言語獲得 ・談話語用論 <p><到達目標></p> <p>英語科教育英語学分野で扱われている教科内容を英語学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す英語学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、英語教育に必要な英語学の専門的知識を深めることができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （120 大賀京子／5回）「音声と語の仕組み」に関する教科内容の日英対照研究からの再検討などを担当する。 （164 本多尚子／5回）「英語史」に関する教科内容の生成文法研究からの再検討などを担当する。 （120 大賀及び164 本多が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （117 井筒勝信／5回）「意味の仕組み」に関する教科内容の談話機能的語用論からの再検討などを担当する。 （131 山田祥一／5回）「文の仕組み」に関する教科内容の認知機能主義からの再検討などを担当する。 （117 井筒及び131 山田が第1・8回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>教科指導・授業開発コース</p>	<p>教科内容・教材開発（英語科教育英語学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 英語学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・音声と語の仕組み ・文の仕組み ・意味の仕組み ・英語史 ・言語獲得 ・談話語用論</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら英語学の教科内容および教材を開発することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （120 大賀京子／5回）「意味の仕組み」の教材開発などを担当する。 （164 本多尚子／5回）「文の仕組み」の教材開発などを担当する。 （120 大賀及び164 本多が第1・8回を共同で実施する。）</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （117 井筒勝信／5回）「文の仕組み」の教材開発（演習）などを担当する。 （131 山田祥一／5回）「意味の仕組み」の教材開発などを担当する。 （117 井筒及び131 山田が第1・8回を共同で実施する。）</p>	<p>一部オムニバス方式 一部共同</p>
	<p>教科内容研究（英語科教育英米文学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 英米文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・人間生活の中の英米文学 ・文学教育とICTの活用 ・英米絵本にみる子どもと大人 ・英語科教育の中の英米文学 ・英米文学と異文化理解</p> <p><到達目標> 英語科教育英米文学分野で扱われている教科内容を英米文学の学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す英米文学分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、英語科教育に必要な英米文学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	<p>教科内容・教材開発（英語科教育英米文学分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 英米文学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う。 ・人間生活の中の英米文学 ・文学教育とICTの活用 ・英米絵本にみる子どもと大人 ・英語科教育の中の英米文学 ・英米文学と異文化理解</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら英米文学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	
	<p>教科内容研究（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 英語コミュニケーション学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、講義とディスカッションを行う。 ・言語使用 ・TBLT（タスクに基づく言語指導） ・英文読解 ・英語ラズティング ・教室談話 ・CLIL ・コーパス</p> <p><到達目標> 英語教育英語コミュニケーション分野で扱われている教科内容を英語コミュニケーションの学問的知見から再検討することができる。また、検討結果をもとに、探究の過程を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す英語コミュニケーション分野の教科内容の在り方を発達段階も意識して考察するとともに、英語教育に必要な英語コミュニケーション学の専門的知識を深めることができる。</p>	
	<p>教科内容・教材開発（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ</p>	<p><授業の概要> 英語コミュニケーション学における以下のトピックのうちからいくつかを選んで、それらに関する教材開発の演習を行う ・言語使用 ・TBLT（タスクに基づく言語指導） ・英文読解 ・英語テストティング ・教室談話 ・CLIL ・コーパス分析ツール</p> <p><到達目標> 「教科内容研究」で考察した教科内容の在り方をもとに、専門的知識を活用しながら英語コミュニケーション学の教科内容及び教材を開発することができる。</p>	

コース科目	専門科目	特別支援教育コース	障害のある子どもの理解と支援Ⅰ	<p><授業の概要> 知的障害はしばしば言語の遅れを伴い、自閉症スペクトラム障害の併存も多く見られる。本授業では、知的障害及びASDの幼児児童生徒の心理・発達の特徴と実態把握の方法について学ぶものである。また、演習では、実態把握を踏まえた支援、及び他機関との連携の在り方を議論を通して、障害特性に応じた支援方法と実践的思考力、行動力を身に付けることを目指す。</p> <p><到達目標> 知的障害（言語障害を含む）等の児童生徒の特性と支援方法を理解することができる。</p> <p>（共同／全8回） （16 三浦哲、171 池田千沙）</p>	一部共同 講義5回 演習3回
			障害のある子どもの理解と支援Ⅱ	<p><授業の概要> 自閉症スペクトラム障害及び近接領域の特性を有する子どもにとって、社会性に関連する特性は彼らの生活適応に顕著な影響を及ぼしている。本講義ではまず、そのような社会性の特異的発達とそれが関連している困難性を学習していく。またそれらの知識を基盤として、個別の特性や生活環境に適した支援及びそれに必要な実態把握の実践的手段を紹介する。社会性に関わる支援は子どもの生活環境全般で実施されるものであり、家庭を中心とした関連機関との連携が効果的な支援へとつながるプロセスを検証し、同時に現実的課題について考察を深めていく。</p> <p><到達目標> 自閉症スペクトラム障害等の社会面の発達に困り感を持つ児童生徒の特性と支援方法を理解することができる。</p>	
			特別支援教育のシステムと実際	<p><授業の概要> ・特別支援教育分野における障害種、障害の程度に応じた教育制度、校内支援の環境整備に関する現状と課題を理解する ・障害種に応じた各種学校・学級、通級による指導、通常学級における授業づくりの実際について理解する ・医療・福祉機関との連携や海外の制度やインクルーシブ教育の動向について把握する ・特別支援教育に関わる教育・福祉・医療分野の特徴について、特定の障害や国に関する基本的知識を活用してプレゼンテーションを行い、議論や意見交換において理解を深める</p> <p><到達目標> 特別な支援を必要とする子どもに関わる特別支援教育のシステムの特性を理解し、実際の課題や運用を理解することができる。</p> <p>（オムニバス方式、一部共同／全8回） （26 五十嵐靖夫／3回）校内支援の環境整備の実際と授業づくりなどを担当する。 （45 北村博幸／3回）障害及び特別なニーズのある子どもの学習支援などを担当する。 （90 細谷一博／4回）通常学級におけるインクルーシブ教育実践の在り方の議論などを担当する。 （26 五十嵐、45 北村及び90 細谷が第1回を共同で実施する。）</p>	一部オムニバス方式 一部共同 講義2回 演習6回
			障害のある子どもの理解と支援Ⅲ	<p><授業の概要> 学習面に困難を持つ学習障害を中心に本授業を行う。学習障害の中核は読み書きの障害であり、この読み書きを中心とした学習面の困難に関して、幼児、児童、生徒の実態を理解していくことを目指す。また学習障害の背景にある特性についての理解、アセスメント方法、介入方法などを講義と演習をおりまぜて学習していく。学習障害特性を持つ子どもに対して、効果的な学習環境の調整、及び学校内で行う合理的配慮、他機関との連携の取り方についても議論をしていく。</p> <p><到達目標> 学習障害等の学習面の発達に困り感をもつ児童生徒の特性と支援方法を理解することができる。</p>	講義4回 演習4回

コース科目 専門科目 特別支援教育コース	障害のある子どもの理解と支援Ⅳ	<授業の概要> 本授業では、注意欠陥多動性障害(注意欠如・多動症：AD/HD)の行動面の障害と発達及び心理について学ぶ。まず、中核症状である不注意、多動性・衝動性の特徴と背景要因についての理解を深めながら、実態把握の方法を学ぶ。注意欠陥多動性障害の教育・支援にあたっては、環境調整とともに、心理社会的介入や医療的介入も必要となることから、その実際についても触れ、他機関との連携の在り方を議論する。加えて、自尊感情の低下といった二次障害や、うつ・不安障害などを併存することが少なくないことから、学校卒業後のライフサイクルを見通した支援の在り方について考察を深める。 <到達目標> 注意欠陥多動性障害等の行動面の発達に困り感を持つ児童生徒の特性と支援方法を理解することができる。	講義4回 演習4回
	障害のある子どもの理解と支援Ⅴ	<授業の概要> 本授業では、発達性協調運動障害や肢体不自由など運動や動作面の課題を呈する発達障害児の心理、運動発達面での理解と実態把握の方法を学ぶ。発達性協調運動障害は、しばしば自閉症スペクトラム障害など他の発達障害と併存することから、併存症に対する理解と実態把握についても触れる。加えて、感覚処理特性について心理的、発達の側面からの理解と実態把握についても触れる。演習では、実態把握を踏まえた支援、及び他機関との連携の在り方を議論することにより、特性に応じた支援方法と実践的思考力、行動力を身に付けることを目指す。 <到達目標> 発達性協調運動障害、ならびに肢体不自由をはじめとした運動や動作面での課題を呈する発達障害のある子どもの、特性理解に基づく支援方法を立案することができる。	講義4回 演習4回
	現代社会と障害児・者	<授業の概要> 本授業では、障害児・者の地域生活における多様なニーズを知るとともに、ニーズに対応した様々な生活支援の内容について学ぶ。またそれらの生活支援の担い手としての支援機関や支援組織について知るとともに、生活と余暇・スポーツ、就労などの支援内容とその関連性についても考える。またこれらを支える支援機関と学校との連携の実際について、現状を知るとともに、その課題について議論する。 <到達目標> 地域社会で暮らす障害児・者の視点から、充実した生活・余暇支援、就労支援の在り方を理解することができる。	講義4回 演習4回
	発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援	<授業の概要> 本授業では、事例検討等で用いられる単一事例デザインの方法ならびに調査研究に必要な統計知識や研究手法などを、主として具体的な実践論文等から学ぶ。特に問題行動などに対する介入事例やその効果検討について学ぶことにより、教育現場において効果的な実践かどうかを検討することができるスキルを身に付けることを目指す。 <到達目標> 障害のある子どもの心と行動にアプローチする方法について理解することができる。 (共同/全8回) (16 三浦哲、26 五十嵐靖夫、45 北村博幸、50 安井友康、80 萩原拓、90 細谷一博、98 小淵隆司、100 小野川文子、124 齊藤真善、132 片桐正敏、134 千賀愛、142 戸田竜也、149 蔦森英史、171 池田千沙)	共同 講義6回 演習2回

コース科目 専門科目 特別支援教育コース	特別支援教育の現代的課題と教育実践	<p><授業の概要> 本授業では、特別支援教育に関連する現代的課題を整理し、主に実践研究から、証拠に基づいた実践 (Evidence-based practice、EBP) のアプローチについて学ぶ。主に演習形式により、教育現場での種々の問題 (子どもの問題行動や保護者との連携、ギフテッドやLGBT、外国人の支援など新たな特別支援教育の課題など) に関する学術的成果について、EBPに基づいた教育現場での実践について議論を深め、教育現場の課題を理論的に整理することを目指す。</p> <p><到達目標> 特別支援教育における現代的課題を想定し、エビデンスに基づいた教育実践を行うためのアプローチを理解する。</p> <p>(共同/全8回) (16 三浦哲、26 五十嵐靖夫、45 北村博幸、50 安井友康、80 萩原拓、90 細谷一博、98 小淵隆司、100 小野川文字、124 齊藤真善、132 片桐正敏、134 千賀愛、142 戸田竜也、149 蔦森英史、171 池田千沙)</p>	共同 講義1回 演習7回
	特別支援教育の実践と理論	<p><授業の概要> 日本国内及び海外の特別支援教育に関連する最新の教育、心理、福祉分野の研究について学び、基礎理論と教育実践の融合、理論と実践の往還について、議論を行う。授業では、特にこれまで蓄積されてきた学術的成果について、どのように教育現場で実践を行うか、証拠に基づいた実践 (Evidence-based practice、EBP) の在り方などについて議論を深め、教育現場の課題を理論的に整理することを目指す。</p> <p><到達目標> 特別支援教育に関する研究成果を学び、教育現場の課題を理論的に整理することができる。</p> <p>(共同/全8回) (16 三浦哲、50 安井友康、80 萩原拓、98 小淵隆司、124 齊藤真善、132 片桐正敏、134 千賀愛、142 戸田竜也、149 蔦森英史、171 池田千沙)</p> <p>(オムニバス方式、一部共同/全8回) (26 五十嵐靖夫/6回) 特別支援教育における指導法 (心理的側面) に関わる文献発表などを担当する。 (45 北村博幸/6回) 特別支援教育における指導法 (発達/行動的側面) に関わる文献発表などを担当する。 (90 細谷一博/6回) 教育現場の課題に関わる文献発表などを担当する。 (26 五十嵐、45 北村及び90 細谷が第1・2・4・6・8回を共同で実施する。)</p>	一部オムニバス方式 一部共同 講義1回 演習7回
	特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅠ	<p><授業の概要> 本授業では、学校教育現場で用いられる心理検査、知能検査法について、その理論的背景と検査手法、並びに評価方法を学ぶ。扱う検査はWPPSI-III、WISC-IV及びWAIS-IVを中心に触れる。演習では、実際に検査を実施し、実施結果から得られたデータの解釈とレポートの作成を行う。加えて、事例から指導計画の作成を行うことで、アセスメントに基づいた支援方法と実践的思考力、指導計画作成能力を身に付けることを目指す。</p> <p><到達目標> 特別支援教育に関する心理・教育アセスメント法について、基礎的な知識を理解することができる。</p>	講義2回 演習6回
	特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅡ	<p><授業の概要> 本授業では、子どもを多面的に理解するために、それぞれの検査の長所を活かし、短所を補うため複数の検査を組み合わせるテストバッテリーの組み方を学ぶ。さらに、アセスメントの結果をまとめ、結果に基づき主訴についての指針を具体的に示すレポート作成の仕方を学ぶ。加えて事例から指導案の作成を行うことで、アセスメントに基づいた支援方法と実践的思考力、指導案の作成能力を身に付けることを目指す。</p> <p><到達目標> 心理・教育アセスメントを実施し、結果をまとめ、解釈を行う過程を体験的に理解することができる。</p>	講義2回 演習6回

コース科目 専門科目	特別支援教育コース	インクルーシブ教育実地研究Ⅰ	<p><授業の概要> 特別支援教育コースは特別支援教育に関わる高度な専門的職業人としての教員の育成を目指す。また、本コースで学ぶ学生は、障害に対する様々な知識を持ち、障害・認知・行動特性等に応じた適切な指導ができることはもとより、障害のある児童生徒が一人一人のライフステージを見据えて、安心して学べるためのインクルーシブ教育の推進役としての使命も期待されている。</p> <p>本授業では、特別支援学校のみならず、特別支援学級や通級指導教室、ひいては、通常学級における発達障害児へのアセスメントや指導内容・方法について、インクルーシブ教育という視点から俯瞰するとともに、望ましい環境構成について、その在り方を明らかにする。</p> <p><到達目標> ①学校や保育園におけるインクルーシブ教育を俯瞰し、その現状と課題を明らかにするとともに、望ましい環境について構想できる。 ②一人一人の障害・認知・行動特性等に応じたアセスメントに基づいて、望ましい支援の在り方について構想できる。 ③学校や保育園における望ましいインクルーシブ教育の在り方について提言できる。</p> <p>(共同/全8回) (2 小野寺基史、90 細谷一博、124 齊藤真善、132 片桐正敏、142 戸田竜也)</p>	共同
		インクルーシブ教育実地研究Ⅱ	<p><授業の概要> 本授業では、学校、幼稚園、保育園以外で発達障害児に専門的サービスを提供している関係機関・団体等を俯瞰するとともに、インクルーシブ教育における望ましい環境構成について、その在り方を明らかにする。</p> <p><到達目標> ①発達障害・知的障害・心身に障害のある人等を支援する関係機関・団体等の視察をとおして、それぞれの役割や支援内容・方法等について理解することができる。 ②関係機関・団体等におけるインクルーシブ教育の実際を俯瞰するとともに、現状と課題を把握することができる。 ③関係機関・団体等におけるインクルーシブ教育の在り方について構想することができる。</p> <p>(共同/全8回) (2 小野寺基史、90 細谷一博、124 齊藤真善、132 片桐正敏、142 戸田竜也)</p>	共同
		子ども・地域のアセスメントの理論と保健教育	<p><授業の概要> 個人、集団、組織のニーズアセスメントの具体的方法ならびに指標に関する知識を習得し、得られたデータに基づいて、ニーズの抽出と要因分析事例を用いた演習を行う。また、把握したニーズから費用対効果、緊急性、重要性等の視点から優先順位の構造化について理解を深め、保健組織活動の計画を提案する。</p> <p><到達目標> 子どもが抱える健康課題の予防、改善に向けて、子どものニーズと社会・文化環境等、健康に関するデータを収集し保健組織活動に反映することができる。</p>	講義4回 演習4回
		学校医療安全と子どもの安全への実践的対応	<p><授業の概要> 近年の学校事故の特徴や実態を様々な事例や資料を調査・研究することにより把握し、学校で行っている事故対応における課題を明確化する。さらに、明確化した課題に応じた学校での緊急時の対応について、教職員全員が連携してチーム学校として支援することができるように、医学的・看護学的観点から支援方法を検討する。</p> <p><到達目標> 学校で発生する事故や傷病に関する具体的事例を学び、子どもの安全安心を守るための支援方法を提案することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (68 山田玲子/6回) 学校事故の特徴や実態の把握を行い、学校での事故対応における課題を明確化する。その課題を看護学的観点で分析し、学校での緊急時の対応を看護学的側面から考察する。</p> <p>(207 羽賀将衛/2回) 学校での事故の発生要因及び実施された対応における課題を医学的観点で分析し、学校での事故の発生防止及び発生時の適切な対応を医学的側面から考察する。</p>	オムニバス方式 講義4回 演習4回

<p>コース科目</p> <p>専門科目</p> <p>養護教育コース</p>	<p>学校における保健教育の意義と課題</p>	<p><授業の概要></p> <p>平成29年、平成30年に告示された学習指導要領及びその解説、「小学校保健教育参考資料改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引」等に基づいて、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメントの視点を生かした保健教育の基本的な考え方を概観し、学校における保健教育の意義を明確にするともに、今後の課題を明確にする。</p> <p><到達目標></p> <p>学校において、保健教育を進めていく意義を理解し、保健教育を推進していく上での課題を理解する。</p>	
	<p>カリキュラム・マネジメントを踏まえた保健教育の実際</p>	<p><授業の概要></p> <p>平成29年、平成30年に告示された学習指導要領及びその解説、「小学校保健教育参考資料改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引」等に基づいて、学級担任や保健体育をはじめとした教科担任等が行う保健教育の事例を検討し、カリキュラム・マネジメントや想定される児童生徒の実態等を踏まえて、教育課程や授業の改善案を考える。</p> <p><到達目標></p> <p>カリキュラム・マネジメント等を踏まえた保健教育の事例に基づいて、教育課程や授業の改善案を作成することができる。</p>	
	<p>保健組織活動とエンパワメント</p>	<p><授業の概要></p> <p>ニーズアセスメントの評価に基づいた効果的、効率的な保健組織活動の実践につなげるために、それに関わる個人、家庭、グループ、組織等のエンパワメントの引き出し方について、コミュニケーション、プレゼンテーション、メディアの活用等の理論に関する知識を習得するとともに、効果評価について理解を深める。また、これらの理論を学校現場で実践できるようロールプレイ等を用いた演習を行う。</p> <p><到達目標></p> <p>子どもが抱える健康課題の予防、改善するための保健組織活動の重要性、具体的な提案について認めてもらい、支持を取り付けることができる。</p>	<p>講義4回 演習4回</p>
	<p>学校における医学的課題と探索的研究</p>	<p><授業の概要></p> <p>医学系学術論文について種類、構成、背景、批判的読解等について総論・各論的に講義・演習を行い論文学としての要点を学ぶ。これらを踏まえて、学校における医学系学術論文の精読によって、養護教諭の実践活動に即した課題に気付き、問題提起を批判的に行う。根拠に基づき学校現場に応用できる研究的解決方法論の習得を目標に、演習を通して研究スキルの習得を行う。</p> <p><到達目標></p> <p>学校小児医学や臨床医学等に関連する研究成果を講読し、批判的に検討することによって新たな臨床的・研究的視点を学び、論文作成へアプローチすることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(44 岡田忠雄/6回) 医学系学術論文について総論的・各論に講義を行い論文学としての要点を学ぶ。学校における小児医学系学術論文の精読によって、養護教諭の実践活動に即した課題に気付き、問題提起を批判的に行う。よく考え対話して、根拠に基づいて学校現場に応用できる研究的解決方法論の習得を目標に、演習を通して研究スキルの習得と論文作成への糧とする。</p> <p>(207 羽賀将衛/2回) 学校保健に関する臨床医学系学術論文の精読によって、養護教諭の実践活動に即した課題に気付き、問題提起を批判的に行う。よく考え対話して、根拠に基づいて学校現場に応用できる研究的解決方法論の習得を目標に、演習を通して研究スキルの習得と論文作成への糧とする。</p>	<p>オムニバス方式 講義2回 演習6回</p>
<p>養護教諭の実践と研究的視点</p>	<p><授業の概要></p> <p>養護教諭の実践活動に関する研究的視点を養うために、学校保健に関連する先行研究のクリティークや自らの養護実践の振り返りを行う。その演習を通して、適切な研究課題を設定するとともに、養護実践研究のスキルを習得する。</p> <p><到達目標></p> <p>養護教諭の実践に関連する研究、特に病気をもちながら学ぶ子どもの支援や学校救急処置に関連する研究成果を講読し、批判的に検討することによって新たな臨床的・研究的視点を学び、論文作成へアプローチすることができる。</p>	<p>講義1回 演習7回</p>	

コース科目 専門科目	養護教育コース	学校医療安全とリスク・クライシスマネジメント	<p><授業の概要> 学校事故における障害・死亡等の医療リスクを誌上等で検討し、養護教諭等が抱える医療リスク・クライシスマネジメントを学ぶ。医学的法的リスク（民事・刑事判例）から養護教諭等におけるバイアス・エラーを省察する。学校安全における医学的課題を明確化して論述することで、理論と実践の往還から臨床能力スキル向上を図る。まとめとして、明確化した学校医療安全課題に応じた最適なリスク・クライシスマネジメント方法を発表する。</p> <p><到達目標> 学校で発生する事故や傷病に関するヒヤリハット及び、訴訟判例から養護教諭が抱える医療・法的リスクを学び、そのリスク・クライシスマネジメント方法を提案することができる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回） （44 岡田忠雄／6回）学校事故における障害・死亡等の医療リスク・クライシスマネジメントを探究する。学校における小児医学的法的リスクとして各判例を調査して、養護教諭等におけるバイアス・エラーを考察する。根拠に基づき科学的態度で、学校安全における小児医学的課題を明確化して論述・発表することにより、臨床能力スキル向上を図る。</p> <p>（207 羽賀将衛／2回）学校における救急医学的法的リスクとして各判例を調査して、養護教諭等におけるバイアス・エラーを考察する。根拠に基づき科学的態度で、学校安全における救急医学的課題を明確化して論述・発表することにより、子どもの命を守る臨床能力スキル向上を図る。</p>	オムニバス方式 講義2回 演習6回
		養護教諭の教育活動とキャリア形成	<p><授業の概要> 研究文献や実践文献をもとにした養護の意味を講義演習し、養護教諭の教育活動の意義を押さえる。子どもの健康実態に即した支援事例の検討や教育観、養護観形成の方策の検討を行い、養護教諭のキャリア発達と養護教諭育成指標の対比を通して、養護教諭としての実践力向上を目指すキャリアデザインの具体を考察、評価できる。</p> <p><到達目標> 養護教育の意義を教育活動における健康管理と健康教育の活動から見出し、自らの教育観・養護観を形成し実現する力量を形成し、評価することができる。</p>	講義1回 演習7回
		保健室経営の位置づけ及び理論と実践	<p><授業の概要> 保健室及び養護教諭が成立した歴史的背景、社会や地域の求めるものに対応が求められることを学修し、子どもの心身の健康を支える根幹として保健室経営の理論的背景を講義・演習し、保健室の機能や子どもの健康の実態に即した保健室経営案の作成、評価を行う。</p> <p><到達目標> 保健室及び養護教諭が成立した歴史的背景を理解し、教育目標・学校目標や子どもの健康の実態に即した保健室経営案を構想することができる。</p>	講義2回 演習6回
		生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題	<p><授業の概要> 健康相談に関する歴史的背景や成立の経緯、理論・概念・周辺の用語について学修する。さらに、健康相談に関する研究事例、研究実践の理解からその課題を理解し、学校内外の連携による支援方法を検討して実践的な知識及び技能を修得する。</p> <p><到達目標> 生徒指導と関連の深い健康相談に関する代表的文献を講読することによって、現段階における研究成果の到達点を学び、子どもや関係者への支援方法を提案することができる。</p>	講義1回 演習7回
		複教コース対応 保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	<p><授業の概要> 近年、教育をめぐる問題は多様化、複雑化しており、学校だけではその解決は難しく、保護者・地域住民・関係機関等との連携、協働体制づくりが求められている。本講ではまず、保護者や地域住民等が、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する新しいタイプの学校「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」について概説し事例検討を行う。次に、学校支援地域本部、地域学校協働本部との連携について取り上げる。また、保護者との連携の実践事例について検討する。多様な事例から、学校と保護者・地域住民等との連携、協働体制について考察する。</p> <p><到達目標> 学校経営における保護者・地域住民・関係機関等との連携及び協働体制づくりについて多様な事例をもとに考察することができる。</p>	講義5回 演習3回

コース科目 専門科目 複数コース対応	いじめに関する理論と指導の実際	<p><授業の概要> 教育現場における「いじめ」の問題は、混迷をきたしている。それは実態把握の困難さという実際上の問題だけではなく、何をもって「いじめ」とするか、「いじめ」に対しどのように対処すべきかといった議論や認識が、公的な言説と教育現場においてしばしば乖離しているという問題がある。その結果ともすれば公的に語られるところの「いじめ」観が独り歩きすることすらあり、「いじめ」問題のさらなる混迷化と教育現場の混乱を招いているといえよう。そこで本授業では、一般化可能な論点としていじめの現状とそのメカニズムについて理解をした上で、「いじめ」といえる事象についての理論的理解を進めていく。その上で、今日の社会における「いじめ」論の問題を吟味し相対化しつつ、個別の教育現場における「いじめ」の解決に向けた手立てについて、構想をたてていく。</p> <p><到達目標> いじめの現状や課題、予防や早期発見の取り組み等について近年の研究データ等から学び、解決に向けた方法を検討することができる。</p>	講義4回 演習4回
	学校教育の現代的課題とその対応	<p><授業の概要> 本授業は学校教育の現代的課題について、主として教育社会学、臨床教育学の観点から議論を展開する。まず今日問題となっている教師の多忙化を踏まえつつ、チーム学校としての経営の在り方について理解を深めていく。さらに地域資源を活用した学校改善や教員のサービスと危機対応の在り方、教員の働き方改革の方向性といったトピックをもとに、これからの学校教育の在り方について議論を展開していく。さらに世間で大きく問題化された事例を再検証することで、組織としての学校の在り方について議論を進めていくとともに、「学校教育の現代的課題」に対する考察を行っていく。</p> <p><到達目標> 社会に開かれた教育課程を実現するために、学校として必要となる知見を学び、推進のための具体的力量を高めることができる。</p>	講義4回 演習4回
	校務の情報化推進の理論と実践	<p><授業の概要> 子どもの学習履歴の蓄積や校務の効率化に向けて取り組まれている校務の情報化の実際や課題を概観するとともに、校務支援システムの効果的な運用方法、組織開発の理論、システムを利用する教職員のニーズ、システム導入に伴う課題への対応方策等を検討し、自校で推進する際の見通しと配慮事項を理解する。</p> <p><到達目標> 学校校務の効率的な推進のために、教育委員会が導入を進めているシステムを適切に活用する方策を検討することができる。</p>	講義6回 演習2回
	校種間接続カリキュラム構築の理論と実践	<p><授業の概要> 今回の学習指導要領の改訂においては、幼児教育から高等学校を卒業する段階までで身に付けておくべき資質・能力が明らかにされている。そこで、必要とされているのが校種間接続カリキュラムである。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から小学校低学年への小1プロブレムを解消させる滑らかな接続の在り方、不登校などの不適応が増加するなどの中1ギャップ解消のための接続の在り方について理解する。特に、幼保小連携のためのアプローチプログラムとスタートカリキュラムの作成、小・中一貫のカリキュラムの作成を通して、幼児児童生徒の資質能力の向上を実現するカリキュラム・マネジメントの在り方について考える。</p> <p><到達目標> 幼稚園・保育園・こども園等と小学校間、小・中学校間をつなぐカリキュラムの開発を進めるとともに、その意義と継続のための方策の検討に取り組むことができる。</p>	講義4回 演習4回
	幼保小の連携と生活科教育	<p><授業の概要> 幼保小の連携の経緯・理念に関連して幼保小の連携の必要性や連携をデザインする原則について幼稚園教育要領や学習指導要領の記述から理解する。また、幼児教育・アプローチカリキュラムと生活科・スタートカリキュラムの校正と双方の接点について、アプローチ及びスタートカリキュラムの実践事例を参照に整理する。さらに、アプローチ及びスタートカリキュラムのカリキュラムを構築するマネジメントに関連して、連携推進体制の構築の仕方を事例から学ぶと共に、カリキュラムや指導案の作成法を演習を通して理解する。</p> <p><到達目標> 幼稚園・保育園と小学校とを連携させる理念を理解するとともに、幼児教育・アプローチカリキュラムと生活科・スタートカリキュラムを接続させた幼保小連携のカリキュラム（指導計画）・授業を構想することができる。</p>	講義5回 演習3回

コース科目 専門科目 複数コース対応	学校における外国語教育の推進	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語教育の充実に向けた背景と課題 ・中学校、高等学校における英語教育の充実に向けた背景と課題 ・英語教育における学校間連携 ・英語教育の充実と教師の成長 <p><到達目標></p> <p>教育の専門家として、新たな教育課題への対応力を育成するために、外国語教育の推進について理解し、小学校・中学校・高等学校段階でどのような外国語教育、特に英語教育の充実のために必要な背景や課題を理解し、実践的な視点から考察することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 石塚博規/2回) 中高での英語教育の充実に向けて、英語の授業研究の進め方について歴史的な考察と利用可能な方法についての講義及び量的な英語の授業分析の具体的な方法を使った演習を行う。</p> <p>(18 萬谷隆一/4回) 小学校英語に関わる導入経緯と現状を概観し、外国語活動及び外国語科における話す・聞くことの指導及び読み書きの指導について、児童の発達段階に合わせた指導の考え方と方法について検討する。また小学校と中学校との連携についても検討する。</p> <p>(92 志村昭暢/2回) 英語教育の指導法として注目されている、タスク重視の指導法について、中高の教科書で扱われている活動をタスク重視にする方法を議論する。また、学校間連携と教師の成長について、言語教師認知の観点からその特徴について考えて行く。</p>	オムニバス方式
	教育相談のケース・スタディ	<p><授業の概要></p> <p>現在の学校現場において教育相談がどのように行われているのかを素材としながら、その理論的な背景を学び、生徒指導や進路指導、特別支援教育など他領域との関連について、理解を深める。そして、いくつかの典型的なケースを挙げ、個別的、集団的なアプローチを活用するためのスキルを、ロールプレイなどを通して実践的に習得する。</p> <p><到達目標></p> <p>学校における教育相談の実際について知り、演習等を通してスキルの向上を図ることができる。</p>	講義2回 演習6回
	生徒指導のケース・スタディ	<p><授業の概要></p> <p>具体的な事例や(モデル)ケースの検討に即して、生徒指導・生活指導の実際について学ぶとともに、そうした働きかけや指導が必要となる理論的な背景について学ぶ。また、そうした理論的な背景・根拠に根ざした生徒指導・生活指導に関わる技法を、グループワークやディスカッションなどを通して共有し、教師としての指導力を身に付けることを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>学校における生徒指導の実際について知り、演習等を通してスキルの向上を図ることができる。</p>	講義4回 演習4回
	教育調査のための統計 I	<p><授業の概要></p> <p>教師は教育活動の評価だけでなく、児童生徒の生活状況や学校適応の把握など、学校での様々な場面において、適切に情報を収集し、分析できることが求められている。この授業では、実際にデータを解析し、解析結果の表現方法を学ぶことで、基本的な統計量の意味を理解し、それらをどのように使うか体験的に学ぶ。これらを通して統計的リテラシーを身に付け、統計的資料を的確に理解し、自らの教育活動の改善に活用できるようになることを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>教育活動に必要な統計的知識や手法を習得し、教育実践に関わる統計資料を的確に理解するとともに、習得した知識や手法を自身の学校現場の分析に活用することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(109 懸田孝一/3回) クロス集計とχ^2検定及び調査票の設計などを担当する。</p> <p>(110 川端美穂/2回) 相関分析の基礎及び推測統計と統計的検定などを担当する。</p> <p>(129 宮崎拓弥/3回) 統計解析の目的と尺度水準及びデータ分析の基本的事項などを担当する。</p>	一部オムニバス方式 講義4回 演習4回

<p>コース科目</p> <p>プロジェクト科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>複数コース対応</p> <p>教育調査のための統計Ⅱ</p>	<p><授業の概要></p> <p>この授業は「教育調査のための統計Ⅰ」を受講した人を対象に、さらに実践的に統計解析ができるようになることを目標とする。具体的には、分散分析や因子分析、重回帰分析などの各種統計解析の意味だけでなく、統計ソフトの使い方や結果の表現方法なども体験的に学ぶことにより、自らが収集したデータを正しく分析し、適切に解釈・表現するための知識とスキルを身に付ける。これらを通して、自らの教育活動で統計解析を積極的に活用できるようになることを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>自らの教育実践に関わるデータを目的にふさわしい方法で分析し、結果を適切に解釈し表現する方法を習得することで、自身の学校現場での教育活動に調査結果を活用することができる。</p>	<p>講義4回 演習4回</p>
	<p>特別支援教育コース以外</p>	<p>教育実践研究プロジェクトⅠ</p>	<p><授業の概要></p> <p>教育実践研究プロジェクトでは、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。</p> <p>教育実践研究プロジェクトⅠでは、教育現場における課題についての情報収集とディスカッション、追究する教育課題の明確化とディスカッションを通じた検討、教育課題に関係する情報収集と解決に向けた課題追究の方法の検討等を行う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が追究する教育現場の課題を明確化することができる。 ・実習科目との連携を図りながら、追究する課題を的確にとらえることができる。 ・追究する課題に関連する文献や情報を収集し、解決への方向性を構想することができる。 	
		<p>教育実践研究プロジェクトⅡ</p>	<p><授業の概要></p> <p>教育実践研究プロジェクトⅡは、実習の振り返りによる教育課題の理解の深化、他者とのディスカッションを通じた追究方法の検討、理論研究を援用した課題解決のアイデアの創出等を行う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究する教育課題について、実習科目を通して、実態を把握することができる。 ・実習を振り返り、他者との議論を通して、自己の探究を深めることができる。 ・教育課題に関する理論と関連させ、課題解決に向けたアイデアを創出できる。 	
		<p>教育実践研究プロジェクトⅢ</p>	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課題に対する解決のアイデアの検討 ・実習を通じた検証と、ディスカッションを通じた研究成果の検討 ・教育課題の追究の成果のまとめとプレゼンテーション <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究する教育課題について、解決に向けたアイデアを振り返り、改善することができる。 ・実習を通じた検証を行い、解決に向けた見通しについて議論することができる。 ・教育課題の解決に関する追究の成果をまとめ、他者に発信することができる。 	
<p>特別支援教育コース</p>	<p>教育実践研究プロジェクト（特別支援教育）Ⅰ</p>	<p><授業の概要></p> <p>教育実践研究プロジェクト（特別支援教育）では、理論と実践を往還させることにより、教育現場における課題を的確に捉え、主体的に解決する資質や能力を育成することをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場における課題についての情報収集とディスカッション ・追究する課題の明確化とディスカッションを通じた検討 ・課題に関係する情報収集と解決に向けた研究方法の検討 <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が追究する教育現場の課題を明確化することができる。 ・実習科目との連携を図りながら、追究する課題を的確にとらえることができる。 ・追究する課題に関連する文献や情報を収集し、解決への方向性を構想することができる。 	<p>講義2回 演習6回</p>	

コース科目	プロジェクト科目	特別支援教育コース	教育実践研究プロジェクト (特別支援教育) II	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる各自の研究課題の深化 ・他者とのディスカッションを通じた研究方法の検討 ・理論研究を援用した課題解決のアイデアの創出 <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究課題について、実習科目を通して、実態を把握することができる。 ・実習を振り返り、他者との議論を通して、自己の探究を深めることができる。 ・研究課題に関する理論と関連させ、課題解決に向けたアイデアを創出できる。 	
		特別支援教育コース	教育実践研究プロジェクト (特別支援教育) III	<p><授業の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究課題に対する課題解決のアイデアの検討 ・実習を通じた検証と、ディスカッションを通じた研究成果の検討 ・研究成果のまとめとプレゼンテーション <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究課題について、解決に向けたアイデアを振り返り、改善することができる。 ・実習を通じた検証を行い、解決に向けた見通しについて議論することができる。 ・研究課題に関する研究の成果をまとめ、他者に発信することができる。 	
	演習科目	全コース	実践論文	<p><授業の概要></p> <p>「教育実践研究実習 I・II」及び「教育実践研究プロジェクト I・II・III」、並びに、「教育実践研究実習(特別支援教育) I・II」及び「教育実践研究プロジェクト(特別支援教育) I・II・III」の成果と課題、理論的・実践的な先行研究を踏まえて、自らが設定した研究課題について実践的・実証的に論文としてまとめる。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場における教育課題を解決するための方法論を習得するとともに、エビデンスをもとに実践の成果と課題をまとめることができる。 ・学校現場における諸課題について、広い視野から分析し、解決にあたることができる。 ・教育課題の解決にあたって、教師個人のみならず、学校内外の協働体制で取組を推進するための知識や実践力を身に付ける。 	
実習科目	特別支援教育コース以外	特別支援教育コース	教育実践研究実習 I	<p><授業の概要></p> <p>本実習では、配属校における授業実践及び授業補助のみならず、ジョブシャドローイングの観点から学校行事、校内研究会等にも参加する。実習と連動して行うプロジェクト科目において実習授業や事例検討を行い、理論と実践を往還・融合することを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>「子ども理解・学級経営コース」「教科指導・授業開発コース」 「養護教育コース」の学生は、児童生徒を深く理解する力、授業をとおして児童生徒の深い学びをデザインする力等の実践的指導力、自らの実践を省察し、より良い実践を探究する実践的研究力の育成を目指す。</p> <p>「学校組織マネジメントコース」及び「教職キャリア形成・研修デザインコース」の学生は、勤務校の学校改革や授業改善、人材育成等に資する研究課題を焦点化するとともに、学校教育目標を具現化するための具体的提案や学校課題の解決を図ることができるスクールリーダーの育成を目指す。</p>	
		特別支援教育コース以外	教育実践研究実習 II	<p><授業の概要></p> <p>本実習では、配属校における授業実践及び授業補助のみならず、ジョブシャドローイングの観点から学校行事、校内研究会等にも参加する。実習と連動して行うプロジェクト科目において実習授業や事例検討を行い、理論と実践を往還・融合することを目指す。</p> <p><到達目標></p> <p>「子ども理解・学級経営コース」「教科指導・授業開発コース」 「養護教育コース」の学生は、附属学校で行う教育実践研究実習 I を基盤としつつ、本実習を行う公立学校の実態に即して、児童生徒を深く理解する力、授業をとおして児童生徒の深い学びをデザインする力等の実践的指導力、自らの実践を省察し、よりよい実践を探究する実践的研究力の育成を目指す。</p> <p>「学校組織マネジメントコース」及び「教職キャリア形成・研修デザインコース」の学生は、勤務校の学校改革や授業改善、人材育成等に資する研究課題を焦点化するとともに、学校教育目標を具現化するための具体的提案や学校課題の解決を図ることができるスクールリーダーの育成を目指す。</p>	

実習科目	特別支援教育コース	教育実践研究実習 (特別支援教育) I	<p><授業の概要></p> <p>①実習校に在籍している個別の教育的支援が必要な児童生徒に対して、障害の内容や程度、認知や行動の特性をアセスメントし、適切な指導内容や方法を検討する。</p> <p>②実習校で取り組まれているインクルーシブ教育の実際を把握し、取組の成果や課題を整理する。</p> <p>③在籍児童生徒の学びの特性を明らかにし、一人一人のニーズに応じた授業を構想・提案・実施し、更なる学習指導力を育成する。</p> <p>④自らの研究課題を实践、追究する。</p> <p><到達目標></p> <p>障害のある児童生徒一人一人への適切なアセスメント力と望ましい指導力の育成に重点を置く。学部直進者は、配属学級の指導教員へのジョブシャドイング等とおして、自らの課題解決のための方途を明確化することを目標とする。現職教員は、実習校における自らの実践を省察しながら、新たな課題に気付き、組織として課題を解決するための具体的方策等を検討することを目標とする。</p>	
		教育実践研究実習 (特別支援教育) II	<p><授業の概要></p> <p>①個別の教育的支援が必要な児童生徒に対して、障害の内容や程度、認知や行動の特性をアセスメントし、同僚性を発揮しながら、望ましい指導内容や方法を提案し、確かな指導・支援を行う。</p> <p>②自らの実践と理論を往還させながら、校内支援委員会等において、望ましい支援策等について構想・提案する。</p> <p>③インクルーシブ教育の理念に基づいて、学校環境の改善について提案・推進する。</p> <p>④障害のある子どもの学びの特性に応じた授業を構想・公開する。</p> <p>⑤実習 I で実践、追究してきた研究課題を整理し、発表する。</p> <p><到達目標></p> <p>「教育実践研究実習 I」で得られた成果と課題を基盤としながら、児童生徒一人一人の自立活動を促進するための実践的指導力を養う。学部直進者は、自己の課題を踏まえ、課題解決のための方途を明確化する。現職教員は、組織として課題を解決するための具体的方策等を検討する。また、必要に応じて、通常学級等に在籍する発達障害児等への支援について、助言や教育相談できる力を身に付ける。</p>	

北海道教育大学 設置申請に係わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北海道教育大学				北海道教育大学				
教育学部				教育学部				
教員養成課程	720		- 2,880	教員養成課程	720		- 2,880	
国際地域学科	285		- 1,140	国際地域学科	285		- 1,140	
芸術・スポーツ文化学科	180		- 720	芸術・スポーツ文化学科	180		- 720	
計	1,185		4,740	計	1,185		4,740	
北海道教育大学大学院				北海道教育大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
修士課程				修士課程				
学校教育専攻	15		- 30		0		- 0	令和3年4月学生募集停止
教科教育専攻	61		- 122		0		- 0	令和3年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻	9		- 18	学校臨床心理専攻	9		- 18	
専門職学位課程				専門職学位課程				
高度教職実践専攻	45		- 90	高度教職実践専攻	80		- 160	研究科の専攻の設置(事前伺い)
計	130		260	計	89		178	